

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
英語 I		野田 明	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	現代英語で書かれた論説やストーリーを題材として使用します。 主に Reading 力を伸ばすことを目的とします。高校までに学習した文法事項、構文などを実際の文章の中で確認しつつ、その応用と読解力の強化を図ります。						
到達目標	英文の大意を把握するとともに、表現や文体の違いも理解することができる。						
回	学習内容			回	学習内容		
1	イントロダクション			16	News Literacy 本文前半		
2	Space Invaders 本文前半			17	News Literacy 本文後半		
3	Space Invaders 本文後半			18	News Literacy 練習問題		
4	Space Invaders 練習問題			19	Hayabusa-2 本文前半		
5	Food Loss and Food Waste 本文前半			20	Hayabusa-2 本文後半		
6	Food Loss and Food Waste 本文後半			21	Hayabusa-2 練習問題		
7	Food Loss and Food Waste 演習問題			22	Dr. Naoyuki Kawahara and Rocinantes 本文前半		
8	Soft Technology 本文前半			23	Dr. Naoyuki Kawahara and Rocinantes 本文後半		
9	Soft Technology 本文後半			24	Dr. Naoyuki Kawahara and Rocinantes 練習問題		
10	Soft Technology 練習問題			25	Biomimicry 本文前半		
11	The Quest for Clean Power 本文前半			26	Biomimicry 本文後半		
12	The Quest for Clean Power 本文後半			27	Biomimicry 練習問題		
13	The Quest for Clean Power 練習問題			28	What Plagues Us 本文前半		
14	Robot Project 本文前半			29	What Plagues Us 本文後半		
15	Robot Project 本文後半、練習問題			30	What Plagues Us 練習問題 学修内容の振り返り		
予習内容 復習内容	決められた範囲について、知らない単語の意味については辞書で調べてから出席する。 授業後は学習した英文の内容が理解できたかを確認しておく。						
教科書	松尾秀樹他『リーディング・インサイト』（三修社）						
成績評価	授業への積極的な取り組み 30%、期末試験 70%						
実務経験							
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
英語 I		萩 三恵	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	ニュースやテレビ番組でしばしば取り上げられるトピックに関するエッセイを、次の4つの観点から読みます。教科書の THE LIVING WORLD では動物や生態系などの知られざる営みについて、THE NATURAL WORLD ではエネルギーや環境と人間の関りに関する問題について、THE TECHNOLOGICAL WORLD では情報技術の発展と人間の生活の変化への対応について、THE WORLD BEYOND では遙かかなたの宇宙開発などについて、我々人類が直面している様々な問題を再確認して理解を深めます。						
到達目標	① 英文の構造を十分に理解できる。 ② 標準的な難易度の長文を、辞書を使いながら読むことができる。 ③ 標準的な難易度の長文の内容を理解することができる。						
回	学習内容			回	学習内容		
1	ガイダンス			16	Unit11 電子書籍①：本文		
2	Unit 1 動物たちの眠り①：本文			17	Unit11 電子書籍②：問題		
3	Unit 1 動物たちの眠り②：問題			18	Unit12 モノのインターネット①：本文		
4	Unit 2 消滅種の危機①：本文			19	Unit12 モノのインターネット②：問題		
5	Unit 2 消滅種の危機②：問題			20	Unit13 電子商取引の世界①：本文		
6	Unit 3 ミツバチがいなくなったら①：本文			21	Unit13 電子商取引の世界②：問題		
7	Unit 3 ミツバチがいなくなったら②：問題			22	後期中間試験（出題範囲：Unit11～14）と第16回から21回までのまとめ		
8	前期中間試験（出題範囲：Unit1～4）と第2回から第7回までのまとめ			23	Unit16 これからの月面開発①：本文		
9	Unit 6 クリーンエネルギー①：本文			24	Unit16 これからの月面開発②：問題		
10	Unit 6 クリーンエネルギー②：問題			25	Unit17 ハヤブサの偉業①：本文		
11	Unit 7 太陽光発電①：本文			26	Unit17 ハヤブサの偉業②：問題		
12	Unit 7 太陽光発電②：問題			27	Unit18 宇宙開発競争①：本文		
13	Unit 8 水の重要性①：本文			28	Unit18 宇宙開発競争②：問題		
14	Unit 8 水の重要性②：問題			29	Unit19 火星の魅力①：本文		
15	Unit 9 深刻な森林破壊の現状①：本文			30	Unit19 火星の魅力②：問題		
予習内容 復習内容	予習：本文の内容把握および単語・熟語に関する学習と問題への解答 復習：本文の内容および単語・熟語の再確認						
教科書	『Science Quest』（成美堂）						
成績評価	・試験：90%、平常点（授業に対する取り組み）：10%の基準で評価する。 ・出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合は、出席不足により成績評価要件を満たしていないと判断し、評価対象外とする。						
実務経験							
その他 特記事項	本授業では予習・復習に対して十分な時間を割く必要があります。次回講義箇所を予習して授業に備え、授業中に質問に対する回答を求められた場合には、授業に対する取り組みの姿勢を見せるよう努めてください。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学DP	学科DP
英語 I		吉岡 みのり	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	環境問題への取り組みや高齢化社会の問題、映画やファッション、メディアやYouTubeなど、現代社会の様々な話題を各ユニット読み切り形式でまとめたテキストを使用する。1つのユニットを2回の授業(1回目はテキスト読解中心、2回目は語彙やリスニングなどの練習問題)で読了する予定。 1ユニット300語程度のリーディング課題の読解を通して、英文の内容を速く的確に把握できる力を養う。各ユニットには内容理解度を問う問題や、簡単な英作文、語彙や文法に関する問題、リスニング問題などが用意されている。様々な課題への取り組みを通して、英語力を総合的に向上させることを目的とする。						
到達目標	①英文の内容を速く的確に把握する力をつける。 ②語彙や文法に関する基礎的な知識を確認する。 ③簡単な英文を作成する力や聞き取る力を養う。						
回	学習内容			回	学習内容		
1	オリエンテーション(授業の進め方・成績評価)			16	前期試験返却・Unit 7 The Gossip Media(副詞)		
2	Unit 1 Millennials－ミレニアル世代			17	Unit 8 Replanting the World's Forest－森林再生		
3	Unit 1 Millennials(現在完了形)			18	Unit 8 Replanting the World's Forest(形容詞・副詞)		
4	Unit 2 Green Profits－環境問題への取り組み			19	Unit 9 Adventure Tourism－旅行		
5	Unit 2 Green Profits(副詞節)			20	Unit 9 Adventure Tourism(前置詞)		
6	Unit 3 Well-Loved Pets－ペット			21	Unit 10 The Cannes Film Festival－映画祭		
7	Unit 3 Well-Loved Pets(形容詞＋前置詞)			22	Unit 10 The Cannes Film Festival(代名詞)		
8	Unit 4 Italy's Fashion Kings－ファッション			23	Unit 11 Giving Away Billions－寄付		
9	Unit 4 Italy's Fashion Kings(副詞)			24	Unit 11 Giving Away Billions(形容詞節)		
10	Unit 5 Viral Marketing－マーケティング			25	Unit 12 Computer Actors－CGI		
11	Unit 5 Viral Marketing(前置詞)			26	Unit 12 Computer Actors(受動態)		
12	Unit 6 TED Talk－TEDトーク			27	Unit 13 New York City－ニューヨーク市		
13	Unit 6 TED Talk(助動詞)			28	Unit 13 New York City(数量詞)		
14	Unit 7 The Gossip Media－ゴシップとメディア			29	Unit 14 Fresh Water－水をめぐる危機		
15	前期のまとめと試験			30	後期のまとめと試験		
予習内容 復習内容	テキストに目を通して単語やイディオムの意味を調べ、内容を一定程度理解して出席する。 提出課題がある場合は課題に取り組み、読了したテキスト内容を確認して次回分の予習につなげる。						
教科書	『リーディング・パス 2』(南雲堂)						
成績評価	試験(前期と後期に実施)50%＋平常点(出席状況、課題提出、学習態度、発言等)30%＋小テスト20%(各ユニットを学習した後実施する) 前期後期それぞれ3分の2以上の出席がない場合は評価の対象外とする。						
実務経験							
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
中国語 I		花尻 奈緒子	演習	2		4	3
授業概要 授業目的		中国語は中国以外にもアジアの各国・地域で公用語とされ、また第二外国語としても世界中に学習者を持つ言語です。この授業では、中国語の発音方法を習得するほか、基礎的な文法・単語、中国語の背景にある文化や社会についても学びます。					
到達目標		中国語で簡単な文を作文し、かつ正しい字で表記できるようになり、単純な文を聞いて意味を理解できるようになることを目標とします。					
回	学習内容			回	学習内容		
1	ガイダンス・声調			16	前期の復習・形容詞述語文		
2	単母音と複母音			17	年齢の言い方とたずね方・量詞		
3	子音			18	数をたずねる疑問詞・比較の表現		
4	鼻母音・基礎発音総復習			19	中国の通貨・値段のたずね方		
5	軽声・声調の変化			20	年月日と曜日・時刻の表現		
6	アール化・人称代名詞			21	助動詞「想」・連動文		
7	「是」述語文①			22	存在文		
8	「是」述語文②・名前の言い方答え方			23	前置詞①・反復疑問文		
9	動詞述語文			24	完了形		
10	疑問詞疑問文			25	文末につける「了」・前置詞②		
11	副詞「也」・省略疑問文			26	助動詞②・助動詞③		
12	指示詞・助詞「的」			27	二重目的語をとる動詞		
13	副詞「都」・語気助詞			28	進行形・動詞「喜歡」		
14	数字・所有を表す「有」・程度副詞			29	時量補語		
15	前期の総復習			30	後期の総復習		
予習内容 復習内容	予習：教科書の次回に学習する部分を読んでくる。 復習：教科書付属問題を使用し知識を確認する。						
教科書	『シンプルチャイニーズ 北京文法篇』（朝日出版社）						
成績評価	出席時の取り組みの姿勢 50%、前・後期の最終回で行う期末試験 50%で成績評価を行います。						
実務経験							
その他 特記事項	予習復習を欠かさずに行うこと。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
ドイツ語 I		嶋田 宏司	演習	2		4	3
授業概要 授業目的		ドイツ語というゲルマン語から見た、ヨーロッパの言語の概観をえることを目的とします。 これまでの英語の学習を土台にして、新しい言語の学びかたを身につけることを最終目標とします。 参加型の授業のため、年間 10 回を超えて欠席した場合は評価の対象外とします。					
到達目標		1. ドイツ語の文が音声を伴って発音できること。 2. 基礎文法を踏まえて、簡単な作文ができること。 3. 1 と 2 を合わせることで会話の糸口を作ることができること。					
回	学習内容			回	学習内容		
1	ドイツ語と英語の関係について。ドイツ語の文字を発音してみる。			16	Fahrkarte bitte! 形容詞と格変化（1）		
2	Ich reise nach Deutschland. 人称代名詞、動詞の現在人称変化（1）			17	形容詞と格変化（2）		
3	動詞の現在人称変化（2）、文型			18	An der Rezeption 動詞の時制について（三基本形 1）		
4	Wie lange bleiben Sie in Deutschland? 名詞の性、冠詞と格変化（1）			19	動詞の時制について（三基本形 2）		
5	冠詞と格変化（2）、不定冠詞			20	過去、過去分詞（1）		
6	Willkommen in München! 不規則動詞（1）			21	Konzertabend 分離動詞（1）		
7	不規則動詞（2）			22	分離動詞（2）、非分離動詞		
8	定冠詞類（1）			23	zu 不定詞		
9	定冠詞類（2）			24	Im Kaffeehaus 話法の助動詞（1）		
10	不定冠詞類（1）			25	話法の助動詞（2）		
11	不定冠詞類（2）			26	再帰動詞、再帰代名詞（1）		
12	In München gibt es viele Sehenswürdigkeiten. 前置詞			27	再帰動詞、再帰代名詞（2）		
13	前置詞			28	Einchecken bitte! 未来形		
14	Was wünschen Sie? 人称代名詞、目的語の語順			29	完了形		
15	前期の復習			30	後期の復習		
予習内容 復習内容	予習：Google などの音声認識アプリで教科書の本文を読み、発音を確認しておくこと。 復習：教科書の練習を再び解いてみて、一つの文として書き写すこと。そして発音しておくこと。						
教科書	『Deutsch, der erste Schritt ドイツ語、始めてみよう』伊藤真／高橋幸雄／木村高明、同学社						
成績評価	2 回の期末試験（70%）、出席状況、課題への取り組み、積極的な発言や明瞭な発声など（30%）						
実務経験							
その他 特記事項	5 月以降は辞書を持参すること。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
ドイツ語 I		今本 幸平	演習	2		4	3
授業概要 授業目的		初めてドイツ語を学習する人のための科目です。文字（アルファベット）、単語の読み方から始まり、簡単な文の組み立て方や読解を学びます。 教員が文法等の説明をした後、自分で練習問題を解き、答えを口頭で発表することで、文法と発音を身につけます。講義を聴いて板書をノートに書きとるだけという受け身の姿勢ではなく、説明に基づいて自分でやってみて、分からないことは自ら調べる、または質問するという、能動的な受講態度が必要です。					
到達目標		①ドイツ語の単語や簡単な文（ドイツ語検定試験 5 級程度）を音読できる。 ②簡単なドイツ語の文（ドイツ語検定試験 5 級程度）を理解し、自分でも作ることができる。					
回	学習内容			回	学習内容		
1	ガイダンス、アルファベット			16	前期の復習		
2	アルファベットと単語の読み方			17	第 4 課 定冠詞の仲間		
3	単語の読み方（挨拶、数字など）			18	第 4 課 練習問題		
4	第 1 課 文の作り方（動詞について）			19	第 4 課 不定冠詞の仲間		
5	第 1 課 重要な動詞、語順の原則			20	第 4 課 練習問題、会話文		
6	第 1 課 練習問題、会話文			21	第 5 課 名詞の複数形		
7	第 2 課 名詞について（名詞の性別）			22	第 5 課 人称代名詞		
8	第 2 課 名詞の「格」について			23	第 5 課 練習問題、会話文		
9	第 2 課 重要な動詞			24	復習と中間テスト		
10	第 2 課 練習問題、会話文			25	第 6 課 前置詞の使い方		
11	復習と中間テスト			26	第 6 課 練習問題、会話文		
12	第 3 課 不規則動詞			27	第 7 課 形容詞の使い方		
13	第 3 課 不規則動詞の練習問題、命令形			28	第 7 課 練習問題、会話文		
14	第 3 課 練習問題、会話文			29	後期の復習		
15	前期の復習			30	前期・後期の復習		
予習内容 復習内容	予習：学習している「課」に出てくる単語の意味を辞書で調べ、音読する。 復習：授業で出てきた文を音読する。学習した個所の練習問題（宿題）を解き、音読する。						
教科書	①『PANORAMA Deutsch（パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール）』、白水社 ②独和辞典（4 月中は使用しない。詳細は初回講義で説明）※ 5 月以降は必ず①②両方持参すること						
成績評価	前期試験 40%、後期試験 60%程度の割合で成績を出す。授業中に行う小テスト、中間テスト等の点数は参考程度とする。前・後期とも、遅刻・早退した回を除いて 10 回以上講義に出席しないと評価対象外となる。						
実務経験							
その他 特記事項	体育の授業で競技のルールを習っただけでは、その競技ができるようにならないのと同じで、外国語も説明を聴くだけではなく、自分でやってみなくては身につけません。その時、間違えることを気にする必要はありません。むしろ間違えることを通じて学ぶというつもりで取り組んでください。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
フランス語 I		井出 勉	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	フランス語の発音にまず慣れてもらうよう十分に練習します。フランス語は思ったより日本語の中に取り入れられていることがわかり身近に感じられるはずです。実際のコミュニケーションにも対応できる会話文を通して、フランスの文化も紹介します。 また、旅行でも役に立つ日常会話を習得することで、特に仏検 5 級の聞き取り問題にも対応できるようになってもらうことを目的とする。						
到達目標	①仏検 5 級合格レベルの初級文法や、簡単な日常的コミュニケーションを取れるようになること。 ②フランス語を学ぶことを通して、アメリカ文化とは違った、ヨーロッパの異文化を分析・解釈できるようになること。						
回	学習内容		回	学習内容			
1	授業の進め方、フランスの紹介・発音		16	数字（特に 1～20）と年齢			
2	綴り字の読み方・出合ったときの挨拶		17	部分冠詞			
3	発音練習・別れの挨拶		18	飲み物：カフェでの注文・精算の仕方			
4	自己紹介の仕方		19	食べ物：レストランでの注文・精算の仕方			
5	名詞の性と数・不定冠詞		20	～に行く・～から来た			
6	形容詞の性と数		21	所有形容詞・人称代名詞強勢形			
7	特殊な変化の形容詞・定冠詞		22	比較級			
8	基本動詞の活用		23	命令形			
9	3通りの疑問文の作り方		24	曜日と日付けの表記の仕方			
10	指示代名詞・～が好き（大好き）		25	天候・時刻			
11	否定文		26	近接未来・近接過去			
12	動詞～を持つとその慣用表現		27	過去分詞の作り方			
13	疑問形容詞		28	複合過去（助動詞 avoir）			
14	動詞～をするとその慣用表現		29	複合過去（助動詞 être）			
15	前期の総括		30	後期の総括			
予習内容 復習内容	予習：配布した講義資料に基づき、教科書付属の CD を聞いたりしておくこと。 復習：前回の講義ノートなどに目を通し、疑問点などを明らかにしておくこと。 CD も繰り返し聞き、自宅でも発音練習を各自でやっておくこと。						
教科書	藤田裕二『パリのクール・ジャパン』朝日出版社						
成績評価	平常点（積極的な学習態度を評価する）30%、試験（中間・期末）70% 年間 10 回を超える欠席をした場合、評価の対象外とします。						
実務経験							
その他 特記事項	辞書・参考文献については、第 1 回の講義や講義中に随時紹介する。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
英会話		ジョン・リチャーズ	演習	2		4	3
授業概要 授業目的		This course is designed for beginner to low-intermediate students and will focus on spoken English. The goal of this course is to give students the opportunity to challenge their English ability in a positive environment while also building upon the fundamental skills of reading, hearing, and speaking. Basic grammar will be taught and reviewed over the duration of this course. Both individual and group projects will be assigned in this course. As much as possible students are expected to speak only English in this course					
到達目標		My goal is to encourage students to develop their communication skills and to gain the confidence necessary to maintain an intermediate level of communication in English.					
回	学習内容			回	学習内容		
1	Introductions and orientation			16	Unit 7 Then and now		
2	Assessment of Students Abilities			17	Unit 7 Then and now		
3	Unit 1 Hello Everybody			18	Unit 8 A date to remember		
4	Unit 1 Hello Everybody			19	Unit 8 A date to remember		
5	Unit 2 Meeting people			20	Unit 9 Food you like!		
6	Unit 2 Meeting people			21	Unit 9 Food you like!		
7	Unit 3 The world of work			22	Unit 10 Looking Good!		
8	Unit 3 The world of work			23	Unit 10 Looking Good!		
9	Unit 4 Take it easy!			24	Unit 11 Life is an adventure		
10	Unit 4 Take it easy!			25	Unit 11 Life is an adventure		
11	Unit 5 Where do you live?			26	Unit 12 Have you ever?		
12	Unit 5 Where do you live?			27	Unit 12 Have you ever?		
13	Unit 6 Can you speak English?			28	This day is reserved for unfinished work in the textbook.		
14	Unit 6 Can you speak English?			29	This day is reserved for unfinished work in the textbook.		
15	End of first semester test			30	End of second semester test		
予習内容 復習内容		To prepare for each lesson students will be encouraged to review their former lessons. Also, students will be given homework on a weekly basis to help them retain their lessons. The beginning of each lesson will also be given to review of former lessons.					
教科書		American Headway 1 (3rd edition. ISBN 978-0-19-472565-1) By Riz and John Soars (Oxford University Press)					
成績評価		Homework -50% Mid Term Exam - 20% Final Exam - 30%					
実務経験							
その他 特記事項		It is my experience that an active, positive atmosphere is necessary for learning to speak a new language. Students are expected to maintain a supportive atmosphere so that everyone may advance. Mistakes during class are not to be feared as they are part of the learning process.					

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
英語講読		村井 美代子	演習	2		4	3
授業概要 授業目的		世界のメディアから発信された、政治、経済、文化、科学、スポーツなどの様々な話題を、各ユニット読み切り形式でまとめたテキストを使用する。1つのユニットを2回の授業で読了する予定。 1ユニット400～500語程度のリーディング課題の読解を通して、英文の内容を速く的確に把握できる力を養う。各ユニットには、内容理解度を問う問題や、語彙に関する問題などが用意されている。課題への取り組みを通して、これまでの英語学習の基礎の上に、英文の内容を正確に把握できる実践的な読解力を身に付けることを目的とする。					
到達目標		①400～500語程度の英文内容を速く正確に把握できる実践的な読解力をつける。 ②語彙や文法、イディオムに関する知識を確認し、実践で活用できる応用力をつける。					
回	学習内容			回	学習内容		
1	オリエンテーション（授業の進め方・成績評価）			16	前期試験返却・Unit 10：フランス大統領選挙		
2	Unit 1：気候変動の影響			17	Unit 11：人気の職種		
3	Unit 1・Unit 2：ノーベル物理学賞			18	Unit 11・Unit 12：マッチング・アプリ		
4	Unit 2：ノーベル物理学賞			19	Unit 12：マッチング・アプリ		
5	Unit 3：オリンピック選手と政治			20	Unit 13：中国で離婚率と結婚率低下		
6	Unit 3・Unit 4：プーチンのウクライナ戦争			21	Unit 13・Unit 14：トラック運転手の抗議運動		
7	Unit 4：プーチンのウクライナ戦争			22	Unit 14：トラック運転手の抗議運動		
8	Unit 5：石油王の資産凍結			23	Unit 15：中国とリトアニアの対立		
9	Unit 5・Unit 6：大谷翔平選手			24	Unit 15・Unit 16：有機農法で大惨事に		
10	Unit 6：大谷翔平選手			25	Unit 16：有機農法で大惨事に		
11	Unit 7：日本の労働組合は男性中心			26	Unit 17：トンガの自然災害		
12	Unit 7・Unit 8：シンガポールの死刑反対論			27	Unit 17・Unit 18：ベンガル湾の大洪水		
13	Unit 8：シンガポールの死刑反対論			28	Unit 18：ベンガル湾の大洪水		
14	Unit 9：富裕国の国民の幸福度			29	Unit 19：トルコの超インフレ		
15	Unit 9・Unit10：フランス大統領選挙			30	Unit 19：トルコの超インフレ		
予習内容 復習内容	テキストに目を通して単語やイディオムの意味を調べ、内容を一定程度理解して出席する。 提出課題がある場合は課題に取り組み、読了したテキスト内容を確認して次回分の予習につなげる。						
教科書	『ニュースメディアの英語－2023年度版』（朝日出版）						
成績評価	試験（前期と後期に実施）70％＋平常点（出席状況、課題提出、学習態度、発言等）30％ 前期後期それぞれ3分の2以上の出席がない場合は評価の対象外とする。						
実務経験							
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
実用英語		伊藤 怜	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	TOEIC 受験を意識しつつ、TOEIC 形式の（あるいは、それに類似した）リスニング問題やリーディング問題を解いていきます。その際、正解を導き出すために必要となる語彙や文法事項を基礎から学び、それらを正しく理解することで英語運用能力の向上を目指します。TOEIC の問題に準拠した、テーマ別 20 ユニットの実践的な練習問題を積み重ねることにより、英語の基礎力向上と TOEIC の得点アップにつなげます。ユニット毎に確認小テストを課します。						
到達目標	実践力を身につけ、TOEIC L&R テストで 400 点以上をとることができる。						
回	学習内容			回	学習内容		
1	授業の説明・TOEIC 出題形式の概観			16	前期の復習・前期期末試験の解説		
2	Unit 1: Shopping			17	Unit 11: Office Equipment		
3	Unit 2: Health			18	Unit 12: Entertainment		
4	Unit 3: Travel			19	Unit 13: Personnel Affairs & Job Hunting		
5	ここまでの復習			20	ここまでの復習		
6	Unit 4: Weather			21	Unit 14: Contracts		
7	Unit 5: Communication			22	Unit 15: Shipment & Delivery		
8	Unit 6: Home & Family			23	Unit 16: Meetings		
9	ここまでの復習			24	ここまでの復習		
10	Unit 7: Requests & Negotiation			25	Unit 17: Environment & Energy		
11	Unit 8: Transportation			26	Unit 18: Hotels & Restaurants		
12	ここまでの復習			27	ここまでの復習		
13	Unit 9: Production & Control			28	Unit 19: PR & Advertising		
14	Unit 10: Economy & Management			29	Unit 20: Events & Parties		
15	ここまでの復習			30	ここまでの復習		
予習内容 復習内容	予習：各ユニット Step 1 の単語を確認し、「英語の仕組み」を読み、並び替え問題をやっておく。 復習：授業後に問題をすべて解き直し、次回授業冒頭でおこなう確認小テストの準備をしておく。						
教科書	STEP-BY-STEP PREP FOR THE TOEIC L&R TEST Basic Course TOEIC L&R TEST ステップ式徹底演習〈初級〉編（アルク）						
成績評価	「前期・後期期末試験」50%（各 50 点 計 100 点）＋「小テスト」50%（各 5 点 計 100 点） 出席状況や授業態度は各成績評価のボーダーライン上にある場合の参考資料とする。						
実務経験							
その他 特記事項	・ 毎回出席をとる。前期・後期のどちらかで「欠席 5 回」を超えた場合、評価の対象外とする。 ・ 小テストがある授業回に遅刻・欠席した場合、小テストの受験は認めない。 ・ 授業中の携帯電話その他通信機器の使用は禁じる。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
中国語Ⅱ		花尻 奈緒子	演習	2		4	3
授業概要 授業目的		中国語Ⅰで学習した文法事項を確認しながら、引き続き基礎的な中国語表現を学びます。後期からは2年生むけの教科書をメインに使用し、より発展的な表現を学びます。1年次と異なるのは、簡単な会話や作文など、中国語を実際に使うトレーニングを多めに行う点です。また、中国語の背景にある文化や社会など、異文化理解についても学びます。					
到達目標		中国語の語彙や表現をさらに増やし、中国語を使用した日常的なやりとり、作文ができるようになることを目標とします（中国語検定4～3級レベル）。					
回	学習内容			回	学習内容		
1	ガイダンス・1年次の復習			16	結果補語「給」・「～と同じく」ほか		
2	前置詞「～から／まで」「～へ」・2つの怎么			17	「たとえ～でも」・越来越～・疑問詞＋也/都		
3	様態補語・会話練習			18	「～なので…」・否定の語気・反駁/詰問の語気		
4	経験の表現・動量補語			19	又～又…・逆接表現・只要・「～みたいな」		
5	前置詞「～に」・動詞の重ね形			20	有的～・形容詞の重ね形・可能補語ほか		
6	選択疑問文・持続の表現			21	「～ではなく…だ」・「～からすれば」・持続		
7	疑問詞と疑問文のまとめ・会話練習			22	「まさか～か？」・蓋然性表現・「～さえ」ほか		
8	結果補語			23	形容詞の動詞用法・越～越…・結果補語「住」		
9	受け身の表現・義務の助動詞			24	「～と思う」・要不然・助動詞「敢」ほか		
10	主述述語文・方向補語			25	助動詞「該」・「～してから」・没想到		
11	「把」構文・「要～了」			26	「けっして～ない」・看来・既～也…		
12	「是～的」構文・会話練習			27	只有～才…・連体修飾語		
13	二つの「ちょっと」・禁止表現			28	「～である以上」・関于		
14	使役文			29	是不是・不知道～好		
15	前期の総復習			30	後期の総復習		
予習内容 復習内容		予習：教科書の次回に学習する部分を読んでくる。 復習：教科書付属問題を使用し知識を確認する。					
教科書		『シンプルチャイニーズ 北京文法篇』（朝日出版社）（※1年次の教科書、新規購入不要） および『チャレンジ！ 二年生の中国語（簡明会話版）』（朝日出版社）					
成績評価		出席時の取り組みの姿勢50%、前・後期の最終回で行う期末試験50%で成績評価を行います。					
実務経験							
その他 特記事項		予習復習を欠かさずに行うこと。 ※「中国語Ⅰ」の単位を取得していることを前提に授業を行いますので、中国語の学習経験が無い方には履修をおすすめしません。					

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
ドイツ語Ⅱ		今本 幸平	演習	2		4	3
授業概要 授業目的		「ドイツ語Ⅰ」の単位を修得済み、または同時に履修する方のための科目です。 「ドイツ語Ⅰ」で学んだ文法事項をベースにして、聴き取り、発音、会話、読解などの練習を行い、簡単なドイツ語（ドイツ語検定試験 5 ～ 4 級程度）を使って口頭でのコミュニケーションができるようになることを目指します。					
到達目標		①初歩的なドイツ語（検定試験 5 ～ 4 級程度）を聴いて理解することができる。 ②初歩的なドイツ語を自ら使用することができる。					
回	学習内容		回	学習内容			
1	ガイダンス、発音の復習		16	第 5 課 住まい、値段の表現、数字			
2	発音の復習、挨拶		17	第 5 課 聴き取り、会話練習			
3	第 1 課 挨拶、自己紹介の表現		18	第 5 課 読解、文法の確認			
4	第 1 課 聴き取り、会話練習		19	第 6 課 家族について話す			
5	第 1 課 読解、文法の確認		20	第 6 課 聴き取り、会話練習			
6	第 2 課 職業をたずねる／答える表現、数字		21	第 6 課 読解、文法の確認			
7	第 2 課 聴き取り、会話練習		22	第 7 課 趣味について話す			
8	第 2 課 読解、文法の確認		23	第 7 課 聴き取り、会話練習			
9	第 3 課 友人を紹介する表現		24	第 7 課 読解、文法の確認			
10	第 3 課 聴き取り、会話練習		25	第 8 課 プレゼントをする／探す、数字			
11	第 3 課 読解、文法の確認		26	第 8 課 聴き取り、会話練習			
12	第 4 課 レストランでの会話表現		27	第 8 課 読解、文法の確認			
13	第 4 課 聴き取り、会話練習		28	第 9 課 予定、規則、願望などについて話す			
14	第 4 課 読解、文法の確認		29	第 9 課 聴き取り、会話練習			
15	前期の復習		30	第 9 課 読解、文法の確認			
予習内容 復習内容	予習：学習する「課」に出てくる単語の意味を辞書で調べ、教科書の音声を聴き、音読する。 復習：学んだ表現の音読練習をする。文法について「ドイツ語Ⅰ」の教科書などで復習する。						
教科書	①『Spitze! 1』（シュピッツェ! 1）朝日出版社 ②独和辞典（「ドイツ語Ⅰ」で使用したもの）						
成績評価	前期課題 40%、後期課題 60%程度の割合で成績評価を行う。講義内で行う小テスト等は参考程度（マイナス評価の材料にはしない）。成績評価を受けるには、前後期とも 10 回以上の出席が必要（遅刻・早退した場合を含めない）。						
実務経験							
その他 特記事項	「ドイツ語Ⅰ」の単位を修得済み、または同時に履修する方のみ履修してください。ただし、授業の内容や進度は「ドイツ語Ⅰ」と一致はしていないため、「ドイツ語Ⅰ」でまだ学習していない文法事項も出てくる場合があります。「ドイツ語Ⅰ」と同時に履修する方は、未習事項については教科書や参考書などで自分で調べた上で、分からないことがあれば質問してください。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学DP	学科DP
フランス語Ⅱ		青木 幸美	演習	2		4	3
授業概要 授業目的	フランス語をはじめて学ぶ人のために作られた教科書を用います。したがって、初心者も受講可能です。教科書の表題『C'est bon! セ・ボン!』は「おいしい!」という意味で、各課の話題のテーマは「食」です。最小限の文法事項を理解し、最大限の実践を試みて、フランス語を味わうことが目的です。						
到達目標	フランス語日常会話の基本的表現を使うことができ、自然なリズムで会話をするができるようになる。フランス語のレシピを読んで実際に試作し、和食のレシピをフランス語で書いて説明できるようになる。						
回	学習内容		回	学習内容			
1	Leçon 0: Bonjour! 挨拶・授業の進め方		16	Leçon 6: Vous avez pris ~? ~を注文しましたか? 複合過去			
2	Leçon 0: un, deux, trois 数字		17	Leçon 6: レストランのフランス語			
3	Leçon 1: ~, s'il vous plaît. ~をください。		18	Leçon 7: Il faut ~. ~が必要です。			
4	Leçon 1: ~, s'il vous plaît. 名詞表現		19	Leçon 7: 「faire する」「pouvoirできる」			
5	Leçon 2: Qu'est-ce que c'est? 何ですか?		20	Leçon 8: もっと濃いコーヒーが欲しい。			
6	Leçon 2: C'est ~. ~です。		21	Leçon 8: 比較級、最上級			
7	Leçon 2: Je suis cuisinier. 私は料理人です。		22	Leçon 9: おすすめは何ですか?			
8	Leçon 3: Vous aimez ~? ~は好きですか?		23	Leçon 9: 好みの表現			
9	Leçon 3: Je n'aime pas le poisson. 魚は好きではありません。		24	Leçon 10: Écoute bien! ちゃんと聞いて!			
10	Leçon 3: 料理名のフランス語		25	Leçon 10: C'est sympa! いい!			
11	Leçon 4: Vous avez une réservation? 予約していますか?		26	Leçon 11: どれくらいかかりますか?			
12	Leçon 4: Vous avez ~? ~はありますか?		27	Leçon 11: キッチンのフランス語			
13	Leçon 5: Je vais prendre ~. ~をください。		28	Leçon 12: Je me lève tôt. 私は早く起きます。			
14	Leçon 5: Je n'ai pas très faim. あまりおなかがすいていません。		29	Leçon 12: フランス語のルセット(レシピ)を読む。和訳する。			
15	Leçon 5: 近接未来、近接過去		30	Leçon 12: 和食のレシピを仏訳する。			
予習内容 復習内容	毎回、学習した語彙や基本文の発音、聞き取りを繰り返し復習すること。授業のはじめに基本文の聞き取りをおこなうので、その準備として既習の基本文を確認し、練習しておくこと。						
教科書	黒木秀房、畠山香奈、加藤三和、Sonia Silva 『C'est bon! セ・ボン!』駿河台出版社						
成績評価	授業中におこなう聞き取り60%、ルセットの和訳とレシピの仏訳の筆記40%。						
実務経験							
その他 特記事項	フランス語検定受験のためには別途練習問題に取り組む必要がある。希望者は申し出てください。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
情報処理実習 I		盛田 健人	実習	1		4	3
授業概要 授業目的	現在、職場などでコンピュータを利用した書類作成が頻繁に行われている。この実習では、書類作成に頻繁に用いられる Microsoft 社の基本ソフト (Windows) およびオフィスソフト (Word, Excel) を対象として各種課題をこなすことで、コンピュータの基本操作を習得することをめざす。						
到達目標	目的に合わせて Word・Excel を正しく使い分けて資料を作成できる。						
回	学習内容						
1	導入、コンピュータリテラシー						
2	コンピュータの基本操作						
3	Word の基礎 (1) : 文書の見た目の整え方						
4	Word の基礎 (2) : 表の使い方						
5	Word の基礎 (3) : 図の使い方						
6	Word の基礎 (4) : レポートとしての体裁の整え方						
7	演習 Word のまとめ						
8	Excel の基礎 (1) : シートの見た目の整え方						
9	Excel の基礎 (2) : 数式・関数の使い方						
10	Excel の基礎 (3) : グラフの使い方						
11	Excel の基礎 (4) : データベースの使い方						
12	演習 Excel のまとめ						
13	Word と Excel の連携						
14	資料を作る際の心構え						
15	総合演習						
予習内容 復習内容	予習：教科書の学習内容の該当箇所に目を通しておくことが望ましい。 復習：演習時間中に終わらなかった課題に取り組み理解を深める。						
教科書	『リファレンス動画付き!実践ドリルで学ぶ Office 活用術』noa 出版、2019						
成績評価	課題・演習 (Word のまとめ・Excel のまとめ・総合演習) の結果を総合して判定する。配点の比率は、毎回の課題あわせて 40%、演習はそれぞれ 20% である。なお、欠席または課題・演習を期日までに提出しなかった回が、3 回以上となった場合は成績評価を不可とする。						
実務経験	なし						
その他 特記事項	コンピュータの操作は、本を読んだだけでは修得できない。そのため、この授業では、実習に参加し課題をこなすことに評価の主眼がある。受講する場合は、この点に留意すること。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学DP	学科DP
情報処理実習 I		松下 真也	実習	1		4	3
授業概要 授業目的	現在、職場などではコンピュータを用いた資料・書類作成が頻繁に行われている。この実習では、資料・書類作成で頻繁に用いられるMicrosoft社の基本ソフト(Windows)およびofficeソフト(Word, Excel)を対象とした各課題をこなし、コンピュータの基本操作の習得をめざす。						
到達目標	1 コンピュータの基本操作を身につける。 2 officeソフトを用いて資料・書類作成ができる。						
回	学習内容						
1	導入、コンピュータリテラシー						
2	コンピュータの基本操作						
3	Wordの基礎1 基本操作の確認						
4	Wordの基礎2 表の作成						
5	Wordの基礎3 図形の挿入・編集						
6	Wordの基礎4 スタイルの適用 PowerPointの基礎 プレゼン資料作成時の心構え						
7	演習 Wordのまとめ						
8	Excelの基礎1 基本操作の確認						
9	Excelの基礎2 関数の設定						
10	Excelの基礎3 グラフの作成と使い分け						
11	Excelの基礎4 データベースの活用						
12	演習 Excelのまとめ						
13	WordとExcelの活用						
14	資料・書類作成時の心構え						
15	総合演習 Word,Excelのまとめ						
予習内容 復習内容	予習: 事前に教科書を読み、不明な用語・操作方法は調べておくこと。 復習: 課題提出後、教科書の練習問題や発展問題に取り組むこと。						
教科書	「リファレンス動画付き！実戦ドリルで学ぶ office活用術 演習問題全173題」 Noa出版, 2019/2/22, 商品コード1522						
成績評価	成績は、課題・演習・総合演習の結果を総合して判定する。なお、課題・演習を期日までに提出しなかった回が3回以上の場合は成績評価を不可とする。 配点: 課題30点、演習30点、総合演習40点						
実務経験							
その他 特記事項	コンピュータの操作は、本などを読むだけでは習得が困難である。したがって、この授業では、実習に参加し課題をこなすことに評価の主眼がある。受講の際には、この点に留意すること。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
情報処理実習 I		眞田 耕輔	実習	1		4	3
授業概要 授業目的	現在、コンピュータの操作は必須技術であり、職場等ではコンピュータを利用した書類や資料作成が頻繁に行われている。この実習では、書類作成に頻繁に用いられる Microsoft 社の基本ソフト (Windows) およびオフィスソフト (Word, Excel, PowerPoint) を対象として各種課題をこなすことで、コンピュータの基本操作および情報リテラシーに対する習得することをめざす。						
到達目標	情報リテラシーおよびコンピュータ基本操作を理解したうえで、Word、Excel、PowerPoint の基本ソフトウェアを使用して、資料作成およびプレゼンテーションができること。						
回	学習内容						
1	導入、コンピュータリテラシー						
2	コンピュータの基本操作						
3	Word の基礎 (1)：基本操作						
4	Word の基礎 (2)：表の作成						
5	Word の基礎 (3)：図の挿入						
6	Word の基礎 (4)：Word を用いたレポート作成						
7	演習 Word のまとめ						
8	Excel の基礎 (1)：基本操作						
9	Excel の基礎 (2)：関数の使い方						
10	Excel の基礎 (3)：図の作成						
11	Excel の基礎 (4)：データベース						
12	演習 Excel のまとめ						
13	Excel 演習の復習、Power Point 実習 (プレゼンテーションスライド作成)						
14	Power Point を用いたプレゼンテーション演習 (1)：発表 1 日程						
15	Power Point を用いたプレゼンテーション演習 (2)：発表 2 日程						
予習内容 復習内容	本講義の予習として、各講義の演習内容に関して予め教科書で内容を確認しておくこと。復習も同様に、各回の演習課題を取り組みながら講義内容に関する教科書の記載を確認しておくことを推奨する。						
教科書	『実践ドリルで学ぶ Office 活用術 2019 対応』noa 出版、2019 ISBN978-4908434341						
成績評価	成績は、課題・演習 (Word のまとめ・Excel のまとめ・プレゼンテーション実習) の結果を総合して判定する。なお、最終回の講義の時点で課題の未提出が 3 回以上の場合は成績を不可とする。配点は、word、Excel、プレゼンテーションの 3 回の演習 (各回 30% 程度) の合計点で評価する。						
実務経験							
その他 特記事項	第 14 回、第 15 回ではプレゼンテーション演習を行う。第 13 回で発表用スライドを Power Point で作成し、第 14 回、第 15 回では 2 週にわたって発表演習と受講者間での発表評価採点を行う。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
情報処理実習 I		高瀬 治彦	実習	1		4	3
授業概要 授業目的	現在、職場などでコンピュータを利用した書類作成が頻繁に行われている。この実習では、書類作成に頻繁に用いられる Microsoft 社の基本ソフト (Windows) およびオフィスソフト (Word, Excel) を対象として各種課題をこなすことで、コンピュータの基本操作を習得することをめざす。						
到達目標	Word を利用した簡単なレポートの作成, Excel を利用したデータの分析・グラフ化ができるようになる。						
回	学習内容						
1	導入, コンピュータリテラシー						
2	コンピュータの基本操作						
3	Word の基礎 (1) 文字の装飾						
4	Word の基礎 (2) 表						
5	Word の基礎 (3) 図						
6	Word の基礎 (4) ページレイアウト						
7	演習 Word のまとめ						
8	Excel の基礎 (1) 基本的な表						
9	Excel の基礎 (2) 表計算						
10	Excel の基礎 (3) グラフ						
11	Excel の基礎 (4) 複雑な表						
12	演習 Excel のまとめ						
13	資料を作る際の心構え (1) Word と Excel の連携						
14	資料を作る際の心構え (2) 分かりやすい文章						
15	総合演習						
予習内容 復習内容	予習：教科書の該当する節に目を通しておく 目を通しておく 復習：授業で学んだ内容を、別の文書で実践する						
教科書	『実践ドリルで学ぶ Office 活用術』 noa 出版, 2019 ISBN978-4-908434-34-1						
成績評価	成績は、課題・演習 (Word のまとめ・Excel のまとめ・総合演習) の結果を総合して判定する。なお、課題・演習を期日までに提出しなかった回が、3 回以上となった場合は成績評価を不可とする。配点の比率は、課題あわせて 40 点程度、演習はそれぞれ 20 点程度である。						
実務経験							
その他 特記事項	コンピュータの操作は、本を読んだだけでは修得できない。そのため、この授業では、実習に参加し課題をこなすことに評価の主眼がある。受講する場合は、この点に留意すること。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学DP	学科DP
情報処理実習Ⅱ		笠 浩一郎	実習	1		4	3
授業概要 授業目的		現在、情報をもとに問題解決に取り組む能力が社会で求められている。本講義では、問題解決能力を高めるために必要となる情報の収集、情報の分析、情報の可視化に関する基礎知識や基本操作を習得することを目的とする。講義の前半では、Excelを用いて、データ分析やデータの可視化（表やグラフの作成）を行う。講義の後半では、RESAS（地域経済分析システム）を利用して、情報の収集、分析について学ぶ。					
到達目標		問題解決能力で必要となる情報の収集、情報の分析、情報の可視化に関する基礎知識や基本操作を習得することを到達目標とする。					
回	学習内容						
1	情報処理演習室の利用方法とコンピュータの基本操作						
2	Excelの基本操作（データの入力、表の作成、基本的な関数）						
3	Excelの応用1（統計的な関数、プルダウンメニュー）						
4	Excelの応用2（情報の可視化、グラフの作成方法）						
5	Excelの応用3（相関分析、CORREL関数、オープンデータ）						
6	Excelの応用4（データによる予測、e-Stat）						
7	Excelの応用5（データベース、クロス集計、ピボットテーブル）						
8	中間課題						
9	RESASの基本操作1（RESASを用いたデータ収集）						
10	RESASの基本操作2（RESASを用いたデータ分析）						
11	最終課題の作成1（最終課題の内容説明、分析の模式図の作成）						
12	最終課題の作成2（分析の模式図の修正と発表資料の作成）						
13	最終課題の作成3（発表資料の作成）						
14	最終課題の発表						
15	最終課題の発表と本講義のまとめ						
予習内容 復習内容	授業前に情報処理実習Ⅰの復習などをして予習しておくこと。 毎回の小課題は授業内だけでは終わらないので、授業外でも課題に取り組むこと。						
教科書	適宜資料を配布する。						
成績評価	小課題（30％）、中間課題（20％）、最終課題（50％）						
実務経験							
その他 特記事項	パソコン操作に不慣れな人は、予習と復習を積極的に取り組むこと。 情報処理実習Ⅰを履修済みであることが望ましい。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学DP	学科DP
情報と社会		笠 浩一郎	講義	2		4	4, 5
授業概要 授業目的	講義は、以下の三つの内容で構成されている。一つ目は、情報倫理・リテラシに関することである。近年、ICTの発達により誰もが簡単に情報を取得・発信できる社会になっている。その一方で、個人情報の流出、ネット上での誹謗中傷などの新たな問題が発生している。他人の権利を侵すことなく、互いが快適に過ごすための方法を解説する。二つ目は、言語処理技術に関することである。近年、言語処理技術を活用したシステムは身近に利用できる状況にあり、そのシステムの仕組みを紹介する。三つ目は、情報処理システムに関することである。情報処理システムの開発・管理の仕組みを紹介する。						
到達目標	本講義は、現在の情報社会で求められる「情報に関する知識」と「情報倫理」を習得することを到達目標とする。						
回	学習内容						
1	インターネット概論						
2	ネットワーク利用におけるマナー						
3	個人情報とプライバシー						
4	電子商取引						
5	知的財産権・メディアリテラシ						
6	ネットワーク不法行為						
7	情報技術とセキュリティ						
8	情報倫理とリテラシ						
9	言語処理技術（文字コード、形態素解析）						
10	言語処理技術（構文解析、意味解析）						
11	言語処理技術を用いたシステム（機械翻訳）						
12	言語処理技術を用いたシステム（対話システム、情報検索）						
13	システム開発とマネジメント						
14	システム構成と故障対策						
15	業務改善と分析手法						
予習内容 復習内容	授業の最後に次回の講義の内容の一部を紹介するので、予習してくること。 前回の復習の小テストを毎回実施するので、復習しておくように。						
教科書	資料を毎回配布する。参考文献は講義内で紹介する。						
成績評価	毎回の小テスト（100%）						
実務経験							
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
体育講義		木野村 嘉則	講義	2		2	4
授業概要 授業目的		これまで、体育を通じて、健康や運動の重要性について学んできました。また、人々の健康志向も高まり、健康や運動に関する情報に溢れています。本科目では、運動によって人間のからだに意図的に働きかけ、構造的あるいは機能的な変化を目指すトレーニングについて扱います。適切な情報をもとに健康づくりや身体づくりについて考え、実践するための基本的な力を育てることを目指します。特に、生理学的、運動学的な基礎的な知識について理解することを目指します。					
到達目標		健康づくりや運動に関する生理学的な用語や記述を説明できる。 トレーニングに関する基礎的な方法について説明できる。					
回	学習内容						
1	オリエンテーション、トレーニング科学の概論（体力とは何か）						
2	筋肉の構造と収縮の仕組み						
3	骨格の構造と関節の運動						
4	筋力を高めるトレーニング方法						
5	筋力トレーニングに係わる筋の特徴						
6	スピードを高める筋力トレーニングについて						
7	運動に必要となる身体のエネルギー						
8	無酸素性トレーニングと有酸素性トレーニング						
9	持久力を高めるインターバルトレーニング						
10	トレーニングの原則						
11	トレーニング時の障害予防						
12	技術トレーニングの原理と方法						
13	運動技術に関するトレーニング						
14	トレーニングの計画と目標設定について						
15	トレーニング計画の原則						
予習内容 復習内容	予習：次回の講義テーマに関連する資料を予習したうえで、次の授業に臨むこと。 復習：各回の授業で学んだ内容を整理し、自分なりにまとめ、基礎的な用語を覚えること						
教科書	特になし。適宜、資料を配布するとともに参考図書を紹介します。						
成績評価	授業時に取り組む課題にて評価します（100%）						
実務経験							
その他 特記事項	運動は健康に重要な役割を果たします。学校を卒業すると自分自身で意識して生活の中に運動を取り入れることが求められます。この講義をきっかけに、より効果的に運動に取り組む方法について考えてほしいと思います。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
体育実技		石川 拓次	講義	1		2	4
授業概要 授業目的	様々な球技、レクリエーションゲームに親しみ、スポーツの楽しさを体感し、その特性を理解する。また、運動やトレーニングを通して、自らの健康管理や体力作りの方法を習得するとともに、運動を習慣化する態度を身につける。さらにスポーツを通して、社会性、協調性、コミュニケーション力を身につけ、自らの人生におけるスポーツの意義について受講生全体でディスカッションを行い、生涯スポーツの基礎を作る。						
到達目標	①健康の保持増進に加えて、スポーツを通して心身の調和を図ることができる。 ②それぞれのライフスタイルに応じたスポーツ活動に参加することができる。 ③生涯スポーツを自主的にプランニングする能力と態度を養うことができる。						
回	学習内容						
1	オリエンテーション・体力測定						
2	バスケットボール (1) 基本動作 (パス, ドリブル, シュート)						
3	バスケットボール (2) 総当たり戦 1						
4	バスケットボール (3) 総当たり戦 2						
5	バレーボール (1) 基本動作 (アンダー・オーバーハンド)						
6	バレーボール (2) 総当たり戦 1						
7	バレーボール (3) 総当たり戦 2						
8	卓球 (1) 基本的なストローク						
9	卓球 (2) 総当たり戦 1 シングルス						
10	卓球 (3) 総当たり戦 2 ダブルス						
11	ニュースポーツ (1) インディアカ						
12	ニュースポーツ (2) インディアカ						
13	バドミントン (1) 基本的なストローク						
14	バドミントン (2) 総当たり戦 1						
15	実技試験・体力測定						
予習内容 復習内容	授業内に出す課題について、毎回 2 時間程度、インターネットや図書で調査し、レポートにまとめておくこと。						
教科書	指定しない						
成績評価	定期試験 (筆記) は行わない。 授業への積極的 attitude 30% 体力測定 40% レポート 30% 評価基準: 体力測定は受講生の到達目標すべてに対応して、学修到達度を最終的に確認するためのテストである。レポート課題は、授業内容を踏まえて的確に自己表現できているかを評価する。						
実務経験							
その他 特記事項	運動に適切なウェア、シューズを準備すること。 体調管理には十分に注意すること。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
生命科学		狩野 幹人	講義	2		2	4, 5
授業概要 授業目的	生命科学（Life Science）は、21 世紀の科学技術を担う重点分野の 1 つである。2003 年、ヒトの遺伝子の解読が終了したが、「いのち」の仕組みの全てが解明されたわけではない。遺伝子外の領域に着目したエピジェネティクス、免疫などの生体防御機構をはじめ、その解明が待たれる研究は現在も世界で継続されている。また、環境問題、生物の多様性等を考えるうえでも、生物学・生命科学の知識が必要となる。本講義では、生物の基本構造である「細胞」と「細胞」内に存在する「分子」に焦点をあてる。「細胞」内の「分子」のうち、とくにタンパク質を中心とした機能・役割、細胞から多細胞生物個体への展開、細胞間の情報交換についても解説を加えることにより、生物学の基本的な枠組みを理解してもらいたい。						
到達目標	①地球上の生物全体に対するマクロな視点と、生物個々の現象に対するミクロな視点を持つ。 ②生物学、生命科学の成り立ちについて物理学や化学の知識も使いながら歴史的に捉えられる。 ③生物の基本構造である「細胞」内に存在する「分子」の機能・役割を科学的に理解、説明できる。						
回	学習内容						
1	ガイダンス（科学とは？自然科学とは？生命科学とは？を中心に）						
2	細胞の構造						
3	細胞の形質、機能						
4	細胞の活動						
5	タンパク質の役割						
6	多細胞生物への展開（1）－細胞間の情報交換						
7	多細胞生物への展開（2）－体細胞分裂と DNA の複製						
8	免疫システム（1）－生体防御機構の概要						
9	免疫システム（2）－T 細胞と細胞性免疫						
10	免疫システム（3）－B 細胞と体液性免疫						
11	細胞の再生と死						
12	環境の認識、調節						
13	生物の進化と多様性、生物多様性条約とは						
14	生命科学と知的財産（1）－知的財産とは						
15	生命科学と知的財産（2）－生命科学の発展と知的財産の役割						
予習内容 復習内容	予習：教科書の該当ページや図表に目を通すなど。 復習：ノートを整理するなどし、講義内容を暗記するのではなく、理解すること。						
教科書	「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学（第 4 版）、和田勝、羊土社（2020）」を教科書として用いる。また講義において、参考文献を紹介するほか、必要な補足資料を随時配布する。						
成績評価	①毎回出席をとる（講義終了時に、講義で理解したこと、感想・質問を記入した出席票を提出してもらう）。出席率が 3 分の 2 以上の者を成績評価の対象とする。 ②その上で、レポート（2 回を予定）により成績を評価する。						
実務経験	2022 年度から「ナショナルバイオリソースプロジェクト（文部科学省）」における分担機関の課題管理者として従事。グローバルな視点での生物、遺伝資源、それらの多様性についても解説する。						
その他 特記事項	単なる内容の暗記ではなく、科学的に理解・考えてもらえるよう工夫したい。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学DP	学科DP
自然と科学		松井 博和	講義	2		2	4, 5
授業概要 授業目的	自然と科学について、いわゆる理系の人でも理解していない現象も、簡単な説明や実験で理解してもらう。講義の間に、毎回の授業において、主として計算問題を解き、レポートとして提出してもらう。これにより、主体的に現象理解に取り組めるようにする。私自身が体験した事象や、ニュースなど世間で注目されるものについて、科学的に説明できるものであれば、適宜授業に取り込む。						
到達目標	一般の学生にとって、よく知られた自然現象でも原理を知らないものや、身近で使われているのに知られていない科学技術を受講する学生が理解できるようになる。						
回	学習内容						
1	私の研究紹介						
2	長さ、速さ、時間などの単位と定義について						
3	天体（地球と月と太陽）について						
4	天体（恒星と惑星）について						
5	機械機構（車輪）について						
6	電気（電流・電圧）について						
7	電気（電力量と生活）について						
8	音（周波数・音量・デシベル）について						
9	音（音声）について						
10	光と色について（物理的説明）						
11	光と色について（生体的説明）						
12	生命と遺伝について						
13	人工知能について						
14	天体（宇宙と科学）について						
15	自然と科学についてのまとめ・試験						
予習内容 復習内容	予習内容:各学習内容の項目をキーワードにネットなどで簡単に調べてみる。 復習内容:講義内容に対して疑問をまとめる。						
教科書	教材・テキスト等は特になく、授業中に用いたプレゼン資料をネット上で取得できるようにする。						
成績評価	毎授業内にレポートを書き提出するレポート点が合計50点満点(ただし、レポート提出が7回以下は成績不可とする)。定期試験は50点満点。レポート点と定期試験の合計100点満点で成績評価する。						
実務経験	なし						
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
心理学		高橋 彩	講義	2		2	4, 5
授業概要 授業目的	心理学は一般に生活体（人や動物）の行動の科学と言われている。行動は人の内的要因とその人がおかれている環境的要因によって決まるが、こうした行動を引き起こすような心の仕組みや働きを科学的に明らかにし、人間そのものの理解を目指す学問が心理学といえる。この講義では、心理学の各分野の基本的概念について紹介する。心理学の基本的な考え方や、研究方法やその背景などを理解することを目的とする。						
到達目標	①心理学の基本的な概念、用語を説明できる。 ②人間の行動や心の働きについて、心理学的な視点から理解できる。						
回	学習内容						
1	心理学とはどのような学問か						
2	知覚（大きさの恒常性、錯視）						
3	学習（古典的条件づけ、オペラント条件づけ、観察学習）						
4	記憶（短期記憶、長期記憶、記憶の変容）						
5	動機づけ（内発的動機づけ、外発的動機づけ、自己効力）						
6	感情（感情の機能、ストレス）						
7	パーソナリティ（パーソナリティの調べ方、ビッグ・ファイブ理論）						
8	臨床 精神的健康						
9	知能（知能検査と IQ）						
10	思考（推論、ヒューリスティックス）						
11	対人認知（印象形成、対人魅力）						
12	発達（遺伝と環境）						
13	集団 1（社会的促進と抑制、集団規範、同調）						
14	集団 2（リーダーシップ、態度変容）						
15	心理学の応用						
予習内容	予習：講義中に指示した文献を読む						
復習内容	復習：授業課題で分からなかった部分を調べる						
教科書	二宮克美（編著）2017 ベーシック心理学第2版 医歯薬出版 ISBN978-4-263-42223-6						
成績評価	定期試験 70%と授業内での課題レポート 30%で評価する。						
実務経験							
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
環境論		古山 歩	講義	2		2	4, 5
授業概要 授業目的	我々の生活は地球上に生息する様々な生物とそれらを取り巻く環境によって支えられている。近年、各地で発生する様々な環境問題によって、生態系や生物多様性が脅かされており、早急な対策が求められている。本講義では生態系や生物多様性を脅かす問題について、概要と対策を具体的に解説するとともに、今後の人間社会と生物や環境との関わり方を考える。						
到達目標	(1) 現在地球上で起きている様々な環境問題とその対策について基礎的な知識を獲得する。 (2) 環境問題対策の効果と問題点を理解し、自らの意見を述べられるようになる。						
回	学習内容						
1	ガイダンス：生態系とそのサービス・生物多様性						
2	人類の発展と環境問題の歴史						
3	地球温暖化Ⅰ：概要と環境・生物への影響						
4	地球温暖化Ⅱ：対策と課題						
5	再生可能エネルギーの利点と課題						
6	都市開発						
7	海洋汚染Ⅰ：公害・富栄養化						
8	海洋汚染Ⅱ：海洋プラスチック						
9	人為的影響による生物の絶滅とレッドリスト						
10	生物の乱獲・混獲						
11	外来生物Ⅰ：概要と生態系への影響						
12	外来生物Ⅱ：対策・駆除とその課題						
13	生物の保護・増殖事業						
14	三重県における環境問題						
15	まとめ						
予習内容 復習内容	予習：現在起きている環境問題について、インターネットやニュースなどで調べる。 復習：配布資料の確認・振り返りを行う。						
教科書	なし。講義にて資料を配布する。						
成績評価	毎講義終わりに実施する課題：40% 試験：60%						
実務経験							
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学DP	学科DP
教育学		大日方 真史	講義	2		2	4, 5
授業概要 授業目的		教育に関する諸理論・諸思想を取り上げつつ、制度や実践の次元における具体的な事象にも着目し、人間と社会にとっての教育の意義と課題にアプローチする。 対話的な講義方法を採用し、受講生間の意見交流を重視する。					
到達目標		自身の被教育経験を対象化しつつ、教育の営みの現在を深く理解し、課題を理論的に発見・把握できるようにする。					
回	学習内容						
1	オリエンテーション：教育に関する問題と教育学・教育理論の意義						
2	人間の発達と教育の意義						
3	社会における教育の意義						
4	学校という場所の特質						
5	学校という場所における課題						
6	子どもの生活と学校教育						
7	学習と学力						
8	学習権と参加権						
9	教師の役割・地位・責任						
10	子ども理解とケア						
11	教育権						
12	教育制度						
13	家庭・地域と学校						
14	教育改革の展開						
15	まとめ（レポート提出を含む）						
予習内容 復習内容	予習：復習とあわせて行い、予告される次回授業テーマとそれまでの内容との関連を考察する。 復習：講義内容、議論をまとめて振り返る。						
教科書	適宜資料を配布する。						
成績評価	平常点（活動への参加姿勢、提出物の内容） 40％、レポート（内容理解の深さ、思考のオリジナリティを評価） 60％						
実務経験							
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
生涯学習論		長島 洋	講義	2		2	4, 5
授業概要 授業目的	*生涯学習の基礎知識を学ぶとともに、身近な問題を取りあげ、生涯学習の重要性を学びます。 *「いつでも、だれでも、どこでも学習することができ、その成果が活用される社会をめざす」生涯学習社会の実現にむけて生涯、学ぶことのできる方策を考え、プランニングをします。 *自分のふるさとやその他、市町村、県等をモデルに、地域の課題解決のためにどのような生涯学習プランが必要かを考察し、生涯学習プログラムを作成し、生涯学習社会の実現にむけて考えます。 *地域を見つめなおし、課題解決にむけた取り組みを進めます。						
到達目標	1 生涯学習について国・地方公共団体等の政策も交え、基礎知識を身につける。 2 モデル市町村の地域課題を把握し、課題解決に向けた学習プランを作成することができる。 3 地域の課題を解決するために、行動できる力を少しでも身につけることができる。						
回	学習内容						
1	オリエンテーション 生涯学習とは何か						
2	生涯学習の基礎 理念・考え方 教育基本法 第3条より						
3	社会教育と生涯学習 社会教育法より						
4	まちづくりと生涯学習 課題解決にむけて人々の学習とは						
5	公民館と生涯学習 地域に根差した生涯学習の拠点としての公民館の役割						
6	人権学習と生涯学習 人権学習の重要性 学びをととして						
7	青少年教育と生涯学習 学校と地域・家庭との連携 学社融合						
8	防災学習と生涯学習 さまざまな災害を通して、地域住民の学習の重要性と学習プログラム						
9	幸せのための生涯学習 さまざまな地域課題解決にむけて生涯学習プログラムの基礎						
10	1 生涯学習プログラムの作成 モデル市町村の概要、特色等						
11	2 生涯学習プログラムの作成 地域住民の生活状況・教育文化施設等の整備状況						
12	3 生涯学習プログラムの作成 地域課題の把握・課題解決にむけた考察						
13	4 生涯学習プログラムの作成 学習プログラムの具体的ノウハウと企画						
14	5 生涯学習プログラムの作成 予算・場所等 企画実施にまでの準備と実施						
15	試験（プログラムの完成）と生涯学習のシェアリング						
予習内容 復習内容	予習 事前にモデル市町村の情報を収集すること 復習 毎回だされる課題の整理						
教科書	資料は毎回配布します。 テキストは使用しない。 参考文献については資料に提示。						
成績評価	毎回提出してもらう課題またはレポート60% 試験（生涯学習プログラムの完成物）40% 6回以上欠席の場合、無資格となります。						
実務経験	文部科学省生涯学習局、三重県教育委員会生涯学習課 三重県熊野少年自然の家、三重県生涯学習センター所長として勤務。長年の生涯学習分野での実務をととして生涯学習の重要性を示します。						
その他 特記事項	様々な学びのチャンネルをととして、自分たちが幸せに生きるために、大切な「学び」を伝え、受講者自ら企画してもらうプログラムを楽しみにしています。一緒に、学びましょう。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
差別と人権		伊藤 信也	講義	2		2	4, 5
授業概要 授業目的	1. この科目では、基本的人権と差別の問題を考えていきます。人権とは何か、人権はなぜ重要なのか、私たちの人権の実態はどのようになっているのか、その歴史と現状について考えていきます。基本的人権という考え方は、フランス人権宣言などにおいて明文化されてきましたが、こうした人権の歴史的な形成の経過を学ぶとともに、その内容の発展を知ることによって人権の普遍的な意味を考えたいと思います。 2. また、テーマ別に現代の差別問題についても考えていきます。どのテーマから取り上げるかは講義開始時にお知らせしますが、人種差別、性差別、国籍差別、部落差別、「障害者」差別など、世界と日本の様々な差別問題を取り上げる予定です。						
到達目標	①人権思想の歴史を正しく知り、人権概念の基本的知識を身につけること。 ②現代の差別問題の基本的様相を理解すること。 ③「デマ」や「フェイクニュース」に流されず、正確な知識と根拠を知って人権や差別問題と向き合えること。						
回	学習内容						
1	授業概説：現代社会と人権						
2	基本的人権の成立史：トーマス・ホッブズの思想と近代人権概念の誕生						
3	基本的人権の成立史：宗教改革と自由						
4	基本的人権の成立史：近代的人権の特徴と課題						
5	基本的人権の成立史：フランス革命とその批判者たち						
6	基本的人権の成立史：人権から取り残された「女性」たちのたたかい						
7	基本的人権の成立史：人権から取り残された「植民地」「先住民」の実態						
8	基本的人権の成立史：現代の人権思想の到達点と課題						
9	現代の差別問題：人種差別の歴史と現在～アメリカの場合～						
10	現代の差別問題：「障害者」差別と優生思想～「ナチス」ドイツ、そして日本でも～						
11	現代の差別問題：「女性差別」から「ジェンダー平等」へ						
12	現代の差別問題：在日外国人差別と「ヘイトスピーチ」規制						
13	現代の差別問題：「部落」差別問題の構造						
14	現代の差別問題：感染症と差別問題の歴史						
15	21 世紀の人権問題への視点を考える						
予習内容 復習内容	予習：事前に提示した資料や参考文献に目を通しておく。 復習：プリントの内容を復習する。						
教科書	なし。毎回プリントを配布します。必要な資料等もプリントで配布します。その他、参考文献は講義中に提示します。						
成績評価	1. 講義中に実施する「ミニレポート」（意見提出。配点は 40%）、2. 講義の最終日に提出する「期末レポート」（配点は 40%）、3. 積極的な受講姿勢（配点は 20%）						
実務経験							
その他 特記事項	講義は可能な限り工夫して進めます。対面授業の場合はドキュメンタリー・ビデオの上映など、映像による資料を随時使用していきますが、遠隔授業になった場合、他の方法でバリエーションを検討したいと思います。人権問題や差別問題に関心のある学生の参加を求めます。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学DP	学科DP
ジェンダー論		松田 いりあ	講義	2		2	4,5
授業概要 授業目的		この授業では、ジェンダーに関わる私たちの一般的な認識が、一定の歴史的社会的条件下で定着したものであること、またその認識が世代を越えて伝えられる仕組みを、国内外の事例とともに解説する。授業は基本的に講義形式で行う。随時授業内課題を実施し、提出された課題をもとに学生とともに考える機会を設ける。					
到達目標		この授業では、学生が現在のジェンダーをめぐる課題を理解するだけでなく、社会生活全般においてジェンダーに関心を持つことが目標になる。					
回	学習内容						
1	はじめに：この授業の進め方と評価方法の説明						
2	ジェンダーとは						
3	セクシュアリティとは						
4	ジェンダーの社会化						
5	ジェンダーと子育て						
6	ジェンダーと教育						
7	パートナーシップとジェンダー、セクシュアリティ						
8	労働市場とジェンダー						
9	アンペイド・ワーク						
10	貧困とジェンダー						
11	メディアとジェンダー						
12	サブカルチャーとジェンダー						
13	身体とジェンダー						
14	空間とジェンダー						
15	まとめ：この授業の総括						
予習内容 復習内容		予習：前回の授業内容の確認。 復習：授業資料や参考文献を参照して、学習内容の理解を深める。					
教科書		テキストは使用しない。参考文献は講義中に伝える。					
成績評価		授業内課題50%、レポート50%。全15回のうち10回以上の出席者が成績評価の対象となる。					
実務経験							
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学DP	学科DP
歴史学		望月 秀人	講義	2		2	4
授業概要 授業目的		西洋近代は明治時代以来、長らく日本にとっては追いつくべき模範でしたが、現在ではそうした西洋中心主義は批判され、むしろ他地域と対等に比較すべき一対象となっています。本講義ではそうした状況を踏まえつつ、西洋近代社会の成り立ちと展開を概説的に講義することで、日本にとって何を見習うべきであり、何を見習うべきでないのか、学生の皆さんと考えていきたいと思います。					
到達目標		西洋近代史の大きな流れを理解でき、日本社会との比較や現代とのつながりが理解できる。					
回	学習内容						
1	ガイダンス：歴史学とは						
2	大航海時代と世界の一体化						
3	宗教改革と宗派分裂						
4	宗教戦争と世俗化						
5	中世の封建制						
6	中世封建制から近世の「絶対王政」へ						
7	「絶対王政」の意義と限界						
8	フランス革命の勃発						
9	「市民革命」と近代国家						
10	革命とナショナリズムの時代						
11	工業化とその影響						
12	第一次世界大戦の衝撃						
13	戦後処理方法の変化						
14	大恐慌とファシズム						
15	近代という時代について						
予習内容 復習内容		予習内容は、新聞等で時事問題への関心をもつこと。あとは、授業内容の復習をしてください。					
教科書		テキストは特に定めません。毎回のレジュメに掲載されている出典を参考にして下さい。ただ、高校世界史教科書程度のものは持っていた方が良いでしょう。					
成績評価		試験60%、レポート40%で判断します。試験は紙媒体持ち込み可の論述試験で、講義内容に即して回答するものとします。レポートについては講義の際に説明します。6回以上の欠席はその時点で単位を失うものとします。					
実務経験							
その他 特記事項		言うまでもなく、講義中の私語や徘徊は原則禁止とします。学生としてふさわしい受講態度をとるようにして下さい。また、時事ネタ等を通じて、社会の課題に敏感になるようにして下さい。					

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
地理学		山崎 智博	講義	2		2	4, 5
授業概要 授業目的	日本国内を中心にして都市・地域を人文地理学の立場から考察する。私たちが生活している都市や地域は単独で存在しているのではなく他の都市や地域との結びつきの中で存在している。またその内部構造も単一ではなく様々な要素により構成されている。歴史的な経緯を踏まえてこうした結びつきや構造を理解することにより、私たちが生活する地域の特徴や問題を考えていくことができるようになってもらいたい。						
到達目標	・都市・地域を人文地理学の立場から理解できるようになる。 ・都市・地域の性格や抱えている問題を説明できるようになる。						
回	学習内容						
1	オリエンテーション（都市・地域の人文地理学）						
2	都市・地域とは						
3	都市・地域の歴史						
4	都市・地域の結合関係						
5	都市の内部構造						
6	都市の商業・サービス業						
7	都市の工業						
8	都市のオフィス立地						
9	都市・地域の交通						
10	都市のエスニック集団						
11	大都市圏構造						
12	住宅と住居						
13	都市問題・都市計画						
14	都市を歩く						
15	地域・都市の人文地理学まとめ						
予習内容 復習内容	予習：テキストに目を通す等。 復習：ノートやレジュメ等の見直し等。						
教科書	テキスト：稲垣稜『都市の人文地理学』古今書院 2019 年						
成績評価	定期試験(80%)、平常点(20%)で成績評価を行います。平常点は出席と小テストで評価します。5 回を超えて欠席した場合、試験の受験資格はありません。						
実務経験							
その他 特記事項	1 回の授業で 1 つのテーマを扱う予定です。ただしテーマに関する資料などを使うことにより進度を調整する場合もあります。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
哲学		吉本 陵	講義	2		2	4
授業概要 授業目的	現代の科学技術は私たちの社会に大きな影響を与え続けています。この授業では科学技術が私たちの（誕生・死を含む）生命に与える影響に焦点を当て、科学技術時代における生と死の意味という問題について哲学的に考察することを試みます。						
到達目標	科学技術が私たちの（誕生・死を含む）生命に対する影響に関する論点を理解すること。 上記の論点について自ら文献資料を調べ、考えたことを論述できるようになること。						
回	学習内容						
1	ガイダンス&イントロダクション						
2	哲学的・倫理的なものの考え方（1）功利主義と義務論						
3	哲学的・倫理的なものの考え方（2）理論を学ぶ意味						
4	現代社会と動物の問題（1）ペットについて						
5	現代社会と動物の問題（2）家畜について						
6	現代社会と動物の問題（3）肉食について						
7	出生前診断と優生思想（1）医療倫理の原則						
8	出生前診断と優生思想（2）出生前診断の歴史と現状						
9	出生前診断と優生思想（3）旧優生保護法と内なる優生思想						
10	脳死臓器移植の倫理（1）脳死について						
11	脳死臓器移植の倫理（2）脳死臓器移植について						
12	未来に対する責任（1）核燃料サイクルの問題						
13	未来に対する責任（2）高レベル放射性廃棄物処分の経緯と現状						
14	未来に対する責任（3）高レベル放射性廃棄物処分の課題						
15	未来に対する責任（4）「100,000年後の安全」は可能か？						
予習内容 復習内容	予習：学習内容に記載されている用語を調べておくこと。 復習：適宜配布する参考文献表を参考にしながら、毎週配布する講義資料の振り返りを行うこと。						
教科書	教科書は使用しない。参考文献は適宜指示する。						
成績評価	定期試験(80%)に、平常点(20%)を加味して評価する。						
実務経験							
その他 特記事項	各回の授業後、講義内容についての基本的な質問に対する解答の提出を求める。平常点はそれをもとに評価する。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
文学Ⅰ		今本 幸平	講義	2		2	4
授業概要 授業目的	この講義ではヨーロッパの有名な文学作品を取り上げます。時代も国も、私たちからは遠く離れた作品ですが、そこに描かれる人間の姿は、現代の私たちにも通じる部分が多々あると思います。とはいえ、何の手がかりもなく読んでもピンとこない部分も出てくると思います。講義では、適宜画像などの資料も使いながら、作者、当時の時代背景、文化など、周辺の事柄も視野にいれつつ、作品をより身近に感じて味わうための要点を示してゆきたいと思います。						
到達目標	①文学作品に親しみ、読書を楽しめるようになる。 ②読んだ作品の要約や意見などを、分かりやすい文章で伝えられるようになる。						
回	学習内容						
1	ガイダンス（講義概要、イタロ・カルヴィーノ『なぜ古典を読むのか』）						
2	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』第1幕						
3	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』第2幕						
4	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』第3幕						
5	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』第4、5幕						
6	シェイクスピア『夏の夜の夢』第1幕						
7	シェイクスピア『夏の夜の夢』第2、3幕						
8	シェイクスピア『夏の夜の夢』第4、5幕						
9	ドイツの民衆本『ティルオイレンシュピーゲルのゆかいないたずら』						
10	シェリー『フランケンシュタイン』①						
11	シェリー『フランケンシュタイン』②						
12	シェリー『フランケンシュタイン』③						
13	メリメ『カルメン』						
14	デュマ・フィス『椿姫』①						
15	デュマ・フィス『椿姫』②						
予習内容 復習内容	予習：自分が楽しく読める文学作品を見つける。（作者は不問） 復習：講義で紹介した作品を読む。						
教科書	教科書は使用せず、資料（本文の抜粋）を配布する。						
成績評価	学期末の筆記試験 70%、毎回のコメント 30%。欠席が5回を超えた場合は成績評価の対象外。						
実務経験							
その他 特記事項	取り上げる作品と講義の順序は予告なく変更する場合がある。 「文学Ⅰ」と「文学Ⅱ」はどちらを先に履修しても構わない。どちらか一つだけの履修も可。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
文学Ⅱ		今本 幸平	講義	2		2	4
授業概要 授業目的		この講義ではドイツ語圏の文学作品を取り上げます。難しそうな印象があるかもしれませんが、文学の読み方に正解はないので、皆さんの理解が及ぶ範囲で、等身大の読み方をしてください。講義では文学作品をすこしでも身近に感じてもらえるように、適宜映像などの資料も使い、作者、当時の社会背景、文化などの周辺事情も視野に入れて、作品の紹介をしてゆきます。					
到達目標		①文学作品に親しみ、読書を楽しめるようになる。 ②読んだ作品の要約や意見などを、分かりやすい文章で伝えられるようになる。					
回	学習内容						
1	ガイダンス（講義概要、イタロ・カルヴィーノ『なぜ古典を読むのか』）						
2	ゲーテ『若きウェルテルの悩み』第1部						
3	ゲーテ『若きウェルテルの悩み』第2部						
4	ドイツの民衆本『ファウスト博士』						
5	ゲーテ『ファウスト 悲劇』第1部前半						
6	ゲーテ『ファウスト 悲劇』第1部後半						
7	ゲーテ『魔王』						
8	グリム童話						
9	シャミッソー『影をなくした男』						
10	ホフマン『砂男』						
11	シュピーリ『ハイジ』①						
12	シュピーリ『ハイジ』②						
13	カフカ『変身』						
14	シュリンク『朗読者』第1部						
15	シュリンク『朗読者』第2、3部						
予習内容 復習内容	予習：自分が楽しく読める文学作品を見つける。（作者は不問） 復習：講義で紹介した作品を読む。						
教科書	教科書は使用せず、資料（本文の抜粋）を配布する。						
成績評価	学期末の筆記試験 70%、毎回のコメント 30%。欠席が5回を超えた場合は成績評価の対象外。						
実務経験							
その他 特記事項	取り上げる作品と講義の順序は予告なく変更する場合がある。 「文学Ⅰ」と「文学Ⅱ」はどちらを先に履修しても構わない。どちらか一つだけの履修も可。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
美学		岡野 智子	講義	2		2	4
授業概要 授業目的	日本の調度や衣装には、古来様々な意匠=デザインが施されてきた。それらは四季折々の花鳥風月をはじめ、物語や和歌などの古典文学などとも深い関わりをもつ。 本講義では日本の美意識を象徴する意匠の成立と展開につき、絵画や工芸品を通じて多方面から考察、人々の暮らしや人生、社会における美の在り様に理解を深める。						
到達目標	伝統的な意匠への知見を深め、講義毎に作品と対峙して自己の内なる感性を培い課題に表わす。その積み重ねを以て自己の美意識を豊かに築き明確に表現する力を養う。						
回	学習内容						
1	オリエンテーション・現代に生きる日本の意匠						
2	日本美術の成立 1（縄文時代～平安時代中期）						
3	日本美術の成立 2（平安時代後期～桃山時代）						
4	日本美術の成立 3（江戸時代）						
5	吉祥の意匠―福を招く図様―						
6	桜の意匠―桜への想いとその表象―						
7	涼を呼ぶ意匠―実用と装飾の出会い―						
8	秋を彩る意匠―情趣と洗練の美―						
9	冬を楽しむ意匠―雪の姿さまざま―						
10	月次絵の楽しみ 1 ―年中行事と景物―						
11	月次絵の楽しみ 2 ―花鳥と風俗―						
12	伊勢物語の意匠―燕子花と問えば―						
13	源氏物語の意匠―留守模様に遊ぶ―						
14	動物の意匠―霊獣からペットまで―						
15	渡来の意匠と表現―憧れの南蛮・西洋―						
予習内容 復習内容	予習：次回授業のテーマに基づきネット・図書館などで該当作品とその特徴を調べる。 復習：各自で美術館・博物館等で実作品を鑑賞し、授業内容を振り返りつつ作品と向き合う経験を通して自らの「見る力」を養う（経費は自己負担、自己責任で行う）。さらに展覧会カードに感想をまとめ、提出することを推奨する（現況では感染防止策を十分に講じて実施すること）。						
教科書	教科書は使用しない。パワーポイントを抜粋した資料を毎回配布。						
成績評価	①授業時に提出するコメント内容 50% ②展覧会等の見学レポート 20% ③期末レポート 30%（②については感染状況により比率を③と調整することがある）						
実務経験							
その他 特記事項	オリエンテーションで重要な連絡を行う。受講希望者は必ず初回の授業に出席し、そこで提示の受講注意に同意の上、履修すること。毎回講義で触れた作品の中からコメント提出を求める。受講者は提出回数が原則として 10 回以上の者のみ③の提出資格が得られる。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学DP	学科DP
比較文化論		嶋田 宏司	講義	2		2	4, 5
授業概要 授業目的	西洋近代の美術に学んだ日本の画家たちが、いかにして独自の表現様式を獲得したかについて、印象主義からポスト印象主義、フォーヴィスム、キュビスムの作品を技術と理論を解説しながら、これらに対応する日本の画家たちの作品を観察してゆく。 芸術家は外部から影響を受けながら、表現の個性を確立してゆく。この「芸術的個性の確立」とはどのようなものかということを考える。						
到達目標	西洋近代美術史と日本の洋画史との影響関係を理解する。 美術作品の観察から表現内容の把握、その記述までのプロセスを理解し、自身で作品を実見したときに実践・応用できる。						
回	学習内容						
1	フランス印象主義の起こり						
2	印象主義の展開と技術的、理論的側面						
3	印象主義と日本の画家						
4	黒田清輝						
5	ポスト印象主義の展開 1 ポール・ゴーギャン						
6	ポスト印象主義の展開 2 フィンセント・ファン・ゴッホ						
7	ポスト印象主義の展開 3 ポール・セザンヌ						
8	青木繁						
9	梅原龍三郎						
10	安井曾太郎						
11	フォーヴィスム アンリ・マティス						
12	キュビスム 1 ジョルジュ・ブラック						
13	キュビスム 2 パブロ・ピカソ						
14	萬鉄五郎						
15	学んできた美術史を振り返る						
予習内容 復習内容	予習として西洋美術史・日本美術史などの全集を読んでもいいですが、『そのとき、西洋では時代で比べる日本美術と西洋美術』（宮下規久朗著、小学館、2019年）などの入門的な書籍が便利です。授業で学んだ作品観察あるいは記述の方法を、展覧会や美術館での実見に生かしてください。						
教科書	教科書は使用しません。画家・作品に関する資料を配布します。						
成績評価	学期末試験で評価します。欠席が3分の1を超えた場合は評価の対象外とします。						
実務経験							
その他 特記事項	提示する図版資料の制約により、観察する画家あるいは作品が変更になる可能性があります。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
地域史		山崎 智博	講義	2		3	4, 5
授業概要 授業目的		三重県の近現代史を都市や地域の形成過程を中心にして見ていく。三重県内には様々な特徴を持った都市・地域が存在している。そのような都市・地域が形成されてきた歴史的背景を知ることによりそれぞれの都市や地域の特徴を理解していけるようになるだけでなく、現在抱えている様々な問題を理解していけるようになってもらいたい。					
到達目標		・三重県の都市や地域の形成過程を身につけられるようになる。 ・歴史的な経緯を踏まえて三重県内の都市や地域を理解し説明できるようになる。					
回	学習内容						
1	三重県の近現代（オリエンテーション）						
2	明治の三重：三重県の誕生と市制町村制の施行						
3	明治の三重：鉄道の開設と三重						
4	第1次世界大戦後の三重：県内私鉄鉄道の消長と電化						
5	第1次世界大戦後の三重：都市計画法の実施と三重						
6	昭和恐慌期・戦時体制期の三重：商業の近代化と百貨店・道路交通網の整備・鉄道の建設と統廃合						
7	昭和恐慌期・戦時体制期の三重：都市計画事業の実施と戦争						
8	昭和恐慌期・戦時体制期の三重：戦時下の都市計画						
9	戦後復興期の三重：戦災と戦災復興計画						
10	戦後復興期の三重：復興期の交通						
11	高度成長期の三重：流通の近代化と商店街						
12	高度成長期の三重：鉄道交通と観光開発の進展						
13	低成長期の三重：道路交通網の整備と地域交通						
14	低成長期の三重：大型店の伸張と都市・観光						
15	三重県の近現代史まとめ						
予習内容 復習内容	予習：講義中に示す文献に目を通す等。 復習：ノートやレジュメ等の見直し等。						
教科書	テキストは使用しない。参考文献は講義中に提示します。						
成績評価	定期試験(80%)、平常点(20%)で成績評価を行います。平常点は出席と小テストで評価します。5回を超えて欠席した場合、試験の受験資格はありません。						
実務経験							
その他 特記事項	・地図、写真、映像資料等を適宜使用する予定です。 ・地図、写真、映像資料等を扱うので授業の進度は調整することがあります。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
自治体行政特論		石原 洋介	講義	2		3	5
授業概要 授業目的	この講義は、津市長をはじめ津市の職員によるリレー式の講義であり、本学の「地域連携講義」の一つとして行われる特色ある講義である。また、地方議会の傍聴も予定しており、自治体行政の仕組み等を理解することが、本講義の目的となる。 法経科では行政法、行政学、地方政治論、財政学など地方行財政を取り扱う講義科目、生活科学科では、地域政策論、地域福祉論、地域環境学、都市計画論、環境政策論など、自治体行政に関わる講義科目があり、それらをあわせて受講することにより理解が深まる。						
到達目標	現在の地方行政に対する理解など、地方自治体に関する基礎知識を深められるようになる。						
回	学習内容						
1	オリエンテーション、津市の概況、防災について（防災室）						
2	津市の政策について（政策財務部）						
3	津市シティプロモーション（広報課）						
4	文化・スポーツについて（スポーツ文化振興部）						
5	産業振興（商工業／観光）について（商工観光部）						
6	産業振興（農林水産業）について（農林水産部）						
7	津市の教育について（教育委員会事務局）						
8	選挙について（選挙管理）、津市議会傍聴にむけて						
9	津市議会傍聴【6月】※津市議会 HP の映像配信の視聴						
10	都市計画について（都市計画部）						
11	環境行政について（環境部）						
12	財政について（政策財務部）						
13	津市の福祉について（健康福祉部）						
14	参加と協働のまちづくりについて（市民部）						
15	自治体経営（市長）						
予習内容 復習内容	予習：各講義内容について津市 HP などを活用し、担当部課の業務内容に目を通しておくこと。 復習：毎回配布する資料を復習するとともに、講義中の重要なキーワードを理解しておくこと。						
教科書	教科書・参考文献等の指定はない。 毎回の講義時に配布される各講師が準備したレジュメ・資料をもとに進めていく。						
成績評価	出席時の講義ノート(60%)、議会傍聴レポート(40%)を併せて評価。 1/3 を超えて欠席した場合は評価の対象外、遅刻 3 回で 1 回の欠席とみなす。						
実務経験	講師は、現職の津市長を始め各課の専門職員であることから、それぞれの専門分野で実務を経験し各種の専門計画・事業に携わっている。 授業では、これらの実務経験を活かした実践的な自治体基礎知識の養成に努める						
その他 特記事項	毎回の講義の概要、感想等をまとめた「講義ノート(A4判)」を提出する。 6月津市議会を傍聴し、「議会傍聴レポート(A4判)」を提出する。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
キャリア形成セミナー		南 有哲	講義	2		2, 3	3, 5
授業概要 授業目的		・職場、家庭、地域の一員として、将来の自身のあり方を考えます。 ・本学の卒業生、あるいは様々な分野の専門家、人生の先輩たちの話を通し、自身の人生を選びとってゆく力をつけます（講師は毎回変わります）。 ・具体的な仕事や人生観に触れながら、自身の職業観、勤労観を獲得し、卒業後の進路選択に役立てます。					
到達目標		全講義を通して学ぶことで、自身のキャリアイメージを形成することができる。 毎回、アンケート、質問票を兼ねた小レポートを提出し、文章を簡潔にまとめる力、適切な表現力をつけることができる。					
回	学習内容						
1	キャリアとは何か（ガイダンス）、起業について						
2	就職活動と目標設定						
3	労働関連の法律を知る						
4	税を知る						
5	公的年金制度を学ぶ						
6	企業から求められる人材とは						
7	地域を知る、地域で働く						
8	ポジティブ心理学と SDGs						
9	変化の激しい時代にやるべきこと						
10	スポーツを仕事にする						
11	地域貢献を仕事にする						
12	ハラスメントと職場環境						
13	防災とまちづくりに関わる						
14	ライフプランと金融リテラシー						
15	まとめレポートの作成						
予習内容 復習内容	事前にお知らせする各講師のテーマについて調べ、各回を終えた後に考察メモを復習してください。						
教科書	テキストは使用しない。毎回、各講師より配布されるレジュメ・資料を使用します。						
成績評価	出席状況や毎回の小レポート、最終レポートの提出状況、学習態度などから総合的に評価します。5 回を超えて欠席した場合、評価の対象外とします。						
実務経験	津市長、労働局職員、社会保険労務士をはじめとする各分野の専門職の方々がそれぞれの実務経験から得た職業観や人生観、現在の職業を選択するに至った経緯などをお話しします。						
その他 特記事項	2023 年 4 月の開講時点で、あらためてシラバスを配布する予定です。 <u>1 年生の履修を原則とします。</u>						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
単位互換科目 I	南 有哲					
授業概要 授業目的	三重県内の高等教育機関が参加する「高等教育コンソーシアムみえ」が実施する単位互換制度を利用し、本学以外の高等教育機関で履修した科目を最大 2 科目まで、本学の「単位互換科目」（共通科目）の単位として認定します。					
到達目標	単位互換制度は、県内各高等教育機関が開設する特色ある授業科目を他の高等教育機関で学ぶ学生に開放することによって教育課程の充実、学生の幅広い視野の育成、学習意欲の向上を図ることを目的としています。					
学習内容	①個別の科目の内容・方法および到達目標は、当該科目を開設している高等教育機関が公表しているシラバスを参照してください。 ②単位互換の対象科目やその履修申告方法は、掲示または「高等教育コンソーシアムみえ」のホームページにある「単位互換に係るポスター」を参照してください。ただし、開放科目一覧に掲載されている科目のうち、「三重学（食と観光実践）」、「日本理解特殊講義（医療・健康・福祉実践）」、「現代社会理解実践（次世代産業実践）」及び本学の開設科目（自治体行政特論）については、本学のカリキュラム上、単位互換制度とは別枠での履修となります。 ③単位互換科目は、履修科目が開設されている高等教育機関において受講することになります。授業料は無料（一部体験型授業を除く）ですが、交通費や受講に伴い発生する諸費用は各自の負担となります。また、本学の履修の妨げにならないよう、開講時間等を事前によく確認してください。履修申告の時期や方法についても、高等教育機関によって異なるので、ご注意ください。					
予習内容 復習内容	科目によって指示が異なるので、科目に応じて予習・復習を行ってください。					
教科書	科目によって異なります。					
成績評価	科目によって異なります。					
実務経験						
その他 特記事項	①単位互換科目の履修を希望する学生は、学生部または学生部長までご相談ください ②「高等教育コンソーシアムみえ」のホームページをご参照ください。 ③単位互換制度で単位取得可能な科目数の上限は 2 科目です。ただし、「農林体験セミナー」、「食と観光実践」、「次世代産業実践」、「医療・健康・福祉実践」は単位互換制度とは別枠として扱います（単位互換制度の 2 科目とは別に履修可）。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
単位互換科目Ⅱ	南 有哲					
授業概要 授業目的	三重県内の高等教育機関が参加する「高等教育コンソーシアムみえ」が実施する単位互換制度を利用し、本学以外の高等教育機関で履修した科目を最大2科目まで、本学の「単位互換科目」（共通科目）の単位として認定します。					
到達目標	単位互換制度は、県内各高等教育機関が開設する特色ある授業科目を他の高等教育機関で学ぶ学生に開放することによって教育課程の充実、学生の幅広い視野の育成、学習意欲の向上を図ることを目的としています。					
学習内容	①個別の科目の内容・方法および到達目標は、当該科目を開設している高等教育機関が公表しているシラバスを参照してください。 ②単位互換の対象科目やその履修申告方法は、掲示または「高等教育コンソーシアムみえ」のホームページにある「単位互換に係るポスター」を参照してください。ただし、開放科目一覧に掲載されている科目のうち、「三重学（食と観光実践）」、「日本理解特殊講義（医療・健康・福祉実践）」、「現代社会理解実践（次世代産業実践）」及び本学の開設科目（自治体行政特論）については、本学のカリキュラム上、単位互換制度とは別枠での履修となります。 ③単位互換科目は、履修科目が開設されている高等教育機関において受講することになります。授業料は無料（一部体験型授業を除く）ですが、交通費や受講に伴い発生する諸費用は各自の負担となります。また、本学の履修の妨げにならないよう、開講時間等を事前によく確認してください。履修申告の時期や方法についても、高等教育機関によって異なるので、ご注意ください。					
予習内容 復習内容	科目によって指示が異なるので、科目に応じて予習・復習を行ってください。					
教科書	科目によって異なります。					
成績評価	科目によって異なります。					
実務経験						
その他 特記事項	①単位互換科目の履修を希望する学生は、学生部または学生部長までご相談ください ②「高等教育コンソーシアムみえ」のホームページをご参照ください。 ③単位互換制度で単位取得可能な科目数の上限は2科目です。ただし、「農林体験セミナー」、「食と観光実践」、「次世代産業実践」、「医療・健康・福祉実践」は単位互換制度とは別枠として扱います（単位互換制度の2科目とは別に履修可）。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
農林体験セミナー	石原 洋介	実習	2		2, 3	4, 5
授業概要 授業目的	①農場コース(土は生きている) ・水田、畑地、果樹園、茶園、畜産ならびに農産物加工などの学習を通して、作物生産において土が示す両側面の相互関係について理解するとともに、両側面の持続的発展の方向を探る。 ・2023年8月30(水)～9月1日(金)の3日、農場で実施予定(宿泊) ②演習林コース(森は生きている) (状況により変更される可能性があるので、ご注意ください。) ・流域環境保全における森林の重要性について現場教育を通して体験的に学習するため、平倉演習林(津市美杉町)において3日間の実地演習・講義を実施する。					
到達目標	①農場コース(土は生きている) ・土と食糧生産の関係、三重の地域特産物の歴史と現在、食糧を取り巻く世界ならびに国内情勢、食の安全・安心などに関する認識を高めることで、農や食を正しく理解する。 ②演習林コース(森は生きている) ・森林環境と森林資源が広く人間生活を支えていることを知る。 ・演習林の役割や自然状態が維持されている現場での教育・研究の重要性を理解する。					
学習内容	①農場コース(土は生きている)三重の特産農産物の概要/ダイズの栽培管理/世界と日本の食料事情/イネの収穫/肉牛(松阪牛)の肥育管理/豆腐作り/食の安全・安心と社会/茶(伊勢茶)の加工Ⅰ(茶の栽培、歴史、加工の原理など)/茶(伊勢茶)の加工Ⅱ(茶の加工の実践)/ウンシュウミカン(南紀ミカン)の栽培管理Ⅰ(一年を通じたウンシュウミカンの栽培管理の概要)/ウンシュウミカン(南紀ミカン)の栽培管理Ⅱ(摘果、水管理など栽培管理の実践)/うどん作りⅠ(うどん作りの歴史、加工の原理など)/うどん作りⅡ(うどん作りの実践)/授業の総括 ②演習林コース(森は生きている)演習林の概要、宿舍利用に関する注意事項の説明/森林の多面的機能についての林内学習/天然生林・二次林の林分構造と植生観察/紀伊半島暖温帯に位置する演習林の特徴的な樹木を覚える/人工林施業の解説、溪流沿いの土砂災害見学/映画「WOODJOB!」ロケ撮影と日本の森林・林業の課題解説/身近な木製品とトレーサビリティについて調べる/林業体験*：人工林内での間伐・伐倒から玉伐り*オンラインの場合：同内容をオンライン講義(現地撮影ビデオにる)/林産加工*：コースター加工、丸太ベンチ製作/BBQ*：野外活動と木質資源のエネルギー活用と環境について学ぶ!/環境学習*：涼しい森林溪流環境での散策学習とふりかえり*オンラインの場合：小課題を各自/グループでプレゼン/レポート作成 /WOODJOB!ロケ地、御神木、木材市場などを経由し帰学/ディスカッション/最終レポート作成(状況により変更される可能性があるので、ご注意ください。)					
予習内容 復習内容	事前：課題に沿った予習をしておくこと。 事後：授業項目で課される課題について、レポートなどにまとめること。					
教科書	・必要に応じ資料等を配布する。					
成績評価	①レポートならびに授業態度を総合判断する。②演習への取り組み態度(50%)、レポート(50%)。					
実務経験						
その他 特記事項	・この授業科目は、三重大大学の夏季集中授業に本学の学生も参加し、生物資源学部の農場や演習林での講義・実習・体験学習を行うものです。本講義は、①農場コースと、②演習林コースの2コースがありますが、両コースの同時受講はできません。 ・詳細は、三重大大学から発表があり次第掲示します。 ・状況により変更される可能性があるので、ご注意ください。 ・希望者多数の場合は選考により受講生を決定します。 ・受講要件 学生教育研究賠償責任保険に加入すること。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学DP	学科DP
食と観光実践	石原 洋介	実習	2		2,3	4,5
授業概要 授業目的	・成長産業に位置づけられる観光業の現状を学び、食や歴史文化といった地域独自の資源と結びつける考え方を理解するための体系的なカリキュラムを用意している。授業概要三重県の重要課題である食と観光に対して、現地でのフィールドワークを交えた体験型実習を行う。観光地としての魅力発信や観光客向けのインフラ整備といった生活と観光の両立に向けた課題を理解するとともに、スポーツやボランティアといった昨今の観光潮流と食文化をどのように結びつけるか。地域産業としての観光業と、地域資源としての歴史文化、食の魅力を考察し、提案する機会を設ける。 ・授業目的 現地学習型のフィールドワークによって地域課題を主体的に考え、グループワークにおいて専門性の異なる他者と議論し、地域の社会人に対してインタビューを行なうといった一連のプロセスによって、地域イノベーションを実践する人材育成を目指す。					
到達目標	三重県における社会的事象(観光客誘致、インフラ整備、事業継続性など)を深く理解し、関連する諸分野の知識を統合し、理想的な地域の有り様を探究する。本科目の特徴は現地学習型であり、3～5人のグループワークを通して地域課題(「食と観光」)を発見し、それについて深い分析・考察を加え、その成果を効果的に表現する事で、自らの考えを社会に還元する素養を修得する。					
学習内容	【1回目】13:00～17:00 フィールドワーク 10:00～12:00:施設見学・体験/12:00～13:00:昼食・移動/13:00～14:00:食を通じた観光開発14:10～16:10:グループワーク 【2回目】10:00～16:10 グループワーク 【3回目】10:00～16:10 フィールドワーク 10:00～12:00:観光地として/12:00～13:00:昼食/13:00～14:30:食と観光の取組み 14:10～16:10:グループワーク 【4回目】10:00～16:10グループワーク 13:00～14:30:グループワーク①/14:30～15:00:中間発表/15:00～16:30:グループワーク②					
予習内容 復習内容	・事前学修 MieMu三重県の基礎情報を学ぶ ・事後学修 成果発表会&講評・まとめ					
教科書						
成績評価	・事前学習や現地合宿への積極的な参加40%、成果発表30%、レポート30%					
実務経験						
その他 特記事項	・この講義科目は、コンソーシアムみえに参加する三重県内の高等教育機関の単位互換科目である。三重大学が実施する事前・事後学習及び現地学習に他大学生と共に参加する。 ・現時点での学習内容となり、実際の授業実施に際しては受入れ先と調整の上、変更の可能性もある。 ・学生教育研究賠償責任保険には必ず加入すること。その他、受講にあたり自己負担となる費用が発生する可能性がある(詳細は後日掲示)。					

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学DP	学科DP
次世代産業実践	石原 洋介	実習	2		2,3	4,5
授業概要 授業目的	・授業概要 本講座では、航空宇宙産業を中心とした次世代産業の現状を学び、地域資源と結び付ける考え方を理解するための体系的なカリキュラムを用意している。本県の産業を工業分野で牽引できる三重創生ファンタジスタとして備えるべき発想力と実践力をPBL形式で学ぶ。 ・授業目的 現地学習型のフィールドワークによって地域課題を主体的に考え、グループワークにおいて専門性の異なる他者と議論し、地域の社会人に対してインタビューを行なうといった一連のプロセスによって、地域イノベーションを実践する人材育成を目指す。					
到達目標	三重県における社会的事象(次世代産業、ものづくり産業など)を深く理解し、関連する諸分野の知識を統合し、理想的な地域の有り様を探究する。本科目の特徴は合宿型(2泊3日)であり、3～5人のグループワークを通して地域課題(「次世代産業」)を発見し、それについて深い分析・考察を加え、その成果を効果的に表現する事で、自らの考えを社会に還元する素養を修得する。					
学習内容	学修内容 現地学習 @鈴鹿工業高等専門学校イノベーション交流プラザ 【1日目(座学+グループワーク)】10:30:鈴鹿高専集合(男子学生は、イノベーション交流プラザにて宿泊予定)11:00～12:00:講義1「航空機の歴史概論」(雲井)13:00～14:00:講義2「産業としての航空宇宙」(雲井)14:00～15:00:講義3「航空宇宙分野における材料技術」(黒田) 15:00～17:00:航空力学の基礎・ラピッドプロトタイピングの説明・ワークショップの説明18:00～20:00:次世代産業創出のためのワークショップ(黒田) 【2日目(見学+実験)】9:00:白子駅ロータリーに集合(女子学生と合流)・移動10:00～12:00:事例見学1(大起産業(株)木曽岬工場)12:30～:昼食・移動14:30～17:00:実験① 製作物の飛行試験とデータ収集 @鈴鹿高専体育館18:00～20:00:ワークショップ(製作物の飛行試験データの分析と構造変更)(黒田) 【3日目(座学+発表)】@鈴鹿工業高等専門学校イノベーション交流プラザ9:30:イノベーション交流プラザ地域交流推進室に集合9:30～11:30:講演「日本のロケット開発を支えた現場からのメッセージ」12:30～15:30:グループ発表準備(黒田)15:30～17:30:グループ発表・ディスカッション・まとめと振り返り(黒田)18:00:解散					
予習内容 復習内容	・事前学習 与えられたテーマについて、A4レポート1枚にまとめ、合宿の2週間前に提出する。 ・事後(まとめ・復習)「本授業の履修を通して得られたもの」というテーマでA4レポート1枚を提出。					
教科書						
成績評価	・授業への積極的な参加40%、成果発表30%、レポート30%					
実務経験						
その他 特記事項	・この講義科目は、コンソーシアムみえに参加する三重県内の高等教育機関の単位互換科目である。三重大学が実施する事前・事後学習及び現地学習に他大学生と共に参加する。 ・現時点での学習内容となり、実際の授業実施に際しては受入れ先と調整の上、変更の可能性もある。 ・学生教育研究賠償責任保険には必ず加入すること。その他、受講にあたり自己負担となる費用が発生する可能性がある(詳細は後日掲示)。					

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学DP	学科DP
医療・健康・福祉実践		石原 洋介	実習	2		2,3	4,5
授業概要 授業目的	・授業概要 三重県の重点課題である医療・健康・福祉に対して、主に僻地(離島)医療の観点から学修を行なう。局地的に過疎高齢化が進む離島地域において、予防的アプローチでの健康長寿、在宅型の地域包括ケアを中心とした福祉、急性期から慢性期に対応する医療といった各領域の横断的取組みについて理解を深める。医療のみならず、地域事業としての福祉、健康を目的とした各種取組みを知ることにより、自治体や地域団体の役割を考察し提案していく機会を設ける。 ・授業目的 本科目においては医療分野に限定せず、健康や福祉をテーマにした各種取組みを専門分野の先生方による講義を通して、分野横断的に研究・実践できる視野を修得するものである。地域課題を主体的に考え、グループワークにおいて専門性の異なる他者と議論し、地域の社会人に対してプレゼンテーションするといった一連のカリキュラムによって、地域イノベーションを実践する人材育成を目指す。						
到達目標	三重県における社会的事象(僻地医療、地域包括ケア等)を深く理解し、関連する諸分野の知識を統合し、理想的な地域の有り様を探究する。グループワークを通して地域課題(「医療・健康・福祉」)を発見し、それについて深い分析・考察を加え、その成果を効果的に表現する事で、自らの考えを社会に還元することができる。地域住民や社会人といった異なる立場の人たちにインタビューし、その内容に対してグループ討議を経てそれぞれの専門性に則った意見を述べることで主体性を発揮できる。						
学習内容	①高齢期の生活継続・支援 転居、定住 居住環境/地方の孤立・生活支援/グループワーク ②シームレスな介護と医療連携/生きがい/高齢化を恐れない地域づくり 見学/フィールドワーク ③救急医療/ドクターヘリ/災害医療						
予習内容 復習内容	・事前学修回 オリエンテーション・講義・グループワーク ・事後学修回 グループワーク・事後レポート						
教科書							
成績評価	・授業への積極的な参加40%、成果発表30%、レポート30%						
実務経験							
その他 特記事項	・この講義科目は、コンソーシアムみえに参加する三重県内の高等教育機関の単位互換科目である。三重大学が実施する事前・事後学習及び現地学習に他大学生と共に参加する。 ・現時点での学習内容となり、実際の授業実施に際しては受入れ先と調整の上、変更の可能性もある。 ・学生教育研究賠償責任保険には必ず加入すること。その他、受講にあたり自己負担となる費用が発生する可能性がある(詳細は後日掲示)。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
憲法 I		鎌塚 有貴	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的		本講義では、憲法における人権分野を扱う。 日本国憲法および諸外国の憲法を参照しながら、憲法とはなにか、人権とはどういうものなのかを考える。また、憲法上の問題を身近に感じられるようにするため、判例や時事問題を紹介する。 憲法を学ぶことに加えて、法体系全体を意識できるようになることを目指す。					
到達目標		日本国憲法の構造と人権保障の内容について理解すること。特に、近代立憲主義において人権が果たしてきた重要な役割を意識しながら、現在のグローバル化社会や情報社会における新しい権利保障についても考察できるようになること。					
回	学習内容			回	学習内容		
1	ガイダンス：授業評価、進行について			16	信教の自由：判例		
2	国家について			17	集会の自由		
3	憲法の成立			18	結社の自由		
4	明治憲法と日本国憲法			19	報道の自由		
5	日本国憲法における人権			20	出版・表現の自由		
6	明治憲法と日本国憲法			21	人身の自由		
7	幸福追求権、人格権			22	裁判を受ける権利		
8	自己決定権			23	被告人・被疑者の権利		
9	新しい人権			24	学問の自由・大学の自治		
10	国際協調主義			25	教育を受ける権利		
11	私人間効力：学説			26	経済活動の自由		
12	私人間効力：判例			27	勤労の義務・権利		
13	法の下での平等：学説			28	財産権		
14	思想・良心の自由			29	婚姻に関する権利		
15	信教の自由：学説			30	まとめ（課題講評など）		
予習内容 復習内容		新聞記事やニュース等に目を通しておくこと。					
教科書		加藤一彦・柏崎敏義編『新 憲法判例特選〔第3版〕』（敬文堂、2021年）。					
成績評価		期末試験 100%。					
実務経験							
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
憲法Ⅱ		鎌塚 有貴	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	本講義では、憲法における統治分野を扱う。 日本国憲法および諸外国の憲法を参照しながら、憲法とはなにか、人権とはどういうものなのかを考える。また、憲法上の問題を身近に感じられるようにするため、判例や時事問題を紹介する。 憲法を学ぶことに加えて、法体系全体を意識できるようになることを目指す。						
到達目標	日本国憲法における統治機構の役割・権能について理解すること。特に、国家と国民の関係や、立憲主義にもとづく統治によって人権保障が実現できるという構造を日常のニュース等と関連付けることができるようになること。						
回	学習内容						
1	ガイダンス：授業評価、進行について						
2	選挙権・選挙制度						
3	国会の権能						
4	国政調査権						
5	行政権・議院内閣制						
6	司法権・裁判所						
7	司法権の独立						
8	違憲審査制：制度						
9	違憲審査制：審査基準						
10	政教分離						
11	財政						
12	地方自治						
13	平和主義						
14	憲法改正						
15	まとめ（講評など）						
予習内容 復習内容	新聞記事やニュースに目を通しておくこと。						
教科書	加藤一彦・柏崎敏義編『新 憲法判例特選〔第3版〕』（敬文堂、2021年）						
成績評価	試験 100%						
実務経験							
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
民法 I		照井 遥瑛	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	民法は、人と人との生活関係（ゲームやパソコンを買う、アパートを借りる等）と身分関係（結婚をする、離婚をする、相続をする等）に関する基本的ルールを定めている法律です。この授業では、民法についての全体像の概説をした上で、民法総則、物権法、担保物権法を取り扱います。初学者でも理解しやすいように、具体的な事例をできるだけ多く取り上げ、それに即して基本的な事項や判例・学説を解説します。						
到達目標	①民法総則、物権法、担保物権法の基礎的知識を身に付け、自分なりに説明できる。 ②日常生活で法的問題に直面したときに、それに適用すべき民法の条文とそれによって想定される結果について、自分の考えを論理的に説明できる。						
回	学習内容		回	学習内容			
1	ガイダンス、民法の構造		16	時効③：消滅時効			
2	民法の基本原則		17	物権とは、物権の種類			
3	権利能力、意思能力		18	物権の請求権			
4	行為能力、制限行為能力者		19	物権変動、対抗要件、公示の原則、公信の原則			
5	意思表示とは、法律行為とは		20	不動産物権変動①：取消しと登記、時効と登記			
6	意思表示①：心裡留保		21	不動産物権変動②：民法 177 条の「第三者」			
7	意思表示②：虚偽表示		22	動産物権変動：対抗要件、即時取得			
8	意思表示③：錯誤		23	占有権			
9	意思表示④：詐欺・強迫		24	所有権			
10	無効・取消し、強行規定・任意規定、公序良俗		25	地上権、地役権			
11	代理①：代理とは		26	抵当権①：担保物権の性質、物上代位制度ほか			
12	代理②：表見代理		27	抵当権②：抵当権と第三取得者、法定地上権ほか			
13	代理③：無権代理		28	質権、留置権、先取特権			
14	時効①：時効とは、条件・期限		29	譲渡担保			
15	時効②：取得時効		30	まとめ			
予習内容 復習内容	予習：教科書の該当箇所に目を通すこと。 復習：教科書、自作ノート、授業資料を再確認し、授業内容に対する理解を深めること。						
教科書	生田敏康ほか『民法入門』（法律文化社、第 2 版、2021 年） 最新年度版の小型六法（「ポケット六法」や「デイリー六法」など） 授業ではパワーポイントを用いて解説します。スライド資料は事前にオンライン上で配布します。						
成績評価	出席時に提出するレポート内容（50%）、期末試験（50%）で成績評価を行います。成績評価方法の詳細は初回講義の時に説明します。						
実務経験							
その他 特記事項	小型六法は最新年度版のものを必ず持参してきてください。民法 I は、抽象的な条文を多く扱うため、これから民法を学ぼうとする皆さんにとって最初のハードルとなると思いますが、この講義で修得した知識が今後履修する民法各科目の基礎となりますので、焦らず・諦めずに予習・復習に努めることが肝心です。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
民法Ⅲ		照井 遥瑛	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	購入した商品に欠陥があったとき買主は売主に対して法的にどのような請求をすることができるでしょうか？交通事故にあったとき被害者は加害者に対して法的にどのような請求をすることができるでしょうか？この授業では、民法典のうち、契約トラブルを解決するためのルールや不法行為にまつわるルールなどを規定している「債権各論」と呼ばれる部分を取り扱います。この授業を通して、民法は日常生活に密接に関わっているというイメージをさらに深めてほしいと思います。初学者でも理解しやすいように、具体的な事例をできるだけ多く取り上げ、それに即して基本的な事項や判例・学説を解説します。						
到達目標	①債権各論の基本的な概念、重要な条文、主要な法的問題についての知識を身に付け、説明できる。 ②日常生活で法的問題に直面したときに、それに適用すべき民法の条文とそれによって想定される結果について、自分の考えを論理的に説明できる。						
回	学習内容						
1	ガイダンス、債権各論の全体像						
2	契約の成立						
3	契約の効力						
4	契約の解除						
5	売買契約						
6	贈与契約						
7	消費貸借契約、使用貸借契約						
8	賃貸借契約						
9	雇用契約、請負契約						
10	委任契約、寄託契約						
11	事務管理、不当利得						
12	不法行為の要件①：故意・過失、権利侵害ほか						
13	不法行為の要件②：損害の発生、因果関係ほか						
14	不法行為の効果						
15	特殊の不法行為						
予習内容 復習内容	予習：教科書の該当箇所に通すこと。 復習：教科書、自作ノート、授業資料を再確認し、授業内容に対する理解を深めること。						
教科書	生田敏康ほか『民法入門』（法律文化社、第2版、2021年） 最新年度版の小型六法（「ポケット六法」や「デイリー六法」など） 授業ではパワーポイントを用いて解説します。スライド資料は事前にオンライン上で配布します。						
成績評価	出席時に提出するレポート内容（40%）、期末試験（60%）で成績評価を行います。成績評価方法の詳細は初回講義の時に説明します。						
実務経験							
その他 特記事項	小型六法は最新年度版のものを必ず持参してきてください。予習の段階では理解しにくい箇所が多いと思いますので、復習を丁寧に、かつ時間を掛けて行うようにして下さい。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
家族法		木村 義和	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的		「あなたにとって大切な者は何ですか？」と尋ねられた時、多くの人が答えるものの一つが「家族」です。この家族の関係についての基本的なルールを理解することが本講義の目的です。本講義では、家族法の重要な制度を重点的に解説します。					
到達目標		家族法の重要な制度を理解し、基礎知識が修得できる。					
回	学習内容			回	学習内容		
1	家族法の意義と親族			16	相続法序論		
2	婚姻の成立			17	相続回復請求権		
3	婚約・結納・内縁			18	相続欠格		
4	婚姻の一般的効果			19	相続人の廃除		
5	婚姻の財産的効果			20	相続分		
6	離婚の手続き			21	特別受益		
7	離婚の有責主義と破綻主義			22	寄与分		
8	離婚の効果（財産分与）			23	遺産の範囲		
9	離婚の効果（子をめぐり問題）			24	遺産の分割方法		
10	嫡出子			25	相続の承認		
11	非嫡出子			26	相続の放棄		
12	普通養子			27	遺言の方式		
13	特別養子			28	遺言の無効・取消		
14	親権			29	遺贈		
15	扶養			30	遺留分		
予習内容 復習内容		予習：レジュメを見ながらテキストの該当箇所を読む。 復習：ノートを見ながら授業内容を整理し、理解する。					
教科書		床谷文雄・神谷遊・稲垣朋子・且井佑佳・幡野弘樹『新プリメール民法 5 家族法』（法律文化社）					
成績評価		各回に行う小テスト 60%＋試験 40%で評価する。 小テストは各回の授業の最後に行う。					
実務経験							
その他 特記事項		熱意を持って楽しく分かり易い授業をすることをモットーにしています。この授業モットーに賛同し、授業を楽しく受講できる学生はぜひ履修してください。実りある講義になるようにお互い努力しましょうね。					

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
会社法		名島 利喜	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的		会社の組織と行動に関する基本的なルールを定めている会社法全般について概説を行なう。 会社の多くは株式会社形態を採用しているので、株式会社に関する法規制および条文の解釈についての判例・学説の状況を、初学者にも理解できるように説明する。 したがって、株式会社法にほぼ限定しながら、法律制度としての「株式会社」に関する基礎知識を提供することを目的とする。					
到達目標		①会社法の諸制度の趣旨や内容を的確に理解できる。 ②会社法の諸制度が、経済社会でどのように機能しているのかを説明できる。					
回	学習内容		回	学習内容			
1	オリエンテーション・会社の起源		16	株式会社の機関構造			
2	会社と会社法		17	株主総会の意義・実態・権限			
3	会社—その実態と法律上の定義		18	株主総会の招集・運営			
4	会社の権利能力とその制限		19	株主総会決議の瑕疵			
5	法人格否認の法理		20	取締役の資格・選任・任期			
6	資本金制度と会社債権者保護		21	取締役会の意義・権限・決議			
7	株式の意義と株主の権利義務		22	代表取締役の意義・権限・解職			
8	株式会社の設立：意義・手続の概要		23	取締役の義務と報酬等			
9	株式会社の設立：法規制		24	取締役の法的責任			
10	株式の譲渡自由の原則（自由譲渡性）		25	株主代表訴訟＝株主による責任の追及			
11	公開会社と株式の公開		26	監査役・監査役会・会計監査人			
12	株式の譲渡制限		27	指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社			
13	自己の株式の取得		28	株式会社の資金調達に関する規律			
14	親子会社関係・株式相互保有		29	組織再編・組織変更			
15	中間テストおよび試験終了後に前半のまとめ		30	総括：コーポレート・ガバナンス			
予習内容 復習内容	予習：予め指示された箇所の条文をゆっくり読んでみること。 復習：講義内容を思い浮かべながら、もう一度ゆっくり条文を読み返すこと。						
教科書	最新版の六法（小型のものでよい）。						
成績評価	中間テスト 40%、期末試験 60%、合計 100%						
実務経験							
その他 特記事項	日本経済新聞等に目を通したりして、日本の会社経営の実状についても視野を広めてほしい。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
商法総則・商行為		楠井 嘉行	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	商法総則・商行為に関する商法の規定と民法の規定との違いや企業取引実務を中心に学習する。商業登記簿や商業帳簿、企業取引に関する各種書式等を用いて平易に解説したい。企業取引実務に関するビデオ等を見て、知識をより深いものにする。 商法に規定される商法総則・商行為の内容、民法との違いや各規定が具体的に適用される場面について学習しつつ、企業取引の具体的な実務を学習する。						
到達目標	① 商法総則・商行為に関する基本的知識を修得する。 ② 企業取引実務に関する知識を深める。 ③ 社会人となって有用と思われる企業取引実務を身につける。						
回	学習内容						
1	商法とは						
2	商法総則総論						
3	商業登記						
4	商号、商業帳簿						
5	補助者						
6	営業譲渡、商行為法総則①						
7	商行為法総則②						
8	商事売買、交互計算						
9	匿名組合、問屋営業						
10	仲立営業						
11	運送営業						
12	運送取扱営業、倉庫営業、場屋営業						
13	保険法						
14	手形・小切手①						
15	手形・小切手②、電子記録債権						
予習内容 復習内容	予習：講義中に紹介する参考書に目を通す。 復習：講義資料やノートを読み返す。						
教科書	第 1 1 版 現代商法入門 有斐閣 近藤光男（編）						
成績評価	レポートによる評価の予定。単位を心配せず授業をよく聞いて学習されたい。 出席 3 0 %、レポート課題 7 0 %で評価したい。						
実務経験	昭和 6 0 年 4 月 三重弁護士会 弁護士登録。三重県信用組合金融整理管財人や金融機関の法律顧問等の経験を生かしてお話します。						
その他 特記事項	企業取引で使われる書式のほか、実務に関連したビデオもできるだけ多く見て頂く予定ある。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
刑法		楠本 孝	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	刑法は、国家に刑罰権を付与する法であると同時に、国家刑罰権の限界を明確にすることによって、市民の権利を保障する法でもある。近代刑法は、アンシャン・レジームの過酷な刑罰制度を克服するため、国家の刑罰権を抑制し、市民の人権を保障する諸原則を発達させてきた。ところが現代刑法は、この近代刑法の諸原則を修正して「現代社会のニーズ」に合わせる動きを見せている。この近代刑法原則の現代の変容とはどのようなもので、それは我々の社会にとってどのような意味を持っているのかを考えたい。						
到達目標	本講は、刑法の基本原則を理解し、それを踏まえて、マスコミ等でセンセーショナルに取り上げられる刑法現象を批判的に論評する目を養うことを目標とする。						
回	学習内容			回	学習内容		
1	刑法と刑法学			16	不作為犯		
2	刑罰論①—刑罰の種類と内容			17	違法性阻却事由		
3	刑罰論②—刑罰正当化論			18	違法性阻却の一般原理		
4	犯罪論の基本原則			19	被害者の承諾/安楽死		
5	罪刑法定主義①—罪刑法定主義の基礎			20	正当防衛と緊急避難		
6	罪刑法定主義②—罪刑法定主義の派生原則			21	喧嘩と正当防衛		
7	罪刑法定主義③—実体的デュープロセスの理論			22	緊急避難の不処罰根拠		
8	罪刑法定主義④—合憲限定解釈			23	責任/期待可能性		
9	犯罪の定義と犯罪論の体系			24	違法性の意識の可能性		
10	行為と構成要件			25	責任能力		
11	故意			26	原因において自由な行為		
12	過失			27	未遂①—実行の着手		
13	事実の錯誤			28	未遂②—不能犯/中止犯		
14	結果的加重犯			29	共犯①—共犯の従属性		
15	因果関係論			30	共犯②—共謀共同正犯		
予習内容 復習内容	図書館所蔵の刑法総論の教科書（任意）で予習し、講義中に配布する講義ノートで復習すること						
教科書	教科書は特に指定しない。ただし、六法は必携。参考書として楠本孝『刑法解釈の方法と実践』（現代人文社）。また、毎回資料を配布するので、その整理を怠らないこと。						
成績評価	期末試験の成績をベースに判断するが、小レポートの内容を加味して判断する。試験の成績 90%、小レポート 10%。レポートを提出しても、内容の無いものは評価しない。再試験は行わない。						
実務経験							
その他 特記事項	「刑事政策」も受講することが望ましい。刑罰論の詳細や少年法などの解説は「刑事政策」で行います。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
行政法		古畑 淳	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的		私たちの生活は行政と密接にかかわっている。子どもや高齢者が安心して生活できるように、また、地域で暮らす私たちがよりよい環境で安心して生活できるように、行政は様々な活動を行っている。行政法はそうした行政の活動についてのルールと、行政の活動により市民の権利等が侵害された場合の是正と賠償のルールなどを定めた法である。 授業では、身近な生活問題に即して、私たちと行政との関わり、行政の様々な活動の形式、行政の活動の是正を求める手段、そして、違法な行政活動により生じた損害についてその賠償を求める仕組みなどを学ぶ。					
到達目標		1) 法律による行政の原理と行政上の一般原則について理解する。 2) 行政の様々な活動の形式と活動の統制の仕組みについて理解する。 3) 行政の活動の是正を求める手段と違法な行政活動により生じた損害の賠償を求める仕組み、また損失補償の仕組みを理解する。					
回	学習内容			回	学習内容		
1	行政法への招待			16	行政争訟制度の沿革と意義		
2	行政組織について学ぶ			17	行政上の不服申立てを学ぶ① 不服審査の仕組みと組織		
3	法律による行政の原理を学ぶ			18	行政上の不服申立てを学ぶ② 不服申立ての審理と判断（裁決）		
4	行政上の一般原則を学ぶ① 平等原則、比例原則、信頼保護原則等			19	行政上の不服申立てを学ぶ③ 行政不服審査会の答申を読む		
5	行政上の一般原則を学ぶ② 透明性原則 説明責任原則			20	行政事件訴訟を学ぶ① 行政事件訴訟の全体像		
6	行政行為（行政処分）を学ぶ① 行政行為の意義、種類			21	行政事件訴訟を学ぶ② 取消訴訟の対象		
7	行政行為（行政処分）を学ぶ② 行政行為の効力、職権による取消しと撤回			22	行政事件訴訟を学ぶ③ 取消訴訟の原告適格と訴えの利益		
8	行政手続を学ぶ① 申請に対する処分手続			23	行政事件訴訟を学ぶ④ 取消訴訟の審理と判決		
9	行政手続を学ぶ② 不利益処分の手続、手続的瑕疵の効果			24	行政事件訴訟を学ぶ⑤ 取消訴訟における仮の救済		
10	行政基準を学ぶ			25	行政事件訴訟を学ぶ⑥ 取消訴訟以外の抗告訴訟（義務付け訴訟等）		
11	行政計画を学ぶ			26	行政事件訴訟を学ぶ⑦ 抗告訴訟以外の行政事件訴訟（当事者訴訟等）		
12	行政指導を学ぶ			27	国家賠償を学ぶ① 公権力の行使に関する賠償		
13	事実行為を学ぶ			28	国家賠償を学ぶ② 行政の危険防止責任		
14	行政上の義務の実効性確保を学ぶ			29	国家賠償を学ぶ③ 営造物の瑕疵に関する賠償		
15	情報公開法を学ぶ			30	損失補償を学ぶ		
予習内容 復習内容	担当者作成のレジュメ・資料（次回授業用）と教科書（該当箇所を指示する）を一読する。 担当者作成のレジュメ・資料と教科書を再読する。授業で学習した事項（ノート）の整理を行う。						
教科書	大橋洋一『社会とつながる行政法入門〔第2版〕』（有斐閣、2021年、1,800円）を使用する。 ※授業は担当者作成のレジュメ・資料（判決の判示事項の抜粋、新聞記事、自治体広報誌、各種統計資料等により作成）を用いて進めていきます。教科書は事前事後の学習において使用します。また、授業を進める中で適宜、参照いたします。						
成績評価	授業の終わりに行う小テストないしミニレポートの評価（30％）と定期試験の結果（70％）の合計で評価します。						
実務経験							
その他 特記事項	『ポケット六法』等の六法（最新年度版のもの）を持参して授業に臨むこと。 行政の活動の実際を知るために、日頃からニュース・新聞などの報道に注意すること。新聞などの切り抜き（スクラップ）を作ることを勧めます。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
労働法		西川 昇吾	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	本講義では、労働法、とりわけ、その中心部分を占める雇用関係法（使用者と労働者の関係を規律する法領域）および労使関係法（労働組合と使用者の関係を規律する法領域）の基礎的事項や重要判例を解説する。具体的には、毎回、レジュメを配布するが、板書等も用いて補いながら、学修すべき内容を口述で伝達する。 それにより、労働法における正確な知識や概念等を摂取し、それらを基盤として、結論のみではなく、そこに至る過程も段階的に説明しうる力を養うことが、本講義の目的である。						
到達目標	① 労働法の各論点における法的意義・要件・効果等を把握する。 ② 労働法上の概念や論理等を言葉で表現し、他者へ説得的に説明しうる。 ③ 労働法の争点においては、複数の結論が並存しうることを許容できる。						
回	学習内容			回	学習内容		
1	ガイダンス／労働基準法の意義・目的			16	労働時間		
2	労働基準法等の適用対象			17	休憩／休日／変形労働時間制等		
3	均等待遇／雇用における男女平等			18	時間外労働／休日労働		
4	強制労働禁止／中間搾取排除／公民権行使保障			19	年次有給休暇		
5	労働契約の意義・期間			20	就業規則		
6	更新拒否（雇止め）からの保護／採用内定			21	懲戒処分		
7	試用期間／配転／出向			22	妊産婦等の保護／労災補償		
8	転籍／労働者派遣			23	労働組合の法的規制		
9	昇格／降格			24	労働組合の内部問題		
10	解雇			25	不当労働行為		
11	定年／退職／解散等			26	団体交渉		
12	労働契約上の権利・義務／就労請求権／業務命令			27	労働協約		
13	休職／競業避止義務／秘密保持義務等			28	争議行為		
14	賃金の法的保護／休業と賃金			29	使用者の争議行為		
15	退職金／賞与／賃金カット			30	組合活動		
予習内容 復習内容	受講生みずからが、配布されたレジュメを事前に一読すること等により予習し、授業において書き記した内容をノートに整理すること等により復習する。						
教科書	教科書は指定せず、上記のとおり、レジュメを使用する。なお、第1回授業にて、購入任意の「参考文献一覧」を提示する予定である。						
成績評価	平常点 30％（各回のリアクションペーパー提出 1 点×30）、試験 70％（五肢選択問題 10 点・空欄補充問題 20 点・論述問題 40 点）により評価する（ただし、3 分の 2 以上の出席を要する）。						
実務経験							
その他 特記事項	受講に際しては、知識や論理等をインプットするだけでなく、それらを言葉や文章でアウトプットできるよう意識してほしい。また、レジュメ等に目を通して、企業の実情や訴訟当事者のやり取りを想像・思考してほしい。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
民事訴訟法		浦谷 知絵	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	民事訴訟法は、実体法上規定されている権利義務の実現手段を定めた重要な法律である。本講義では、民事訴訟法が定める第一審判決手続（訴えの提起から判決の確定まで）の概要について説明を行うものである。具体的には、売買代金支払請求権等の事例を用いて、民事紛争の解決という観点からみて民事訴訟がどのような性格を有しているのか、民事訴訟法における諸概念がどのような意義を有しているのか、また、どのような手続として運営されているのかについてみていくものである。						
到達目標	民事訴訟手続の全体の流れを理解する。民事訴訟法における原理原則、基本概念などの専門用語を理解し、個別の問題について、これまでに展開されてきた学説及び判例の理論を理解する。重要論点の検討を通じて、与えられた事案を解決できるようになる。						
回	学習内容			回	学習内容		
1	ガイダンス、民事訴訟の基本構造			16	証明責任:証明責任の分配基準		
2	民事訴訟の基本原則			17	証拠調べ 1 総論:書証・検証・証人尋問・当事者尋問・鑑定		
3	訴訟の開始			18	証拠調べ 2 各論:文書提出命令、証拠保全		
4	訴え提起の効果:時効など民法で学んだことと関連させながら学ぶ。			19	口頭弁論における当事者の訴訟行為:訴訟における当事者の争い方		
5	裁判所と管轄:どこの裁判所に提訴できるのか			20	判決以外の訴訟終了原因		
6	当事者 1:形式的当事者概念			21	裁判と判決:裁判の種類、終局判決、中間判決		
7	当事者 2:当事者能力と訴訟能力、訴訟代理			22	既判力 1:既判力の客観的範囲		
8	訴訟物:訴訟物概念とその機能			23	既判力 2:既判力の主観的範囲		
9	訴訟要件 1:訴訟要件とは、訴えの利益			24	既判力 3:訴訟上の相殺、一部請求		
10	訴訟要件 2:当事者適格、第三者の訴訟担当			25	判決効に関する論点		
11	口頭弁論:口頭弁論の意義及びその必要性、口頭弁論における諸原則			26	複数請求		
12	弁論主義 1:弁論主義の 3 原則			27	複数当事者訴訟 1:通常共同訴訟、必要的共同訴訟		
13	弁論主義 2:裁判所の釈明権・釈明義務			28	複数当事者訴訟 2: 訴訟参加・訴訟承継		
14	弁論主義 3:裁判上の自白			29	上訴・再審		
15	証拠と証明:証明についての基本事項、自由心証主義、証拠能力			30	まとめ:第一審手続の復習		
予習内容 復習内容	事前学習として、教科書の該当箇所を読むこと。 事後学習として、教科書とレジュメの事例問題を解き直し、用語をノートにまとめること。						
教科書	越山和広『ベーシックスタディ民事訴訟法 [第 2 版] 』（法律文化社、2023 年）、六法（毎回必ず持参）						
成績評価	定期試験 70%、小テスト 30%（毎回授業内で小テストを実施します。2 点×15 回）						
実務経験							
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
刑事訴訟法		加藤 拓也	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	刑事手続の流れ、登場人物とそれぞれの立場、刑事手続における法的論点とその解釈論、実務上の運用状況と判例の動向等について、日頃刑事手続に關与している弁護士が具体的な事件や実務経験に即して解説します。基本的には講義形式ですが、受講者の発言や意見を求めることもあります。						
到達目標	具体的な事件について法律的な観点から問題点を発見し、論理的に考察できる。 一主権者として刑事手続や社会のあり方を考えることができる。						
回	学習内容		回	学習内容			
1	刑事訴訟法の概要と授業計画		16	刑事裁判の概略			
2	刑事事件に関わる人とその役割		17	刑事裁判の基本原則			
3	ビデオ視聴と解説 1（捜査）		18	刑事裁判の審判対象			
4	ビデオ視聴と解説 2（被告人の立場）		19	証拠物・科学的証拠の証拠能力			
5	ビデオ視聴と解説 3（公判）		20	自白の取扱い			
6	強制捜査と任意捜査		21	供述調書の取扱い			
7	捜査の始まり		22	違法に収集された証拠			
8	証拠物を収集する捜査		23	適正な事実認定			
9	新しい捜査方法		24	模擬裁判			
10	被疑者の身体拘束		25	判決・上訴・再審			
11	被疑者の取調べ		26	裁判員裁判			
12	被疑者の防御権		27	少年法			
13	捜査の終結		28	犯罪被害者保護			
14	捜査弁護の実務		29	有罪判決後の処遇と更生			
15	捜査法の総括		30	あるべき刑事手続のあり方			
予習内容 復習内容	予習：授業中に次回授業で触れる判例等を紹介しますので、その内容を確認してください。 復習：上記レジュメの内容とそこで示された判例等を再度確認して下さい。						
教科書	教科書は特に指定しません。参考文献は必要に応じてご紹介します。 なお、判例は、最高裁のホームページでも閲覧できます。						
成績評価	出席点（不定期に実施する小テスト・レポートを含む。）50％、定期試験（年2回）50％ 毎回出欠をとり、11回以上欠席があった場合には成績評価の対象外とします。積極的な発言、良い質問については、出席点のうち10％の範囲内で加点します（但し出席点の上限は50％です。）。 講師は、三重弁護士会所属の弁護士です。刑事事件は今までに130件以上担当し、裁判員裁判や被害者参加の経験も複数あります。その中で得られた実務経験等も踏まえながら、刑事手続について具体的かつ分かりやすくお話しします。						
その他 特記事項	新型コロナウイルス感染症の感染状況等によっては、上記授業計画に変更が生じることがあります。 その場合には、事前に適宜お知らせします。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
政治学原論		長澤 高明	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的		テキストに沿って、現代政治を理解するための基礎知識・基礎概念および考え方について講義する。私が一方的に喋るということはず、受講生と対話しながら講義を進める。時事問題を講義冒頭で取り上げて解説する。					
到達目標		1 ニュースが理解できるようになる。 2 政治制度について理解できるようになる。 3 人に説明できるようになる。					
回	学習内容		回	学習内容			
1	日本の政治文化		16	5 章：議会主義から議会制民主主義への変遷			
2	メディアと政治：情報源と判断の仕方		17	5 章：日本における議会の発展			
3	10 章：メディアの効果について		18	6 章：選挙の仕組み。衆議院と参議院			
4	1 章：憲法と安保条約の関係		19	7 章：政党の機能とは何か			
5	1 章：アメリカへの従属とは何か		20	7 章：政党の性格と類型について			
6	1 章：集団的自衛権と集団安全保障		21	8 章：戦後政党史。55 年体制まで			
7	2 章：財界（経済団体）とは何か		22	8 章：55 年体制の特徴			
8	2 章：歴代内閣の経済政策を知る		23	8 章：55 年体制の終焉から民主党政権まで			
9	2 章：政官財と献金問題		24	8 章：民主党政権の終わりから現在まで			
10	3 章：戦後内閣史。東久邇宮から福田内閣まで		25	9 章：住民運動、市民運動と社会運動			
11	3 章：大平から宇野内閣まで		26	9 章：運動の意義と役割について			
12	3 章：海部から麻生内閣まで		27	男女間の民主主義を考える			
13	3 章：民主党政権から現在まで		28	宗教の基礎知識			
14	4 章：政治学用語の説明。統治と権力。支配の類型など		29	宗教と政治の関係。日本人の宗教観			
15	4 章：国家類型と国家形態の違い		30	時事問題解説			
予習内容 復習内容		予習としては、テキストの該当箇所を読んでおき、わからない箇所をメモしておくこと。 復習としては、参考として配付したプリントも読んで、当初わからなかった個所が分かったかどうか確認しておくこと。					
教科書		長澤高明『改訂版 入門 現代日本の政治』（学習の友社）。なお、参考文献はそのつど指示する。					
成績評価		11 回以上欠席した場合は成績評価の対象としない。成績は「小テスト 2 回（20%）、レポート 3000 字（50%）、授業への積極的な態度（30%）」の総合評価とする。					
実務経験							
その他 特記事項		新聞を読む努力をしてほしい。辞書を引く習慣を身に付けてほしい。					

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
行政学		川上 哲	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	本講義では主に日本の政治・行政制度の仕組みを解説していく。その際、単に現在の制度がどのような仕組みになっているのかを説明するだけではなく、歴史的にどのような過程を経て現在の制度が形成されてきたのかを重視しながら授業を進めていく。 本講義の目的は受講生が現在の政治・行政制度に対する理解を深め、主権者として地域社会を担っていく基礎的な素養を身に付けることである。また公務員を目指す学生が政治や行政に関する基本的な知識を習得することも目的とする。						
到達目標	①行政学の基本的な理論を理解する。 ②日本の政治・行政の基本的な仕組みについて理解する。 ③日本の政治・行政改革の歴史的な経過を理解する。						
回	学習内容			回	学習内容		
1	講義概要及び評価方法			16	行政ネットワーク論① 特殊法人と独立行政法人		
2	行政学の歴史と理論① 行政学の成立と発展			17	行政ネットワーク論② 業界団体・NPO・審議会		
3	行政学の歴史と理論② アメリカ行政学			18	政策形成と政策立案		
4	行政学の歴史と理論③ 最近の行政学の理論			19	環境変動と政策立案		
5	大統領制の仕組みと特徴 アメリカ			20	中央省庁の意思決定方式		
6	議院内閣制の仕組みと特徴 日本			21	予算編成過程と会計検査		
7	内閣官房・内閣府・内閣法制局の機能と役割			22	行政統制と行政責任		
8	中央省庁の仕組みと役割① 行政組織制度			23	新自由主義思想と新自由主義改革		
9	中央省庁の仕組みと役割② 中央省庁の編制			24	戦後日本の政治・社会構造		
10	国家公務員論① 任用			25	政治・行政改革史① 中曽根政権と臨調行革		
11	国家公務員論② 昇任			26	政治・行政改革史② 細川政権と政治改革		
12	国家公務員論③ 退職			27	政治・行政改革史③ 橋本政権と六大改革		
13	官僚制組織論① 上司と部下			28	政治・行政改革史④ 小泉政権と構造改革		
14	官僚制組織論② 権威と権限			29	政治・行政改革史⑤ 安倍政権とアベノミクス		
15	官僚制組織論③ 第一線公務員			30	講義のまとめ		
予習内容 復習内容	初回までに高等学校レベルの政治・経済の内容を復習しておく。 2回目以降の予習・復習は講義内で指示する。						
教科書	教科書は使用せず、レジメと資料を配布する。必要に応じて参考文献を紹介する。						
成績評価	毎回の講義時に提出するコメントシート：30%、レポート：70%で評価する。						
実務経験							
その他 特記事項	受講生の理解度に応じて内容や順番を見直すこともあり得る。 正当な理由のない遅刻は出席扱いとしない。また 1/3 を超えて欠席した場合は単位認定しない。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
法学基礎演習		鎌塚 有貴	講義	2		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	「憲法Ⅰ・Ⅱ」の講義中では詳細に扱うことのできなかった事柄について、より詳細に検討することに加えて、憲法学が直面している時事問題についても理解を深めることを目標とする。 各回担当者による報告形式とする。						
到達目標	報告資料の作成において、著作権等の研究倫理を深く理解すること。 一つのテーマに沿って、自分の意見を発表できるようになること。 時事問題を含む実際の社会問題と憲法を関連付けて考えられるようになること。						
回	学習内容						
1	ガイダンス：ゼミの進め方、研究倫理について						
2	文献の探し方						
3	判例の調べ方						
4	報告準備の方法						
5	情報と人権						
6	自己決定権						
7	環境権						
8	旅行の自由						
9	氏名にかんする権利						
10	同性婚						
11	学校における人権						
12	報道と人権						
13	死刑制度						
14	遺伝子研究と人権						
15	勤労の権利						
予習内容 復習内容	発表用資料作成、ニュース等のチェックなど。						
教科書	加藤一彦・柏崎敏義編『新 憲法判例特選〔第3版〕』（敬文堂、2021年）、その他授業中に指示するもの。						
成績評価	報告 50%、授業への参加態度 50%						
実務経験							
その他 特記事項	授業計画は適宜変更の可能性はある。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
法学基礎演習		川上 哲	講義	2		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	この演習では、主に政治学や行政学の立場から現代日本社会の諸問題を扱っていく。現代日本社会への問題関心を深めてもらうため、文献輪読を通じた議論を行っていく。 この演習には現代日本社会の様々な課題に関心がある学生の受講を求める。一人複数回は必ず報告する機会を設けるので、自らの報告を分かりやすく伝えるための訓練の場として積極的に活用してほしい。また適切な質問や議論は、自らの問題意識を深める格好の機会であることも学んで欲しい。						
到達目標	①基本的なアカデミック・スキルを身に付ける。 ②現代日本社会への問題関心を深める。 ③自らの見解を分かりやすく伝えることができる。						
回	学習内容						
1	導入（ガイダンス）ーゼミ概要及び評価方法						
2	『アカデミック・スキルズ（第3版）』を読む① アカデミック・スキルズとは						
3	『アカデミック・スキルズ（第3版）』を読む② 情報収集の仕方						
4	『アカデミック・スキルズ（第3版）』を読む③ クリティカル・リーディングの方法						
5	『アカデミック・スキルズ（第3版）』を読む④ 研究成果の発表方法						
6	『アカデミック・スキルズ（第3版）』を読む⑤ プレゼンテーション（口頭発表）の方法						
7	『アカデミック・スキルズ（第3版）』を読む⑥ 論文・レポートのまとめ方						
8	『「日本」ってどんな国?』を読む① 第1章：家族						
9	『「日本」ってどんな国?』を読む② 第2章：ジェンダー						
10	『「日本」ってどんな国?』を読む③ 第3章：学校						
11	『「日本」ってどんな国?』を読む④ 第4章：友だち						
12	『「日本」ってどんな国?』を読む① 第5章：経済・仕事						
13	『「日本」ってどんな国?』を読む① 第6章：政治・社会運動						
14	『「日本」ってどんな国?』を読む① 第7章：「日本」と「自分」						
15	演習のまとめ						
予習内容 復習内容	毎回の授業で扱う文献の指定箇所を事前に読み、疑問点を整理しておくこと。 授業後に議論の内容を整理し、疑問点を解消しておくこと。						
教科書	○佐藤望編著『アカデミック・スキルズ（第3版）－大学生のための知的技法入門』（慶應義塾大学出版会、2020年） ○本田由紀『「日本」ってどんな国?－国際比較データで社会が見えてくる』（ちくまプリマー新書、2021年）						
成績評価	評価は出席時の発言内容（50%）と報告内容（50%）で評価する。						
実務経験							
その他 特記事項	本科目は演習科目であるので、毎回の出席は当然のこととして参加すること（無断欠席は大きく評価を下げる）。また受講生には議論への積極的な参加＝発言を求める。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
法学基礎演習		楠本 孝	講義	2		1, 4	1. 2. 3. 5
授業概要 授業目的	山口厚『刑法入門』を教材として、ゼミ生全員で分担して精読する。 各ゼミ生が、『刑法入門』の担当部分をレジュメにまとめ、ゼミで報告する。その報告について、ゼミ生全員で討論する。						
到達目標	犯罪と刑罰に関する基本問題を掘り下げて理解することを目標とする。 刑法の講義で扱いきれなかった刑法学の争点について検討するとともに、刑法を体系的に理解することをめざす。						
回	学習内容						
1	基礎演習の目的						
2	罪と罰・刑事手続のあらまし						
3	法的な禁止の対象―犯罪						
4	法的な禁止の手段―刑罰						
5	罪刑法定主義とは						
6	遡及処罰の禁止						
7	実体的デュープロセス						
8	犯罪の成立要件・結果						
9	因果関係						
10	作為と不作為						
11	故意と過失						
12	未遂と共犯						
13	犯罪の成立が否定される場合						
14	違法性阻却の一般原理						
15	正当防衛						
予習内容 復習内容	教科書で予習し、ゼミでの討論のノートで復習する。						
教科書	山口厚『刑法入門』（岩波新書）						
成績評価	ゼミでの報告の内容、他のゼミ生の報告へのコメントの内容など、ゼミへの貢献度を総合的に評価する。						
実務経験							
その他 特記事項	「刑法」及び「刑事政策」を受講すること。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
法学基礎演習		照井 遥瑛	講義	2		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	法律学を勉強するにあたって、ほとんどの1年生は、「どのように勉強したらよいのか分からない」、「試験の答案やレポートをどのように書いたらよいのか分からない」、「資料の調べ方や判決文の読み方がよく分からない」といった悩みを抱えていると思います。この授業では、このような悩みや疑問を解消し、法律学の学習にできるだけ早く慣れてもらうことを心がけます。具体的には、条文の読み方、裁判制度の基礎知識、判例や法律文献の探し方、法文の解釈方法、判決文の読み方、試験答案やレポートの書き方などを学習します。また、民法のうち関心のあるテーマについて各自1回は報告を行ってもらいます。						
到達目標	①文献調査・判決文の読み込み等を通じて、法的な問題を発見する力、簡潔に報告する力、条文を解釈・適用するための基礎的な技法を身に付けること。 ②問題演習を通じて、論理的な文章を書く力を身に付けること。						
回	学習内容						
1	ガイダンス（自己紹介、演習の進め方、成績評価方法の説明など）						
2	条文の読み方						
3	裁判制度の基礎知識						
4	判例や法律文献の探し方（図書館ツアー）						
5	法文の解釈方法						
6	民法94条2項の「類推適用」とは						
7	判決文の読み方①：地方裁判所の判決文（隣人訴訟）を読んでみる						
8	判決文の読み方②：最高裁判所の判決文（民法94条2項と110条の類推適用）を読んでみる						
9	演習での報告の仕方、卒論テーマの探し方						
10	試験答案やレポートの書き方						
11	行為能力と意思表示の箇所から関心のあるテーマについて報告						
12	代理と時効の箇所から関心のあるテーマについて報告						
13	物権法の箇所から関心のあるテーマについて報告						
14	担保物権法の箇所から関心のあるテーマについて報告						
15	まとめ						
予習内容 復習内容	予習：事前に配布する資料や報告者が報告するテーマに関する判決や文献に目を通すこと。 復習：演習で扱ったテーマや専門用語を、書籍、レジュメ、ノート等で確認すること。						
教科書	特に指定はしませんが、最新年度版の小型六法を必ず持参してきてください。また、文献調査・報告をする上で有意義な書籍については開講時に紹介します。						
成績評価	報告・発言（50%）と報告レジュメ等の成果物（50%）を総合して成績評価を行います。						
実務経験							
その他 特記事項	一緒に相談しながらより良い演習にしていきたいと思っています。演習の主役は学生ですから、積極的に参加しようとする意欲をもって毎回出席してください。教員として、そのためのサポートを惜しみません。 民法Ⅰを履修済みであることが望ましいです。なお、演習内で挑戦してみたいことがありましたら、遠慮なく申し出てください。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
法学基礎演習		西川 昇吾	講義	2		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	本演習では、法学、とりわけ労働法学の基礎を形成している「判例」について、教員からの情報提供や発問等のもと、学生が一団となって研究・討議する。具体的には、毎回、学生 1 名が判例を報告し、それを受けて、教員と学生が、それぞれの立場から評価や疑問、意見を述べ、さらに他者が発言を積み重ねていく。 それにより、実社会で生じている労働法に関する諸問題について、法的な分析や検討を行いうる力を養い、ひいては、第 2 学年の演習で取り組む課題を模索することが、本演習の目的である。						
到達目標	① 裁判所の認定事実・判旨を正確に把握でき、それらを他者へ段階的に説明することができる。 ② 裁判所が示した論理に対して、その是非を思考しうる。 ③ 報告や議論を通して、私見を主張する力を向上させる。						
回	学習内容						
1	ガイダンス（検討判例の選定・報告順の決定等）						
2	労働協約に関する判例の研究						
3	労働者・使用者の概念に関する判例の研究						
4	雇用関係の成立に関する判例の研究						
5	労働者の人格保護・雇用平等に関する判例の研究						
6	就業規則に関する判例の研究						
7	労働契約上の権利・義務に関する判例の研究						
8	賃金に関する判例の研究						
9	労働時間・休日・休暇・休業に関する判例の研究						
10	労働災害に関する判例の研究						
11	服務規律・懲戒に関する判例の研究						
12	人事に関する判例の研究						
13	雇用関係の終了に関する判例の研究						
14	非典型雇用に関する判例の研究						
15	争議行為に関する判例の研究						
予習内容 復習内容	ゼミ生みずからが、教科書の該当頁を事前に一読すること等により予習し、自己の報告・発言でよかった点と足りなかった点を自己評価すること等により復習する。						
教科書	別冊ジュリストNo.257『労働判例百選〔第 10 版〕』（有斐閣、2022 年）、および『六法』が必要である。						
成績評価	平常点（演習に臨む意欲・態度、議論への参加度）50%、報告・発言の内容 50%の方法により評価する。						
実務経験							
その他 特記事項	本演習では、学生の積極的な発言が期待されており、それゆえ、各ゼミ生は、いわゆる「うなずきあい」の 18 年」から決別する意識で、演習に臨んでほしい。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
法学基礎演習		古畑 淳	講義	2		1, 4	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	行政法の授業で学んだ内容を更に発展させて学習していきます。行政法の授業で学んだように、行政は私たちがよりよい環境で安心して生活できるように様々な活動をしています。その活動の1つとして行政は、法令に基づいて、市民の自由や活動を規制する決定（規制行政における決定）をしたり、市民にサービス等を提供する決定（給付行政における決定）をしたりします。この演習では、法令に基づくそうした「行政の決定」に注目して、①行政の決定の公正性と適正性を図るためのルールである行政手続法や、②行政の決定の是正を求めるルールである行政不服審査法と行政事件訴訟法について学んでいきます。なお、演習の授業ですので、学生の皆さんには自身が最も関心を寄せる行政法のテーマについて報告を行ってもらうことにします。 授業では、以上のほかに、法学（行政法学）の学び方についても学習していくこととします。						
到達目標	①行政行為（行政処分）の概念を説明できるようになること。 ②行政手続法、行政不服審査法、行政事件訴訟法の概要と論点を説明できるようになること。 ③法学文献や裁判例を検索し、検索した文献や裁判例の内容を理解の上、法的論点の所在などその内容をまとめることができるようになること。						
回	学習内容						
1	ガイダンス（自己紹介、授業概要・演習の進め方・評価方法等についての説明）						
2	行政法とはどのような学問か						
3	法学文献と裁判例の調べ方						
4	報告レジュメの作成の仕方と報告の仕方						
5	行政行為（行政処分）の意義と種類						
6	行政行為（行政処分）の効力、職権による取消しと撤回						
7	行政手続法：申請に対する処分手続						
8	行政手続法：不利益処分の手続						
9	行政不服審査法：行政不服審査の仕組みと組織						
10	行政不服審査法：不服申立ての審理と判断（裁決）						
11	行政事件訴訟法：取消訴訟の原告適格と訴えの利益						
12	行政事件訴訟法：取消訴訟の審理と判決						
13	行政事件訴訟法：取消訴訟における仮の救済						
14	行政事件訴訟法：取消訴訟以外の抗告訴訟（義務付け訴訟等）						
15	まとめ						
予習内容 復習内容	事前に配布する裁判例や参考文献を読む。報告レジュメを作成する。 授業で学習した事項（ノート）の整理を行う。報告と討論で得た学びを整理する。						
教科書	教科書、参考文献等は初回講義時に提示します。 『ポケット六法』等の六法（最新年度版のもの）を持参して授業に臨むこと。						
成績評価	ゼミでの自身の報告（準備したレジュメの内容や報告での工夫等）とゼミへの参加状況（報告者に対する発言やゼミ運営への協力の姿勢等）を評価します（60％）。また、レポート等の成果物を評価します（40％）。						
実務経験							
その他 特記事項	行政法の授業を受講済みであることが望ましい（そうでない人は受講中であることが望ましい）。また、地方自治法の授業を受講中であることが望ましい。 学生の関心やゼミの進行状況により、各回の学習内容が変更となる場合があります。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
刑事政策		楠本 孝	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	刑事政策とは、国家が刑罰やこれに類似する諸制度（保安処分や保護処分など）を手段として犯罪に対する闘争を行う場合に依拠すべき諸原則に関する学問である。その射程範囲は広いが、本講では刑事政策の課題を網羅的に扱うのではなく、現在最も重要な課題になっている①死刑存廃論、②少年非行と少年法改正、③精神障害者による犯罪とその対策、に絞って検討したいと思う。						
到達目標	近時の法改正や刑事立法を批判的視点から検討できる力を身に着けることを目標とする。						
回	学習内容						
1	死刑制度の現況						
2	死刑存廃論						
3	終身刑導入をめぐる議論の状況						
4	少年司法手続の概要						
5	少年法改正①－厳罰化その１・原則逆送規定						
6	少年法改正②－厳罰化その２・不定期刑						
7	少年法改正③－事実認定手続の改正その１・触法事件の調査						
8	少年法改正④－事実認定手続の改正その２・少年審判への検察官の関与						
9	少年法改正⑤－被害者への配慮その１・修復的司法						
10	少年法改正⑥－被害者への配慮その２・審判の傍聴						
11	少年法改正⑦－改正されなかった争点：少年の推知報道の禁止						
12	少年法改正⑧－「特定少年」の特例						
13	精神障害者の強制入院制度						
14	触法精神障害者問題						
15	心神喪失者等医療観察法						
予習内容 復習内容	図書館所蔵の刑事政策の教科書で予習し、講義資料で復習する。						
教科書	教科書は特に指定しない。講義の際に毎回資料を配布するので、これを整理して、テキストの代わりとしてほしい。ただし、六法は必携。初回の授業から持参するように。						
成績評価	期末試験の成績をベースに判断するが、レポートの内容を加味して判断する。定期試験８０％、レポート２０％。内容の無いレポートは評価しない。再試験は行わない。						
実務経験							
その他 特記事項	「刑法」を受講していることが前提の授業になります。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会保障法		西川 昇吾	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	本講義では、社会保障（国民の人間らしい生活を保障するため、国が一定の所得や医療、生活関係サービス等を提供する制度）にもとづく社会的給付、費用負担および制度運営・管理の法律関係を規律する法について、そのしくみや考え方を解説する。具体的には、毎回、レジュメを配布するが、板書等を用いて補いながら、学修すべき内容を口述で伝達する。 それにより、社会保障法の概容や法的論点を理解し、それらを基盤として、今後の社会保障制度の担い手となる受講生が、望ましい社会保障制度のあり方について、自分なりの見解をもちうる力を養うことが、本講義の目的である。						
到達目標	① 社会保障法の概容や法的論点を把握する。 ② 社会保障法における各制度のしくみや考え方について、他者へ段階的に説明することができる。 ③ 今後の理想とする社会保障制度を構想しうる契機となる。						
回	学習内容						
1	ガイダンス／社会保障法とは						
2	社会保障法の体系						
3	健康保険法						
4	国民健康保険法						
5	医療供給体制／高齢者医療						
6	国民年金法						
7	厚生年金保険法						
8	企業年金						
9	介護保険法						
10	労災保険法						
11	損害賠償との調整						
12	雇用保険法						
13	社会手当						
14	社会福祉サービス						
15	生活保護法						
予習内容 復習内容	受講生みずからが、配布されたレジュメを事前に一読すること等により予習し、授業において書き記した内容をノートに整理すること等により復習する。						
教科書	教科書は指定せず、上記のとおり、レジュメを使用する。なお、第1回授業にて、購入任意の「参考文献一覧」を提示する予定である。						
成績評価	平常点 15%（各回のリアクションペーパー提出 1 点×15）、試験 85%（五肢選択問題 15 点・空欄補充問題 30 点・一行問題 40 点）により評価する（ただし、3 分の 2 以上の出席を要する）。						
実務経験							
その他 特記事項	受講に際しては、レジュメ等に目を通して、社会の実情や訴訟当事者のやり取りを想像・思考してほしい。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
国際法		坂本 一也	講義	4		1, 4	1, 2, 5
授業概要 授業目的		政治的、経済的な利害対立が厳しい国際社会においても、国家間の円滑な関係を維持するために、各国家が従うべき規則―「国際法」―が存在しています。 この授業では、この「国際法」の性質や特徴について検討した上で、その具体的な規定内容について考察することにします。 授業を通じて、最近のニュースで取り上げられている国際問題などを法的な視点から考える力の涵養を目指します。					
到達目標		①国際法の性質や特徴を踏まえて、国際法に関わる基本的な知識を習得して、説明できること。 ②国際問題に関心を持ち、それらを法的な視点から論理的に考える思考方法を身につけること。 ③授業で習得した知識や能力等を用いて、自己の見解を文章によって表現できること。					
回	学習内容		回	学習内容			
1	講義ガイダンス（国際法とはどのような法か）		16	国家領域の取得権原			
2	国際法の歴史的展開		17	日本の領土問題			
3	国際社会の構造と国際法の特徴①：執行		18	海の国際法①（海洋法秩序）			
4	国際社会の構造と国際法の特徴②：司法・立法		19	海の国際法②（海洋権益をめぐる対立）			
5	国際法の法源（国際慣習法を中心に）		20	空と宇宙の国際法			
6	条約法①：条約の制定過程・解釈		21	国家の国際責任①（成立要件）			
7	条約法②：条約の効力・留保		22	国家の国際責任②（責任追及・解除の方法）			
8	国際法と国内法の関係		23	紛争の平和的解決			
9	国際法における主体		24	紛争の司法的解決（国際司法裁判所）			
10	国家の要件と国家承認		25	国際法上の個人の地位①（国籍・外国人）			
11	国家の基本的権利義務①（主権平等原則）		26	国際法上の個人の地位②（難民）			
12	国家の基本的権利義務②（国家免除）		27	戦争・武力行使の違法化（武力不行使原則）			
13	外交・領事関係法		28	自衛権と国連における集団安全保障			
14	前半まとめ（国際問題を法的に考える）		29	武力紛争法・国際人道法			
15	国家領域とその機能（領域主権）		30	まとめ（国際法とはどのような法か（再考））			
予習内容 復習内容	授業で使用するレジュメは事前に配布しますので、理解できない言葉などを学習してください。 各回の授業でコメント・事例課題等を出しますので、それを用いて復習してください。						
教科書	教科書は指定しません。 国際条約集（出版社は問いません）を授業中に参照します（ネット検索でも構いません）。						
成績評価	試験（70%）、授業の際に提出を求めるコメントシートへの取組み・授業内での発言（30%）で評価します。						
実務経験							
その他 特記事項	授業中の質疑応答に積極的に関わってください。また、新聞などの国際面に目を通して、今起きている国際問題などに興味を持ってください。 質問などがあれば、授業前後・メールにて受け付けます。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
法哲学		小林 和之	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	法哲学は日本国憲法等の既存の法律を前提とすることなく「あるべき法」について探求する。本講義では、抽象的な理論の解説は行なわない。外国人理論家の学説の記憶と説明は求めない。具体的な問題に即して何が「正しい」かを当事者意識を持って考える力を養うことを目標とする。そのため、講義中に数回レポートを書く時間を設ける予定である。						
到達目標	多様な観点から「正しさ」について考えられるようになること。例えば「上司から不正をごまかす文書の作成を命令されたら、自分はどうすべきか」を実際に起きた事例を踏まえて説明できるようになること。						
回	学習内容						
1	公と私(1) 名前とは何か						
2	公と私(2) 氏名の自由						
3	公と私(3) 結婚とは何か						
4	私と私(1) 近代と責任原理						
5	新時代の責任原理						
6	文化と法 日本では正義より身内か						
7	事実とは何か 裁判と真実(1) 刑事裁判						
8	事実とは何か 裁判と真実(2) 民事裁判						
9	事実とは何か 裁判と真実(3) 近隣訴訟の教訓						
10	危険と法(1) 未知と表示						
11	危険と法(2) コミュニケーションの限界と民主主義						
12	死刑と正義(1) 冤罪の問題						
13	死刑と正義(2) 論理的思考を妨げるもの						
14	環境と正義 巨大な不確実性の中で						
15	民主主義再考						
予習内容 復習内容	(予習) 講義のテーマを理解するために有益な事例は何かについて考える。 (復習) 講義中に書いた感想・レポートで、自分に欠けていたものは何かについて考える。						
教科書							
成績評価	原理的に考える力がどれだけ身についたか(100%)、出席点(0%) なお、出席回数が10回に満たない場合は不合格とする。						
実務経験							
その他 特記事項	受講者の習得状況等によって進度を調整する。 予定は変更の可能性はある。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
税法		森 宏之	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	税法というと、技術的で難解だというイメージを持たれている方が多いかと思います。しかし、税法は人々の日常生活に深く関わっており、経済活動の多くの機会で租税が関係します。そこで、本講義では、税法の学術的な理解だけでなく、身近に感じられるように事例を多く取り上げたり、実際に税額の計算をしたりします。税法の背景になっている社会との結びつきや、関係諸法令等を意識して学習に取り組んでください。						
到達目標	税の基本的な理解を高めるだけでなく、社会で役立つ知識を身に着けることを目標とします。						
回	学習内容						
1	ガイダンス、租税の役割と機能						
2	租税法の基本原則と体系						
3	所得税～総論						
4	所得税法～各論①（所得の分類）						
5	所得税法～各論②（所得控除等）						
6	所得税法～確定申告書作成演習						
7	所得税法～判例研究						
8	法人税法～総論						
9	法人税法～各論（役員給与、交際費、資本的支出と修繕費）						
10	消費税法～総論						
11	消費税法～各論①（非課税等・軽減税率）						
12	消費税法～各論②（インボイス、簡易課税）						
13	相続税						
14	贈与税						
15	総括（授業の総まとめと応用）						
予習内容 復習内容	予習：税に関する新聞記事に目を通す習慣を身に着ける。 復習：配布資料とノートの見直し。						
教科書	テキストは使用しません。必要に応じて資料を配布します。						
成績評価	試験（60％）、平常点（40％）で成績評価を行います。 平常点は、出席と小テストの成績及び発言など積極的に取り組む姿勢を総合的に考慮します。						
実務経験	名古屋税理士会に所属する税理士です。現在、会計事務所やコンサルティング会社を経営しております。実務経験に基づいた具体例を多く取り上げ、初学者でも理解いただけるように解説します。						
その他 特記事項	受講者の理解度などによって、学習内容を変更することがあります。 税額計算等の演習を行うことがありますので、電卓を持参してください。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
消費者法		大北 由恵	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	私たちは日常的に事業者から商品やサービスを購入し、それらを消費して生活している消費者です。消費者と販売のプロである事業者との間には情報力や交渉力等の面で大きな格差が存在しているため、不利な立場に置かれている消費者の利益を保護するための一連の法律を消費者法と呼びます。この講義では、消費者被害の実態を事例とともに紹介し、被害者を救済するための法制度の基礎知識を修得していきます。						
到達目標	①消費者問題の基本構造を理解することができる。 ②消費者被害にあわないための対策や被害にあった場合の対処法を身に付けることができる。 ③被害者救済のための法制度を理解し、解決策を検討することができる。						
回	学習内容						
1	ガイダンスー消費者法とは						
2	消費者問題の全体像						
3	消費者契約法（１）消費者契約法の概要、取消権						
4	消費者契約法（２）不当条項規制						
5	特定商取引法（１）特定商取引法の概要						
6	特定商取引法（２）訪問販売、クーリング・オフ、電話勧誘						
7	特定商取引法（３）通信販売、マルチ商法、ネズミ講						
8	特定商取引法（４）継続的役務提供						
9	消費者信用取引（１）消費者信用取引の概要、クレジット取引						
10	消費者信用取引（２）割賦販売法① 割賦販売法の概要						
11	消費者信用取引（３）割賦販売法② 割賦販売法の規制内容						
12	消費者信用取引（４）貸金規制						
13	景品表示法						
14	製造物責任法						
15	全体のまとめー現代社会における消費者法の課題						
予習内容 復習内容	予習：参考文献に目を通しておいください。 復習：レジュメや講義メモを中心に授業内容を整理・理解してください。						
教科書	教科書は使用せず、配布レジュメを中心に講義を進めます。 参考文献は初回の授業で案内します。						
成績評価	最終試験(70%)と授業内レポート(30%)で総合的に評価します。						
実務経験							
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
地方自治法		古畑 淳	講義	2		1, 3	1, 2, 5
授業概要 授業目的	自治とは、自分たちのことは自分たちで決めることをいうが、地方自治とは、国から独立した地方公共団体（＝自治体）が、自分たちの地域に関することは可能な限り自分たちで決めていくという理念のことをいう。この講義では、そうした地方自治について定める地方自治法と地方自治関連法について学ぶ。具体的には、自治体の種別と区域、自治体の組織と自治組織権、住民の権利・義務、自治立法権、自治行政権、公の施設の設置とその管理、自治財政権などを学ぶ。 私たちの生活に関わる行政の活動の多くは自治体において具体的に行われている。まちづくり、子どもの保育、高齢者の介護、学校教育、地域環境、地域の安全、消費生活等に関わる行政活動はみなそうである。講義では、それら行政活動が地方自治の理念の下でどのように行われているかという点についても、可能な限りで触れていくこととしたい。						
到達目標	1) 地方自治の基本原則を理解する。 2) 地方自治の法制度について理解する。 3) 自治体住民の権利・義務について理解する。						
回	学習内容						
1	地方自治の法原理 「地方自治」とは何か、地方自治権の根拠、「地方自治の本旨」						
2	地方自治法制の歴史 日本国憲法の制定と地方自治法の制定・改正史						
3	自治体の種別と区域 普通地方公共団体、特別地方公共団体、自治体合併と道州制論						
4	自治体の組織と自治組織権① 自治体組織の特徴、議会						
5	自治体の組織と自治組織権② 執行機関、その他の組織						
6	住民の権利・義務① 「住民」の意義、住民の参政権						
7	住民の権利・義務② 直接請求						
8	住民の権利・義務③ 住民監査請求、住民訴訟						
9	自治立法権① 条例とはどんな法か、条例の内容・種別、条例制定権の根拠						
10	自治立法権② 条例制定権の範囲と限界、 条例制定の手続と適用範囲及び効力						
11	自治立法権③ 執行機関の規制、自治体の行政内規						
12	自治行政権① 自治体の処理する事務、地方自治法上の事務の区分						
13	自治行政権② 関与法制・国地方係争処理手続、自治体の出訴権、国等による違法確認訴訟制度等						
14	公の施設の設置とその管理 公の施設の意義と設置、公の施設の管理（指定管理者制度）						
15	自治財政権 自治体財政制度の基本、自治体の歳入、自治体の支出、自治体契約、自治体財産等						
予習内容 復習内容	担当者作成のレジュメ・資料（次回授業用）と教科書（該当箇所を指示する）を一読する。 担当者作成のレジュメ・資料と教科書を再読する。授業で学習した事項（ノート）の整理を行う。						
教科書	使用する教科書は、初回の授業時に提示します。 ※授業は担当者作成のレジュメ・資料（判決の判示事項の抜粋、新聞記事、自治体広報誌、各種統計資料等により作成）を用いて進めていきます。教科書は事前事後の学習において使用します。また、授業を進める中で適宜、参照いたします。						
成績評価	授業の終わりに行う小テストないしミニレポートの評価（30％）と定期試験の結果（70％）の合計で評価します。						
実務経験							
その他 特記事項	『ポケット六法』等の六法（最新年度版のもの）を持参して授業に臨むこと。 自治体の活動の実際を知るために、日頃からニュース・新聞などの報道に注意すること。新聞などの切り抜き（スクラップ）を作ることを勧めます。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
地方政治論		川上 哲	講義	2		1, 3	1, 2, 5
授業概要 授業目的	本講義では日本の地方自治制度の仕組みや理論を中心に解説を行っていく。2000 年以降、地方自治制度は大きく変容してきており、地方分権改革、市町村合併、圏域行政の推進など、地方自治制度がどのように変わりつつあるのか、その方向性も含めて授業を進めていく。 本講義の目的は受講生が地方自治制度に対する理解を深め、住民自治の担い手としての基礎的な素養を身に付けることである。また公務員を目指す学生が地方自治に関する基本的な知識を習得することも目的とする。						
到達目標	①地方自治に関する基礎的な知識を習得する。 ②地方自治が住民サービスと密接に関わることを理解する。 ③地方自治を巡る今日的な課題と問題点について理解を深める。						
回	学習内容						
1	導入（ガイダンス）－講義概要及び評価方法、人口減少と東京一極集中						
2	地方自治体の首長						
3	地方議会論						
4	地方公務員論						
5	地方選挙制度						
6	住民投票制度						
7	条例とその制定過程						
8	中央地方関係論①－「集権・分権」と「分離・融合」						
9	中央地方関係論②－中央地方関係の一般理論						
10	地方税財政制度②－地方交付税と都区財政調整制度						
11	地方自治と子育て支援						
12	地方自治と学校教育						
13	地方自治の今日的課題①－格差と貧困を巡る現状と課題						
14	地方自治の今日的課題②－地方分権改革						
15	地方自治の今日的課題③－地方創生とデジタル改革						
予習内容 復習内容	初回までに高等学校レベルの政治・経済の内容を復習しておく。 2 回目以降の予習・復習は講義内で指示する。						
教科書	教科書は使用せず、レジメと資料を配布する。必要に応じて参考文献を紹介する。						
成績評価	毎回の講義時に提出するコメントシート：30%、レポート：70%で評価する。						
実務経験							
その他 特記事項	受講生の理解度に応じて内容や順番を見直すこともあり得る。 正当な理由のない遅刻は出席扱いとしない。また 1/3 を超えて欠席した場合は単位認定しない。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
政治史（政治過程論を含む）		長澤 高明	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的		欧米の政治史を縦軸とし、それらが日本に与えた影響を横軸として考察する。私が一方的に喋るという形はとらず、諸君と対話しながら講義を進める。 欧米の政治史を知ること、日本における近代国民国家の成立や議会制民主主義の確立、および大日本帝国憲法から日本国憲法への転換など、より深い理解ができるようになる。					
到達目標		1 政治史の概略が理解できるようになる 2 世界と日本の歴史的関係が理解できるようになる 3 上記について人に説明できるようになる					
回	学習内容						
1	国家とはなにか：主権国家と国民国家						
2	主権国家と絶対王政。なぜ君主が強い時代があった？						
3	英米仏の市民革命。市民革命と現代日本の意外なつながり						
4	ウィーン体制。革命と反革命。						
5	ドイツのビスマルク体制。プロイセン憲法と大日本帝国憲法の関係						
6	植民地帝国主義の時代。先進国はなぜ植民地が必要だと考えたか						
7	第一次世界大戦：世界分割と大戦の原因						
8	第一次世界大戦から第二次世界大戦へ：ヴェルサイユ条約						
9	第二次世界大戦：原因と特徴。アジア・太平洋戦争との関係。						
10	冷戦の起源と独立国（1）中国政治史						
11	冷戦の起源と独立国（2）韓国とインド						
12	冷戦期年表。年表で見るドラマティックな歴史。						
13	冷戦の終結と民族紛争。冷戦の終わりは平和ではなかった。						
14	EU の成立とその歴史。ヨーロッパの超大国？						
15	EU 加盟問題：トルコ問題。なぜトルコは加盟できないのか。						
予習内容 復習内容	前もって次のレジュメを配付するので、それを読んでおくこと。できれば手元にある参考書などで予習しておくこと。復習としては、レジュメに講義内容を書き込んでおいて、理解できなかった個所を確認しておくこと。						
教科書	使用しない。毎回レジュメを配付する。参考文献はそのつど指示する。						
成績評価	毎回出席をとる。6 回以上欠席すると成績評価対象とはならない。成績は、「小テスト 2 回（20%）、レポート（3000 字。60%）、積極的な態度（20%）」の総合評価。						
実務経験							
その他 特記事項	これまで歴史科目を履修したことのない受講生もいるはずなので、基礎知識を確認しながら講義を進める。歴史科目を履修したことのある受講生は、できれば歴史教科書を読み直しておくこと。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
政治思想史		井口 吉男	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	ヨーロッパの著名な思想家の政治思想を中心に講義を行う。現在は政治・行政のしくみが複雑化した時代である。けれども、むしろこういう時代だからこそ、いにしえの思想家たちが世に残した古典的著作をひもとき、政治について根本的かつ原理的な考察を行うことが大切になってこよう。						
到達目標	① 政治に関する諸概念の意味を理解する。 ② 各思想家の政治思想の全体像を把握する。 ③ 政治について原理的に考察する力を習得する。						
回	学習内容						
1	ガイダンス プラトンの政体論						
2	ストア派における「個人」と「国家」						
3	マキアヴェリ of 君主論						
4	カルヴァン——「神」と「政治」						
5	ホッブズと「リヴァイアサン」						
6	ロックと社会契約						
7	モンテスキューと権力分立						
8	ルソーと「一般意志」						
9	スミスと「自由放任」						
10	バークの保守思想						
11	トクヴィルと大衆社会						
12	マルクスと共産主義						
13	ヴェーバー——「信条倫理」と「責任倫理」						
14	西欧政治思想における「自由」						
15	現代の政治思想 今回はアレントについて講じる。その後、学期末試験						
予習内容 復習内容	予習：次回とりあげる思想家の生涯について調べること。 復習：配布したレジュメに目を通し、とりあげた思想家と「対話」すること。						
教科書	テキストは使用しない。レジュメを毎回、配布する。参考文献は講義のなかで紹介。						
成績評価	試験（100％）を基本とするが、平常の受講姿勢も加味する。 毎回、出席をとる。5回を超える欠席をした場合、評価対象外となる。						
実務経験							
その他 特記事項	西欧政治思想の世界の奥深さを味わってほしい。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
国際関係論		三瀬 貴弘	講義	2		1, 4	1, 2, 5
授業概要 授業目的	国際関係論は、世界情勢を政治経済だけでなく文化歴史から幅広く分析する学問で、学際的かつ身近な学問という特徴を持つ。講義では、隣接学問分野の研究成果も取り入れつつ、現実の世界情勢と、それをよりよく理解するためのツールとしての理論を勉強し、それらを基に、IPE（国際政治経済学）が冷戦後の国際秩序形成に与えた影響、ならびに日米関係の現状について考察する。詳細なレジュメを配布し、それに基づき講義する形式であるが、面白おかしい問題に取り組む「頭の体操」や、速記スピードを競う「速記バトル」、居眠り防止のために突然クイズを出す「○突クイズ」など、受講生が作業をする時間を毎回設定し、退屈させない授業を心がける。						
到達目標	①国際関係の歴史・現実・理論に関連した基礎知識を習得する。 ②冷戦後の日米関係のあり方について歴史的・理論的背景も含めて説明できる。						
回	学習内容						
1	オリエンテーション（日本外交における「独自性」をどのように評価するか？）						
2	大相撲と国際関係論（番付表、インバウンド消費、移民、ナショナリズム）						
3	ドラゴンクエストと国際関係論（中印関係、クルド人、テロリズム、ドローン）						
4	日本の領土問題（尖閣・竹島・北方領土、カイロ宣言、サンフランシスコ講和条約、ダレスの恫喝）						
5	国際関係論の名著の検討（ケナン、キッシンジャー、ハンチントン、ギルピン）						
6	主権国家の誕生（「大航海時代」、対外主権、体内主権、ウェストファリア条約、ユトレヒト条約）						
7	国際関係論の誕生（ツキジデスの罠、帝国主義、第一次世界大戦、自衛戦争、大東亜共栄圏）						
8	リアリズム（ホッブズ、バランスオブパワー、国益、パワーポリティクス）						
9	リベラリズム（カント、安達峰一郎、貿易理論、民主主義平和論）						
10	リアリズムの隆盛（モーゲンソー、キューバ危機、世界終末時計、アリソン）						
11	リアリズムの衰退（オストロム、ゲーム論、シェリング、公共財）						
12	覇権安定論（ギルピン、覇権衰退論争、ソフトパワー、構造的権力）						
13	相互依存論（トランスナショナル関係論、レジーム論、コヘイン）						
14	IPE とは何か（バードン・シェアリング、湾岸戦争、日米政策協調）						
15	まとめ（第二次大戦後の日本外交、日米関係について）						
予習内容 復習内容	予習；新聞やテレビのニュース、ネット等を通じ、国際社会で今何が起きているかを知っておく。 復習；配布レジュメや資料を読み直すこと。						
教科書	テキストは使用しない。参考文献は、坂井昭夫『国際政治経済学とは何か』青木書店、1998 年						
成績評価	レポート 100%。授業への積極的参加などを加点要素とする（3%以内）。 5 回を超えて欠席した場合は、レポートの提出資格はありません。						
実務経験							
その他 特記事項	メリハリのある、面白くて楽しい講義を心がけます。学生を指名することは、絶対にしませんので、気軽に受講してください。授業を難しく感じた場合は要復習です。講義内容については、受講生の学習の進捗度などによって、適宜調整します。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
統計学		金岩 稔	講義	2		1	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	諸研究の読解やそれらを実際に行う上で必要な統計学を学ぶ上で必要な数学的な基礎知識を復習するとともに、基礎的な統計学の概念、特に統計モデルの構築の概念を説明する。						
到達目標	基礎的な統計学的解析手法の理解と、実際のデータを用いた解析手法の習得						
回	学習内容						
1	講義の概要説明。データ解析の目的。度数分布表とヒストグラム。						
2	相関と散布図。データの中心とばらつきの指標。						
3	標準化と共分散、相関係数。						
4	回帰直線						
5	データ発生のメカニズム。母集団と標本。無作為抽出。						
6	事象の独立性と確率						
7	確率分布と確率変数。その平均と分散。						
8	コイン投げとベルヌーイ試行。2 項分布。						
9	連続型確率変数。正規分布。						
10	確率変数の独立性と無作為標本の定義。						
11	標本平均と標本分散。母平均、母分散との関係。不偏性。						
12	標本平均の分布。点推定と区間推定。母平均の区間推定。						
13	母比率の推定						
14	統計的仮説検定と検定方式、有意水準、母比率の検定						
15	全体の確認						
予習内容 復習内容	予習：シラバスの内容を検索して、どのような内容か自分なりに調べておく。 復習：ノートの整理						
教科書	テキストは使用しない。						
成績評価	期末試験 90%、講義の受講態度 10%						
実務経験							
その他 特記事項	科学は物事を客観的に判断する道具であり、統計学はそれの中での物差しと言ってもよい道具です。最初、道具の使い方は難しく感じますが、普段から使い手になじむと使いやすくなるものです。なじむまで普段から統計学的な物事の見方を身に着けるため、当講義を受講していただければと思います。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
経済原論		田添 篤史	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	現在主流の経済学には、個別企業や消費主体の最適化に基づく選択とその結果に焦点をあてるミクロ経済学と、経済を個別の経済主体の単純な合成としては把握せず、独立した一つの総体として取り扱い、経済全体での動きを考えるマクロ経済学が存在している。 本講義では前半でミクロ経済学を、後半でマクロ経済学を取り扱い、その基本的な考え方を理解することを目的とする。						
到達目標	① ミクロ経済学・マクロ経済学の基本的な考え方、分析手法を理解する。 ② 実際に生じている経済問題について、経済学的な分析に基づき自分の意見を持つことができるようになる。						
回	学習内容		回	学習内容			
1	オリエンテーションー経済学の考え方		16	完全競争市場における余剰分析			
2	国民経済計算		17	市場の状態が資源配分に与える影響			
3	ミクロ経済学の基本像		18	マクロ経済学の考え方			
4	消費者の理論を導くための準備		19	財の総供給			
5	限界効用理論		20	消費の決定と財の需要量			
6	無差別曲線に関して		21	財市場の均衡			
7	予算線概念と最適消費点の決定方法		22	債権の価格と利子率			
8	所得変化と、それに対応する最適消費点の変化		23	貨幣を需要する動機			
9	代替効果と所得効果		24	貨幣市場の均衡			
10	生産における短期と長期の違い		25	投資の理論			
11	平均費用と限界費用についての理解		26	IS 曲線の導出			
12	利潤最大化と生産量の決定		27	LM 曲線の導出			
13	損益分岐点と操業停止点		28	財政政策の効果			
14	独占企業の生産量決定		29	金融政策の効果			
15	市場均衡とその安定性		30	経済成長の源泉			
予習内容 復習内容	予習：教科書の該当部分に目を通しておくこと。 復習：配布資料および講義ノートに目を通すこと。						
教科書	石川秀樹（著）中央経済社『試験攻略 新・経済学入門塾 1 マクロ編』 石川秀樹（著）中央経済社『試験攻略 新・経済学入門塾 2 ミクロ編』						
成績評価	毎回の授業終了後に提出するコメントシート:30% 試験:70%						
実務経験							
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
経済史		千枝 大志	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的		本科目では、経済史的視点から日本の歴史的変遷過程を概観した上で、現代社会の構造を俯瞰できるようになることを目的とする。具体的には、旧石器時代から令和の時代まで、とりわけ7世紀から21世紀初頭までの経済史を概説していく。その際、三重県を含む東海地方を地域経済史の事例対象地として捉え、それを適宜取り上げる予定である。それは東海地方の経済史には日本全体に影響を及ぼす史的特質が認められ、また、そのような特質は現代まで連綿と繋がる東海地方の社会経済面での史的土壌形成にも深く結びついていると考えるからである。					
到達目標		経済の視点からみた日本が歩んだ歴史に関する基本的知識を習得し、その史的潮流を理解することができる。					
回	学習内容		回	学習内容			
1	授業を始めるにあたって		16	開港と日本経済の近代化			
2	経済史的視点からみた古代以前の日本		17	明治政府の殖産興業政策と民間企業			
3	貨幣と文字からみた古代の日本経済		18	近代産業の勃興			
4	荘園公領制と中世前期の日本経済		19	鉄道業の発展			
5	中世の貨幣と信用		20	「明治啓蒙」の思想			
6	中世経済の構造変化		21	近代における企業家の動向			
7	大名領国制と中世後期の日本経済		22	日清・日露戦争と日本経済			
8	近世経済の成立		23	第一次世界大戦と日本経済			
9	近世前期から中期の貨幣と信用		24	世界恐慌と関東大震災			
10	近世前期の経済動向		25	アジア・太平洋戦争と日本経済			
11	近世経済の成熟		26	日本の敗戦と戦後復興			
12	近世経済の構造変化		27	日本の高度経済成長			
13	近世後期から末期の貨幣と信用		28	経済大国への道と貿易摩擦			
14	近世経済の終焉		29	バブル経済とその後の日本経済			
15	前近代における日本経済（まとめと確認）		30	近・現代における日本経済（まとめと確認）			
予習内容 復習内容	予習：授業中に紹介する参考文献等を通読すること等。 復習：配布資料やノートの整理を行なうこと等。						
教科書	テキストは指定しない。参考文献は授業中に適宜紹介するが、とりあえず、ここでは中西聡編著『日本経済の歴史 - 列島経済史入門 - 』（名古屋大学出版会 2013 年）と平井健介・島西智輝・岸田真編著『Minerva KEYWORDS ⑨ ハンドブック日本経済史 - 徳川期から安定成長期まで - 』（ミネルヴァ書房 2021 年）をあげておく。						
成績評価	評価は中間試験（35%）、定期試験（35%）、出席時に提出するレポート内容及び積極的な修学姿勢（30%）の合計で行う。合計が、60%以上で可、70%以上で良、80%以上で優、90%以上で秀とする。また公欠を除き 1/3 を超える欠席をした者は評価の対象外とする。						
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
金融論		石原 洋介	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的		日本の金融システム、金融市場、金融商品、金融政策及び過去の金融危機の背景などについて、最新のデータを示しながら概要を解説し、現代社会で必要とされる金融に関するリテラシーを身につけられるようにする。また、レポート課題を通じて、金融に関する今日的な課題に対して専門的な知識に基づき考察する力を伸ばす。					
到達目標		・金融リテラシーを身につけ、今後の人生において金融を適切に利用できるようになる。 ・金融に関する社会問題について専門知識に基づいて考察し、自分の考えを論理的に展開できる。					
回	学習内容			回	学習内容		
1	ガイダンス、貨幣の歴史①、貨幣の起源			16	国債②、国債価格、国債格付け、発行の仕組み		
2	貨幣の歴史②、日本の貨幣史			17	短期金融市場①、インターバンク市場		
3	商品と貨幣①、商品交換と貨幣の発生			18	短期金融市場②、オープン市場		
4	商品と貨幣②、貨幣の発展段階と金本位制			19	長期金融市場①、証券取引所、債券市場		
5	貨幣の機能①、貨幣の機能			20	長期金融市場②、株式市場		
6	貨幣の機能②、信用創造とマネーストック			21	日本銀行と金融政策①、沿革、3つの機能		
7	資金循環①、資金循環と企業の資金調達方法			22	日本銀行と金融政策②、伝統的金融政策		
8	資金循環②、間接金融と直接金融			23	日本銀行と金融政策③、非伝統的金融政策		
9	日本の金融機関①、日本の銀行			24	国際収支と外為市場①、国際収支		
10	日本の金融機関②、協同組合系金融機関など			25	国際収支と外為市場②、外国為替取引、為替相場		
11	日本の金融機関③、保険業、ノンバンク			26	国際収支と外為市場③、外国為替市場		
12	日本の金融機関④、証券業、政府系金融機関			27	デリバティブ市場①、取引の概要、先物取引		
13	銀行融資と金利①、プライムレートと金利			28	デリバティブ市場②、スワップ、オプション		
14	銀行融資と金利②、金利の構成要素と変動要因			29	サブプライム危機①、危機発生の背景		
15	国債①、国債の種類			30	サブプライム危機②、今後の教訓		
予習内容 復習内容	予習：事前配布するレジュメに目を通し、問題意識を持って講義に臨むこと。 復習：質問カードへのコメント集を配布するのでよく読んで復習すること。						
教科書	特定のテキストは使用しない。單元ごとにレジュメを配布する。						
成績評価	出席時に提出する質問カードの内容（30%）、課題レポート（70%）						
実務経験							
その他 特記事項	関連講義として「統計学」、「経済原論」、「経済政策」、「簿記原理」、「財政学」、「国際経済論」等の履修を推奨する。また、新聞を毎日読むように。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
財政学		大畑 智史	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的		現在、日本をみても、国や地方自治体は、災害対応、教育、などの面において重要な存在です。本講義では、主として、そうした主体は現在どのような形で運営されているのか、その状況はどうか、などの点を、とりわけ国家の場合（日本）に焦点をあてて説明します。本講義は、そうしたことにより、受講生が、我々の日常生活に身近な国家財政について専門的に考察できることを目標とします。					
到達目標		①国家財政の基本的な仕組みを理解することができる。 ②国家財政の現状について専門的に理解することができる。 ③国家財政の課題解決策について専門的に考察することができる。					
回	学習内容			回	学習内容		
1	オリエンテーション：財政とは			16	法人課税：理論		
2	財政学の歴史：ワグナーまで			17	法人課税：制度		
3	財政学の歴史：現代まで			18	中間テスト：日本財政を考える		
4	財政の範囲			19	消費課税：理論		
5	財政の機能：資源配分、所得再分配			20	消費課税：制度		
6	財政の機能：経済安定化			21	資産課税：理論		
7	公共財：定義			22	資産課税：制度		
8	公共財：政治的側面から			23	国際課税：理論		
9	予算：予算原則			24	国際課税：制度		
10	予算：予算の内容			25	公債：理論		
11	予算：特別会計、決算、他			26	公債：制度		
12	租税の基礎：租税の基礎用語			27	国と地方との財政関係：特定補助金		
13	租税の基礎：租税原則			28	国と地方との財政関係：一般補助金		
14	個人所得課税：理論			29	社会保障：理論		
15	個人所得課税：制度			30	社会保障：制度		
予習内容 復習内容	予習：次回の講義のテーマに関する新聞などの記事を読む。 復習：今回の講義内容を確認した上で、疑問点を解決する。						
教科書	教科書は特に指定しません。適宜、講義中に参考資料を紹介します。						
成績評価	中間テスト：20％ 講義内容についての感想（複数回）：20％ 定期試験：60％						
実務経験							
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
経営学		浅野 和也	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	本講義では、経営学の基本学説や諸理論について学び、企業経営に必要なこととは何かを考えていきます。あわせて、企業が抱える諸問題について考察することで様々なものの見方・考え方を培っていきます。						
到達目標	経営学の基本学説や諸理論について理解・説明できる。 企業における人・モノ・お金・情報の各経営資源の特質をふまえて、企業が抱える諸問題について理解・説明できる。						
回	学習内容			回	学習内容		
1	ガイダンス：授業の進め方			16	行動科学論		
2	企業の基本形態と特徴			17	日本的経営の特質の制度		
3	株式会社制度			18	日本的経営の短所・諸問題		
4	管理の役割と目的			19	事例分析：自動車（生産）		
5	経営組織とは何か			20	事例分析：自動車（労働）		
6	経営戦略とは何か			21	戦前の日本企業の特徴		
7	アンゾフ・ポーターの戦略論			22	財閥の展開：総合財閥		
8	コンビニ：ビジネスモデル			23	財閥の展開：新興財閥		
9	コンビニ：新たな成長と諸問題			24	ビッグビジネス：鉄鋼		
10	ゲーム産業：市場の創造			25	ビッグビジネス：石油		
11	ゲーム産業：市場の変化			26	ビッグビジネス：化学		
12	携帯電話：ガラケーの成長			27	ワークライフバランス		
13	携帯電話：スマホの急成長			28	ダイバーシティ		
14	科学的管理法と大量生産方式			29	グローバル化の功罪		
15	人間関係論の生成と展開			30	総括：企業経営の諸課題		
予習内容 復習内容	予習：講義中に示すキーワードについて調べておく。 復習：予習したことをふまえてプリントと講義内容についてまとめる。						
教科書	プリント教材を配布、テキストは指定しません。参考文献は必要に応じて紹介します。						
成績評価	最終レポート：50%、講義内での課題レポート：30%、平常評価（コメントシート）20%						
実務経験							
その他 特記事項	一部分の考察ではなく、毎回の積み重ねによる論理的考察が非常に重要ですので欠席過多に注意してください。 新聞、ビジネス雑誌、テレビ・ネット等のニュース報道からの情報収集を心がけてください。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
マーケティング論Ⅰ		鷲尾 和紀	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	本講義はマーケティングの基礎原理（マーケティング・マネジメント・プロセス）を中心に学びます。さらに経済における活動に生産と消費がある中で、マーケティング戦略論の主な課題である企業への顧客または市場・環境への対応、競合への対応、手法について学びます。マーケティングは「売れる仕組み」を考えます。またその目標は顧客の価値創造と維持であります。						
到達目標	マーケティング戦略の本質を様々な事例を理解していくことが授業の到達目標であります。企業は顧客に商品を提供するにあたり、どういった方法で商品開発を行い、またどういった方法で販売戦略を取っているのか理解しましょう。						
回	学習内容		回	学習内容			
1	マーケティングの基礎概念		16	チャネル戦略① 意義と機能			
2	マーケティングの対象となるもの・定義		17	チャネル戦略② 類型 依存・信頼関係			
3	マーケティング・コンセプト		18	コミュニケーション戦略① 基礎概念			
4	顧客価値・顧客満足とは		19	コミュニケーション戦略② 広告活動			
5	マーケティング・マネジメントの基本		20	製品ライフサイクル			
6	市場機会の分析と発見（SWOT分析）		21	サービスマーケティング① サービスの4つの特性			
7	市場細分化 標的市場の設定		22	サービスマーケティング② サービスの価格設定			
8	ターゲティング		23	消費者行動・観光マーケティング			
9	ポジショニング・差別化戦略		24	商学(商流・物流・情報流)			
10	製品戦略		25	流通論(製造業・卸売業・小売業)			
11	ブランド戦略ーブランドとは何かー		26	デジタル・マーケティングーインフルエンサーー			
12	ブランド・エクイティ		27	マーケティング 4.0 と SDG s（環境マーケティング）			
13	ブランディング戦略・差別化戦略		28	地域活性化（地方創生）による地域ブランドの発展			
14	価格戦略① 概念と特徴		29	経営戦略論ー業界の構造分析ー			
15	価格戦略② 価格適合		30	これからのマーケティング戦略の課題・まとめ			
予習内容 復習内容	予習：テキストを通読 復習：授業内容についてノートにまとめる、日常生活から企業のマーケティング手法を探す。						
教科書	鷲尾和紀・鷲尾紀吉(2017)『マーケティング戦略論』発行：創成社						
成績評価	定期試験 70% 出席 30%（小テスト、授業内提出含む）						
実務経験							
その他 特記事項	毎回ではないが簡単な小テストまたはレポートを実施する場合があります。 受動ではなく能動に学生が主体的に考え、それに対し教員と学生がコミュニケーションすることでマーケティングに対する意識付けができるような授業を目指します。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
簿記原理		大井 幸助	講義	4		2	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	日商簿記検定 3 級の試験範囲を学習します。 机上の学習だけではなく、実務的な目線を交えて講義を行います。 簿記初学者の方が簿記の基礎を理解できることを目的とします。						
到達目標	日商簿記検定 3 級に合格できる実力を身につけること。						
回	学習内容		回	学習内容			
1	簿記の基礎		16	試算表			
2	記帳のルール		17	決算			
3	仕訳と勘定記入		18	決算整理（現金過不足）			
4	三分法		19	決算整理（貯蔵品・当座借越）			
5	掛け取引		20	決算整理（売上原価）			
6	返品・諸掛		21	決算整理（貸倒れ）			
7	商品有高帳		22	決算整理（減価償却）			
8	現金・預金		23	決算整理（前払・前受）			
9	小口現金・売掛金		24	決算整理（未収・未払）			
10	手形取引・でんさい		25	決算整理後残高試算表・精算表			
11	さまざまな帳簿の関係		26	帳簿の締め切り			
12	貸付金・借入金		27	決算書・株式の発行			
13	有形固定資産		28	剰余金の配当と処分・税金			
14	仮払金・仮受金		29	証憑と伝票			
15	訂正仕訳・試算表		30	総合問題解答及び解説			
予習内容 復習内容	予習：該当箇所についてテキストを通読しておく。 復習：講義内で実施する筆記問題を反復練習。						
教科書	合格テキスト日商簿記 3 級（T A C 出版）						
成績評価	定期試験（80％）、出席時に提出するレポート内容（20％）						
実務経験							
その他 特記事項	講義には電卓（12 桁）を使用します。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
会計学		田中 里美	講義	4		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的		会計学では、企業が公表する決算書を市民の視点から読み解けるように学習する。決算書とは、財務諸表とも呼ばれ、貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書等から構成される。これらの決算書が読めるようになると、企業の財産や利益、資金の流れがわかり、企業の業績を評価することができる。 本講義では、貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の基本的な構成を学習し、決算書が読めると付加価値や内部留保、粉飾決算等、さまざまな事が分析できるという事を学習する。					
到達目標		1 貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の基本的な構成を学ぶ 2 決算書の基礎的な知識を基に、付加価値分析や内部留保分析や法人税負担率の分析を学ぶ 3 粉飾決算がどのようにして生じるのかを学ぶ					
回	学習内容			回	学習内容		
1	ガイダンスー会計学とは			16	損益計算書の応用と包括利益計算書		
2	社会科学としての会計学			17	貸借対照表項目の応用		
3	会計基準のグローバル化			18	株主資本等変動計算書		
4	貸借対照表の構成要素について			19	比率分析のまとめと小テスト③		
5	損益計算書の構成要素について			20	法人企業統計と付加価値分析		
6	会社の種類と会計基準			21	内部留保の社会問題化		
7	決算書の入手の仕方、基本指標について			22	内部留保分析について		
8	損益計算書の読み方			23	私立大学の経営分析		
9	貸借対照表の読み方			24	実質法人税負担率の算定分析		
10	貸借対照表と損益計算書のまとめと小テスト①			25	受取配当益金不算入について		
11	比率分析の基礎知識			26	付加価値分析と富の分配		
12	収益性の分析			27	キャッシュ・フロー計算書について		
13	財務安定性の分析			28	企業評価とオリンパスの粉飾決算		
14	経営分析指標の平均値と同業他社の比較方法			29	各種分析のまとめと小テスト④		
15	比率分析のまとめと小テスト②			30	小テストの講評と全体の総括		
予習内容 復習内容	予習：教科書に目を通しておく 復習：ノートの整理、教科書をもう一度目を通す						
教科書	『市民が学ぶ決算書』唯学書房						
成績評価	小テスト（4回）60%（1回15%）、期末レポート40%。なお、出席は毎回取ります。						
実務経験							
その他 特記事項	電卓の用意が必要。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
経商基礎演習		浅野 和也	講義	2		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	本演習では経営学の基礎理論をふまえつつ、主に経営者と労働者双方の視点から企業経営と社会・生活の関係について考察していきます。同時に、①卒業論文の基礎作りとテーマ選定を行います。②グループディスカッション（GD）で議論を通じてゼミ生同士の理解を深めます。皆さんの学習・研究に対する自主・自立を培うことが最大の目的です。						
到達目標	経営者と労働者の視点双方から企業経営・労働に関する制度や政策の分析に取り組み、自分の考えをまとめることができるようになること。						
回	学習内容						
1	ガイダンス：演習の進め方						
2	テーマの選定						
3	問題意識の確認						
4	論文執筆の意義						
5	論文の起承転結						
6	文献通読・報告：資本主義社会の問題						
7	文献通読・報告：働くとは						
8	文献通読・報告：非典型雇用						
9	文献通読・報告：労働のブラック化						
10	文献通読・報告：ワークライフバランス						
11	文献通読・報告：新たな働き方の進展						
12	グループディスカッション：テーマ選定と資料作成						
13	グループディスカッション：資料作成						
14	グループディスカッション：発表						
15	総括：課題解決に必要なこと						
予習内容 復習内容	予習：資料・GDのテーマについて自分の考えをまとめる。 復習：ゼミ内で議論したことをふまえて予習したことをふりかえりまとめる。						
教科書	未定、テーマに合わせて決定します。						
成績評価	毎回の出席は必須。平常評価（ゼミでの発言、提出物など）100%。						
実務経験							
その他 特記事項	やむを得ず遅刻・欠席する場合は必ず連絡してください。 演習の主役は学生です。皆さんの積極的な発言を期待します。 経営学・人的資源管理論・労働法・ジェンダー論などを受講・受講予定であることが望ましい。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
経商基礎演習		石原 洋介	講義	2		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的		・経済学・金融論の入門書を輪読する。一定分量の内容を学生が報告し、それに基づき討論することで内容の理解を深める。 ・2年次の演習に向けた準備として経済学・金融論の基本的知識を学習し、それ加えてテキストの要約レジュメの作成、プレゼンテーションやディスカッションのやり方などを修得することを目的とする。					
到達目標		・経済・金融論の基本的知識を身につけ、現代的な課題について論理的に考察できるようになる。 ・テキストを要約し、それを発表したり、討論に参加して自説を展開することができるようになる。					
回	学習内容						
1	ガイダンス。ゼミ内委員の決定、報告の順番決めなど。						
2	古代の貨幣						
3	仮想通貨						
4	現実の貨幣						
5	貨幣よ、いでよ						
6	貨幣と経済学						
7	バブルと崩壊						
8	代替通貨						
9	心と貨幣						
10	金融とは何か・日本銀行は「銀行の銀行」						
11	日本銀行は「政府の銀行」・「発券銀行」						
12	紙幣の発行について・日本銀行の設立						
13	金融政策の仕組み・日銀の政策委員会						
14	ゼロ金利政策・「異次元」緩和政策						
15	景気の動向を監視・アメリカの中央銀行 F R B						
予習内容 復習内容	予習：報告担当はレジュメの作成、その他の学生はテキストを読み疑問点を考えておくこと。 復習：テキスト・講義レジュメを見返し、内容をしっかり理解すること。						
教科書	・デイヴィッド・オレル『貨幣の歴史』原書房、2021 年 ・池上彰『改訂新版日銀を知れば経済が分かる』平凡社新書、2017 年						
成績評価	ゼミでの報告及び討論への参加（100％）						
実務経験							
その他 特記事項	・出版状況や学生の興味関心に応じてテキストは変更する可能性がある。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
経商基礎演習		田添 篤史	講義	2		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	演習で必要となる、経済学からの社会の捉え方の基礎を学ぶ。文献のまとめ方、論文の執筆方法などを習得し、演習へとスムーズに移行できるようになることを目的とする。 加えて文献の輪読を行い、自己の担当回の発表を行うことを通じて発表の方法についても学ぶ。						
到達目標	① 現在の経済がどのような課題に直面しているかについて、自分の意見を持つことができる。 ② 文献のまとめ方、発表の方法を習得する。 ③ 論文をどのように書けば良いかについて理解する。						
回	学習内容						
1	基礎演習の目標および評価方法の説明						
2	論文とは何か						
3	論文の構造と各論の展開について						
4	参考文献の探し方と引用の方法						
5	発表の方法						
6	統計データの探し方						
7	経済学はどのように社会を理解しようとしてきたか						
8	グラフの作成方法とその解釈の仕方						
9	マクロ経済をどのように測定するか						
10	経済格差の問題とその対処						
11	経済成長はなぜ発生するのか						
12	格差は経済成長に影響を与えるのか						
13	制度が経済成長に及ぼす影響						
14	経済の状態と政治						
15	経済成長と民主主義						
予習内容 復習内容	予習：授業中に指定した文献について事前に読んでおくこと。 復習：基礎演習で行ったディスカッションについて振り返ること。						
教科書	受講者と相談のうえで決定する。						
成績評価	ディスカッションへの参加態度：100%						
実務経験							
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
経商基礎演習		田中 里美	講義	2		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	大学で研究することの基礎を学ぶ。まず、資料の収集の仕方や図書館の使い方を学ぶ。次に、社会科学をテーマとした自己の研究テーマを探究し、決定する。そして、2 年次演習で卒業論文を作成するためのレポートをまとめる。研究テーマの探究の過程やレポートは一人一人、授業において報告をすることで、各人の研究を進めていく。						
到達目標	1 研究の仕方について学ぶ。 2 各人の研究テーマを見つける。 3 研究レポートを作成する。						
回	学習内容						
1	ガイダンスー基礎演習で学習したい事の確認						
2	図書館の使い方や経商コースでの学習の仕方について						
3	会計学を学ぶにあたって						
4	各人の研究テーマの探究ー決算書（教科書の通読等を通して探究する。報告は一人一人報告する。）						
5	各人の研究テーマの探究ー比率分析（教科書の通読等を通して探究する。報告は一人一人報告する。）						
6	各人の研究テーマの探究ー経営分析（教科書の通読等を通して探究する。報告は一人一人報告する。）						
7	各人の研究テーマの探究ー内部留保分析（教科書の通読等を通して探究する。報告は一人一人報告する。）						
8	各人の研究テーマの探究ー粉飾決算（教科書の通読等を通して探究する。報告は一人一人報告する。）						
9	会計学的視点からのディスカッション						
10	経営分析的視点からのディスカッション						
11	2 年次演習に向けたレポートの報告 業界の経営戦略						
12	2 年次演習に向けたレポートの報告 業界分析						
13	2 年次演習に向けたレポートの報告 業種別分析						
14	2 年次演習に向けたレポートの報告 業種比較						
15	2 年次演習に向けたレポートの報告と提出						
予習内容 復習内容	予習：教科書に目を通す。自分の研究テーマを考える。 復習：研究テーマのレポートを作成する。						
教科書	初回の授業で指定する。						
成績評価	授業への積極的な参加と報告、発言 20%、レポートの提出 80% 合計 100%						
実務経験							
その他 特記事項	ゼミ生同士の親睦も深めたいと思うので、結局的な参加を求める。 ゼミ生の人数により、スケジュールが変わることがある。 正規時間外に学習を行うことがある。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
経商基礎演習		鷲尾 和紀	講義	2		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	本演習は、マーケティング戦略の基礎概念を復習していきながら、経済の周りに取り巻く環境を扱い、今後のマーケティング戦略の在り方を考えていきます。そのためには日本経済を中心に幅広い分野を視野に入れていく必要があります。経商基礎演習では2年次に進む演習科目に向けての準備段階といった位置づけにします。企業のマーケティング戦略を通じて、課題解決や問題解決について考えられることが本演習の狙いです。						
到達目標	今までの知識とこれからの経験を合わせてアウトプットできるように、創造性・思考力・判断力・表現力を育みます。学生生活を通じて自己分析を行い、将来に向けて成長できることを目標とします。今一度マーケティングの基礎力を確認し身に付けることを目標とします。						
回	学習内容						
1	マーケティングの基礎概念						
2	マーケティング戦略の意義						
3	サービスとは何か 4つの特性						
4	企業事例研究：サービス業の企業研究(発表・討論)						
5	企業事例研究：サービス業の販売活動の在り方						
6	1分スピーチ・自己分析						
7	プレゼンテーションの仕方						
8	課外活動 FW(一身田商店街)						
9	課外活動 FW(発表・討論)						
10	マーケティングと経済との関連性						
11	ポジショニング・差別化戦略						
12	ポジショニング・差別化戦略(発表・討論)						
13	リレーションシップ・マーケティング						
14	SNS マーケティング、インフルエンサー・マーケティング						
15	まとめ、レポートの作成						
予習内容 復習内容	予習：テキストを通読 復習：テキストの内容、個々の発表の内容を確認する。						
教科書	鷲尾和紀(2016)『パーソナルファイナンシャル・サービス・マーケティング』発行：創成社 参考図書は必要に応じて講義中に紹介します。						
成績評価	出席・レポート・積極的な授業態度等発言を総合して100%とする。無断欠席は厳禁。						
実務経験							
その他 特記事項	マーケティング論Ⅰを受講していることが望ましい。						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
政治経済学	深井 英喜	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	経済学の基本的な考え方である理論経済学には、近代経済学と政治経済学（または社会経済学）という2つの体系があります。この講義では、政治経済学の体系を学習します。具体的には、マルクス経済学、ポスト・ケインズ派経済学、そして制度学派経済学といった経済学の考え方を扱います。経済学や経営学の考え方の基礎を学習することが、この講義の目的です。					
到達目標	理論経済学は、経済学そして経営学の考え方の基礎となります。経済学が資本主義社会をどのように見るのか、その基礎的な考え方を学習することを通して、学生は、経済学や経営学を学ぶための基礎を習得します。					
回	学習内容					
1	ガイダンス：経済学を学ぶということについて。また、経済学が考えようとしている課題について。					
2	商品と価値：資本主義社会の基本的な特徴①					
3	貨幣の諸定義：資本主義社会の基本的な特徴②					
4	価値と価格①：市場の働きとその役割について考える					
5	価値と価格②：市場競争の役割と、市場がうまく働く条件について考える					
6	資本主義的生産の仕組み					
7	剰余価値の生産①：利潤はどこから生じるのか					
8	剰余価値の生産②：利潤が増えるメカニズム。また、その結果、社会はどのような影響を受けるか。					
9	資本の蓄積と再生産①：社会はどのように維持されるのか（単純再生産）					
10	資本の蓄積と再生産②：経済はどのように成長するのか					
11	技術革新と雇用①：技術の進歩によって経済はどのように成長するのか					
12	技術革新と雇用②：技術の進歩によって社会はどのような影響を受けるのか					
13	生産様式と労働の包摂：資本主義社会と労働環境について考える					
14	金融市場の構造とメカニズム：“お金”とは何か。そして、“お金”はどのようにして生まれるのか					
15	講義のまとめ					
予習内容 復習内容	予習として日頃から社会経済ニュースに関心をもつ。復習は講義の内容を自らのノートにまとめる。					
教科書	レジュメを配布する。					
成績評価	中間課題 30%。期末試験 70%。ミニッツペーパーの内容で10点を上限に加点。					
実務経験						
その他 特記事項	非常勤のため、講義の後の休み時間をオフィスアワーとする。					

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
日本経済論		鈴木 伸	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	この授業では経済学の観点から日本経済の変容を捉えていくことを目的とする。日本経済は 1990 年代を境い目に転換期を迎え、格差拡大に代表されるように様々な課題を抱えている。将来を考えていく上でこうした問題を自分の頭で考えていくことは必要不可欠といっても過言ではないだろう。授業では経済学の分析視角を学ぶとともに、日本経済に関する幅広い論点を取り扱っていく。また日本経済を分析し自らの意見を述べる方法論についても扱っていく。						
到達目標	①多様な観点から日本経済について複合的に見ていくことができるようになる。 ②経済学の分析視点を身に付け、日本経済を論じることができるようになる。 ③得た知識と分析枠組みを用いて、日本経済について自らの考えを述べられるようになる。						
回	学習内容						
1	ガイダンス：日本経済をどう捉えるか						
2	世界経済はどこで歪んだのか						
3	日本経済の歩み：日本型経済システムの成立と解体						
4	平成の「失われた 30 年」と日本経済の構造変化						
5	キャッシュレス経済の現状と課題						
6	グローバル化は国民を豊かにするのか：変質する自由貿易の理念と通商政策						
7	劣化する労働環境と「働き方改革」						
8	ベーシック・インカムは社会保障の核となり得るか：現金給付の意義とは						
9	国民皆保険制度は本当に持続的か：制度危機の処方箋の検討						
10	農山村の内発的発展と財政：林業・木材産業をケースに						
11	経済成長・格差・少子高齢化						
12	民間非営利組織の営利化、営利組織の非営利化：NPO、社会的企業、CSR、ESG 投資のゆくえ						
13	情報化、IoT 時代がもたらす未来社会の「姿」						
14	日本経済はどこへ行くのか？（全授業のまとめとレポートの書き方について）						
15	ディスカッション：日本経済を論じよう						
予習内容 復習内容	予習：教科書を読み、毎授業提出のコメントシートに疑問点を書く。 復習：授業後にコメントシートを提出し、授業で学んだことを提出する。						
教科書	小山大介・森本壮亮編著『変容する日本経済（仮）』鉾脈社						
成績評価	コメントシートの提出：40% 授業で別途出す課題：20% 最終レポート：40%						
実務経験							
その他 特記事項	コメントシートはオンラインベースで行う。また 15 回目のディスカッションはプレゼンをしてもらう予定だが、受講生数等を踏まえ最終的に決定する。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
経済政策		熊澤 大輔	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	本科目は、資本主義経済の特徴を理解することで、現代的な諸問題（不況、失業、格差、財政赤字、少子高齢化など）について考察するために必要な基礎知識を身につけることを目的としています。授業前半では、資本主義経済の運動（成長と景気循環）、市場のメカニズムについての理論的な説明を行います。授業後半では、前半の知識を活かしながら、統計資料を読み解き、1980 年以降の日本経済について景気と経済政策の関係を中心に分析していきます。数学的な手法を用いる場合もあります。が、図解してなるべく平易に解説するよう努めています。						
到達目標	・資本主義経済の運動について理解する。 ・市場における分配のメカニズムを理解する。 ・景気に応じて適切な経済政策を考えられるようになる。						
回	学習内容						
1	イントロダクション（講義の射程、成績評価、経済学説の発展）						
2	資本主義経済の特徴（成長と分配）						
3	資本主義経済の長期的運動（蓄積、拡大再生産、労働生産性の上昇）						
4	市場のメカニズム①生産可能性集合、交換の利益						
5	市場のメカニズム②労働力の交換、所有分布の偏り、比較優位						
6	市場のメカニズム③利潤最大化、労働の搾取						
7	資本主義経済の短期的循環運動（景気循環発生のメカニズム）						
8	景気のコントロール①金融政策（利子率の決定、買いオペ、売りオペ、インフレ目標政策）						
9	景気のコントロール②財政政策（限界消費性向、租税、乗数効果）						
10	景気のコントロール③一般均衡モデル（労働市場と財市場の関係）						
11	日本経済①1983-1993 バブル形成と崩壊						
12	日本経済②1993-2003 長期不況と財政赤字						
13	日本経済③2003-2013 構造改革と雇用環境						
14	日本経済④2013-現在 アベノミクスの功罪						
15	総論（復習、まとめ）						
予習内容 復習内容	予習：次回授業の配布スライドを通読 復習：配布済みスライドの再通読						
教科書	毎回パワーポイントを配布する。						
成績評価	出席時に提出する質問・要望・感想（10%） 中間レポート(40%) 期末レポート(50%)						
実務経験							
その他 特記事項	レジュメの配布や出欠管理、レポートの提出などすべて Google の classroom を用いて行います。内容は簡単ではありませんが、経済学に興味・関心を持つきっかけになって欲しいです。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
地域経済学		南 慎二郎	講義	2		1, 3	1, 2, 5
授業概要 授業目的	我々の日常生活において最も密接に関わるものとして地域経済社会がある。地域といった場合、一定の狭い空間範囲で区切られたローカルの存在であるが、一方で、現代におけるグローバル化・分権化・人口減少の潮流の中で地域は直接的に影響を受けることとなる。そのような地域における経済社会をどのように維持・発展させるかは、誰にとっても直面し、取り組まねばならない課題である。本講義では地域経済の理論やこれまでの学説、現実の地域経済の課題や政策を検討する。						
到達目標	①地域経済に関する基本的な概念や問題を幅広く理解し、説明することができる。 ②具体的な地域経済に関する問題を把握し、論じることができる。						
回	学習内容						
1	地域経済学とはなにか：地域概念、地域経済学の構成、都市と農村						
2	地域の経済理論：チューネン等の立地論の系譜とその理論						
3	地域経済の分析法、産業連関、費用便益、地域の政治経済学						
4	地域経済と地域システム：立地論からシステム論へ、地域システムと企業システム、産業クラスター						
5	地域経済と都市論：都市の経済学的定義、田園都市論						
6	地域経済の都市化：集積利益、社会的分業の進行						
7	資本主義と地域経済：都市化の進行、グローバリゼーション						
8	地域経済と都市問題の深刻化：集積不利益、公共政策の拡大、現代的貧困						
9	地域問題と地域政策：地域政策効果の考察、政府の失敗、TVA(テネシー川流域開発公社)の実践						
10	地域政策と内発的発展論						
11	日本の国土開発の歴史と地域経済：全国総合開発計画、国土形成計画						
12	日本の大都市圏の現状と展望：首都圏						
13	地方都市の内発的発展：石川県金沢市						
14	農山村の内発的発展：岡山県新庄村、大分県由布院						
15	創造都市論：イタリア・ボローニャ						
予習内容 復習内容	予習：参考書や講義内で提示する参考資料・URLを読む。 復習：その回に指示した参考文献、その回の講義資料を読む。						
教科書	テキストは使用しない。講義資料としてレジュメおよびスライドを用いる。						
成績評価	授業内で実施する小課題 60%、レポート課題 40%						
実務経験							
その他 特記事項	全般的に関係する参考文献として以下を紹介しておく。宮本憲一、横田茂、中村剛治郎(編)『地域経済学』有斐閣、1990年。中村剛治郎編『基本ケースで学ぶ地域経済学』有斐閣、2008年。岡田知弘、川瀬光義、鈴木誠、富樫幸一『国際化時代の地域経済学〔第4版〕』有斐閣、2016年。						

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
地方財政論	南 慎二郎	講義	2		1, 3	1, 2, 5
授業概要 授業目的	グローバル化・分権化・人口減少のなかで、地方自治とその経済的側面である地方財政への関心が高まっている。分権時代の自治体のあり方や公共政策を考えるためには、地方財政について学ぶことが不可欠である。本授業では、日本の地方財政のしくみと特質を解説するとともに、具体的な地方財政に関する問題や課題を検討する。					
到達目標	①地方財政に関する基本的な概念、法制度を理解し、説明できる。 ②実際の自治体の地方財政に関する問題や課題を把握し、論じることができる。					
回	学習内容					
1	地方財政論の対象領域・特徴・課題、地方財政と地方自治について					
2	地方自治と地方財政の歴史：明治～戦前					
3	地方自治と地方財政の歴史：戦後					
4	予算論：財政民主主義、予算循環、予算制度改革					
5	経費論：地方経費の規模と役割分担、地方経費の概要、地方経費の歴史的動向や今後					
6	地方税：地方税の意義と体系、日本の地方税制度の構造					
7	地方交付税：地方交付税制度の意義、地方交付税のしくみ					
8	国庫支出金：補助金制度、国庫支出金、特定財源保障、国庫補助負担金改革					
9	地方債と財政統制：地方債計画、地方債協議制度・許可制度、自治体財政健全化法					
10	公共事業と公共施設：公共投資の意義・目的、公共投資の制約と公共施設老朽化問題					
11	地方公営企業、地方公社、第3セクター					
12	公営企業による社会資本整備のケース・スタディ：上下水道					
13	自治体再編と地方財政：広域行政、市町村合併、都市制度、道州制や圏域行政					
14	災害・環境対策や社会保障と地方財政					
15	福祉・医療と地方財政、地方財政の展望					
予習内容 復習内容	予習：次回テーマである教科書の該当箇所などを読む(各回最後に指示)。 復習：その回の教科書の該当箇所や参考文献、講義資料を読む。(各回最後に指示)					
教科書	沼尾波子・池上岳彦・木村佳弘・高端正幸『地方財政を学ぶ』有斐閣、2017 年。					
成績評価	授業内で実施する小課題 60%、レポート課題 40%					
実務経験						
その他 特記事項	地方財政は身近な行政サービスのあり方を規定するものです。我々の生活に直接的に影響し、さらには流動的に動向や制度は変化するものでもありますので、新聞やニュースでの財政や地方自治体運営に関する最新の話題にも関心を向けておいてください。					

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
経済学史		田添 篤史	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	経済学の歴史を学ぶことで、現代の経済学がどのような思想的流れの中で生み出されたのかを理解し、それを通じて経済学の基本的な考え方を把握することを目的とする。 また経済学のなかには主流派のミクロ・マクロ経済学とは異なる多様な考え方があることを知り、経済を様々な視点から捉えることができるようになることについても目的とする。						
到達目標	① 経済学の歴史を学び、どのような学派が存在するのか、それぞれにどのような特徴があるのかを理解する。 ② 現実の経済問題に対して、様々な角度から見るができるようになる。						
回	学習内容						
1	経済学史とはどのようなものか、それを学ぶ理由						
2	アダム・スミス(1)：階級と所得の対応関係、自由取引の利点、分業と生産性						
3	アダム・スミス(2)：萌芽的な労働価値説						
4	リカード(1)：価値構成説と価値分解説						
5	リカード(2)：差額地代説、比較優位論						
6	マルクス(1)：資本主義社会の捉え方						
7	マルクス(2)：公正な賃金であっても発生する搾取						
8	マルクス(3)：物質代謝論						
9	限界革命：方法論の転換						
10	マーシャル(1)：需要曲線の考え方						
11	マーシャル(2)：供給曲線の考え方						
12	ケインズ(1)：新古典派批判とその独自性						
13	ケインズ(2)：有効需要の原理						
14	ケインズ経済学の衰退と新しい古典派						
15	格差と経済成長をめぐる議論						
予習内容 復習内容	予習：授業中に指定された文献を読んでおくこと。 復習：配布資料および授業ノートを整理事ること。						
教科書	特になし。授業中に資料を配布する。						
成績評価	毎回の授業で提出するコメントシート:30% 課題レポート:70%						
実務経験							
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
経営管理論		藤谷 麻菜	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	本講義の目的は、経営管理と生産システムの理論を歴史と結びつけて把握することである。また、現代社会で生じている問題や近年の動向などを、理論を通して理解することを目指す。経営管理論の基礎知識を、新聞などで報道されるニュースについて深く理解するきっかけにしたい。						
到達目標	1 経営管理論の基礎知識を身につける。 2 経営管理と生産システムの理論を歴史的に把握する。 3 現代社会の問題と経営管理論を関連させて理解する。						
回	学習内容						
1	経営管理とは何か						
2	産業革命と経営形態の発展						
3	テイラーの科学的管理法						
4	フォード・システムの登場						
5	トヨタ生産方式への発展						
6	日本的生産システムの展開						
7	現代日本社会と経営管理の諸問題						
8	中小企業の経営						
9	これまでのまとめと中間テスト						
10	海外の経営管理						
11	企業のグローバル化						
12	海外の経営変化						
13	第四次産業革命時代の経営管理						
14	デジタル化の進展と日本企業						
15	現代の経営管理の課題						
予習内容 復習内容	予習：講義中に示す参考文献などを読む。復習：配布レジюмеに目を通すなど。						
教科書	プリント教材を配布します。テキストは特に指定しません。参考文献は適宜紹介します。						
成績評価	コメントシートによる平常評価：20%、中間テスト：30%、最終レポート：50%						
実務経験							
その他 特記事項	時事問題などを講義で取り上げるので、新聞記事や報道番組などに目を通すことが望ましいです。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
経営財務論		上木 敏正	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	経営財務論は、企業における資本の調達と運用を検討対象とし、財務意思決定者の意思決定をサポートすることを目的としています。講義が進むうちに理解できると思いますが、検討領域は企業内のみならず、外部資本市場を含む包括的なものになります。企業経営に必要な不可欠なこの分野を学習することにより、資本の流れを通じて企業の経営活動を見る目を養って下さい。						
到達目標	・経営財務の知識を習得する。経営財務の意義を理解する。 ・経営財務の諸理論を学ぶことにより、論理的思考を身に付ける。 ・資本の流れを通じて企業の経営活動を見る目を養う。						
回	学習内容						
1	第 0 章 講義内容ガイダンス 第 1 章 経営財務の本質(前編)						
2	第 1 章 経営財務の本質(後編) 第 2 章 経営財務の目的(前編)						
3	第 2 章 経営財務の目的(後編) 第 3 章 財務計画(前編)						
4	第 3 章 財務計画(後編) 第 4 章 運転資本管理(前編)						
5	第 4 章 運転資本管理(後編) 第 5 章 投資決定(前編)						
6	第 5 章 投資決定(中編)						
7	第 5 章 投資決定(後編) 第 6 章 長期資本調達(前編)						
8	第 6 章 長期資本調達(後編) 第 7 章 資本コスト・資本構成の理論(前編)						
9	第 7 章 資本コスト・資本構成の理論(後編) 第 8 章 配当政策(前編)						
10	第 8 章 配当政策(後編) 第 9 章 企業評価(前編)						
11	第 9 章 企業評価(後編) 第 10 章 ポートフォリオ理論(前編)						
12	第 10 章 ポートフォリオ理論(後編) 第 11 章 資本資産評価モデル(前編)						
13	第 11 章 資本資産評価モデル(後編) 第 12 章 デリバティブ(前編)						
14	第 12 章 デリバティブ(後編) 第 13 章 その他トピックス(前編)						
15	第 13 章 その他トピックス(後編) 講義内容のまとめ						
予習内容 復習内容	予習：配付されたレジュメ・資料を読む。練習問題がある場合は分かる範囲で解いてみる。 復習：学習内容の確認。練習問題があった場合はその解き方などを中心に確認する。						
教科書	テキストは使用しません。レジュメ・資料を配付します。参考文献は講義中に提示します。						
成績評価	第 15 回講義までのうち合計 10 回以上出席した受講生を対象に、定期試験(100%)で評価します。なお、必要に応じて通常の平常点(出席など；プラスにもマイナスにもなり得る)と「株式学習ゲーム」への参加状況に関する平常点を評価に加味します。						
実務経験							
その他 特記事項	講義の具体的な方針等は第 1 回講義時に説明します。なお、2023 年度は、上記講義内容の学習と並行して「株式学習ゲーム」を活用した学習も予定しています。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
人的資源管理論		奥田 友枝子	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	現代社会において、企業は様々な財やサービスを提供することで利益の獲得を目指しています。ここで注意しなければならないのは、物的資源、資金的資源、情動的資源はあくまでも企業内部の人間（ヒト）が主体となってこれら諸資源を利用する時、はじめて企業活動に貢献するという点です。本講義では、企業の「働き方」と「働かせ方」を管理する仕組みについて学習することを目的としています。						
到達目標	1 概念としての人的資源管理の特徴と課題を理解することができる。 2 日本における人的資源管理の特殊性とその二面性を理解することができる。 3 人的資源管理の最新動向とその背景について理解することができる。						
回	学習内容						
1	管理問題の発生と展開						
2	内部請負制と科学的管理法						
3	管理の構造と発展						
4	人事管理論について						
5	ヒトの管理を巡る変遷						
6	労働時間と裁量労働制						
7	従業員の採用と昇格の管理						
8	企業内教育訓練・能力開発の課題						
9	賃金管理と処遇問題						
10	終身雇用制度と退職金問題						
11	女性労働・高年齢者雇用について-男女共同参画社会に向けて-						
12	経営戦略の展開と人的資源管理						
13	多様な紛争解決システムと労働組合						
14	日本型人的資源管理の行方						
15	本講義のまとめ（総括）						
予習内容 復習内容	予習：講義中に示す文献を読んでおくこと。 復習：授業のまとめ、考察をノートに書き込んでおくこと。						
教科書	澤田幹・谷本啓・橋場俊展・山本大造『ヒト・仕事・職場のマネジメントー人的資源管理の理論と展開ー』（ミネルヴァ書房、2016年）						
成績評価	出席時に提出する小レポートの内容 30% 学期末課題レポート 70%						
実務経験							
その他 特記事項	授業の進捗状況によって授業内容を変更することがあります。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
マーケティング論Ⅱ		鷲尾 和紀	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	マーケティング論Ⅱでは、マーケティング論Ⅰで学んだマーケティングの基本原則であるマーケティング・マネジメント・プロセスを踏まえて、企業がどのようにマーケティング戦略を行っているか事例を交えて説明していきます。またデジタル化に向けてマーケティングの在り方がどのように変わっていくか白書の資料を使って説明します。さらに地域活性化や地域創生に向けたマーケティング戦略を説明していきます。						
到達目標	マーケティング戦略の基礎を理解していき、それを応用して使いこなせる、問題を解決できることが、授業の到達目標であります。商品開発に必要な創造力・思考力・判断力を身に付けます。						
回	学習内容						
1	マーケティングの基礎概念						
2	マーケティング戦略の意義						
3	株式会社オタフクソースの企業研究ーコト消費を考えるー						
4	プラス株式会社 P L U S の企業研究①ーハサミに求めているもの（商品開発）ー						
5	プラス株式会社 P L U S の企業研究②ーヒット商品として長く売れ続けるためにはー						
6	日清食品株式会社の企業研究ーカップラーメンの誕生から現在に至るまでー						
7	AI とマーケティング①ー人間ができて AI ができないものー						
8	AI とマーケティング②ーデジタル化に向けた技術革新についてー						
9	AI とマーケティング③ーデジタル化に向けた人材育成と販売戦略ー						
10	イオン株式会社の企業研究ー事業の分類ー						
11	地域活性化に向けたマーケティング戦略ー6 次産業の事例ー						
12	地域ブランド・観光マーケティングー観光地のマーケティング事例ー						
13	地域創生に向けたマーケティング戦略ー商店街の事例ー						
14	インフルエンサー・マーケティング/SNS マーケティング						
15	これからのマーケティング戦略の課題・まとめ						
予習内容 復習内容	予習：テキストを通読 復習：授業内容についてノートにまとめる、日常生活から企業のマーケティング手法を探す。						
教科書	鷲尾和紀・鷲尾紀吉(2017)『マーケティング戦略論』発行：創成社 参考図書は必要に応じて講義中に紹介します。						
成績評価	定期試験 7 0 % 出席 3 0 %（授業内提出含む）						
実務経験							
その他 特記事項	毎回ではないが簡単な小テストまたはレポートを実施する場合があります。 受動ではなく能動に学生が主体的に考え、それを通じて教員と学生がコミュニケーションをすることで将来への意識付けができるような授業を目指します。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
起業論		山川 敏	講義	2		1, 3, 4	1, 2, 5
授業概要 授業目的	株式会社三十三総研コンサルティング部の部長（主席コンサルタント）として、日々の企業コンサル業務や企業研修の講師業務等を通じて得た経験をもとに、現在の企業を取り巻く環境の変化等に即した内容の講義を実施します。（また、環境が整えばグループ討議等による学生参加型の講義を実施する予定です。）						
到達目標	学生による普段生活下での自主的な学習意欲や好奇心を醸成させ、社会人になってからも役に立つ心構えや企業運営を行う上で大切なこと、経営革新の考え方や起業の視点等を養うことを目標とします。						
回	学習内容						
1	未来を予測して仮説をたてる①：起業の意義と外部環境把握①						
2	未来を予測して仮説をたてる②：外部環境把握②						
3	未来を予測して仮説をたてる③：外部環境把握③と仮説①						
4	未来を予測して仮説をたてる④：外部環境把握④と仮説②						
5	お客様の満足を考える						
6	事例研究①：新製品の考察						
7	事例研究②：新サービスの考察						
8	起業家の成功要因を考える：3つの側面からの考察						
9	自分研究：自分の特長、将来やってみたいこと						
10	経営理念の立て方：基本理念と行動理念						
11	マーケティングと経営戦略①：マーケティングの意義						
12	マーケティングと経営戦略②：勝つための仕組みづくり						
13	決算書の見方と資金繰り①：B/S と P/L の仕組み						
14	決算書の見方と資金繰り②：資金繰表の作成と検証						
15	ビジネスプラン作成						
予習内容 復習内容	予習：日々のニュース（新聞等）に目を通すこと。 復習：毎回の講義を深掘りして考察すること。						
教科書	教材・テキスト等は、当方でレジュメを用意します。						
成績評価	講義終了 10 分前に、当日の理解度を確認するレポートを提出してもらいます。①レポート提出をもって出席確認 2.5 点、②レポート評価で最高 2.5 点（15 回まで満点の場合 5 点×15 回＝75 点）また、ビジネスプランの提出及び評価で最高 25 点、以上の合計 100 点で採点します。						
実務経験	現在、株式会社三十三総研のコンサルティング部長として企業コンサルをはじめ、各種研修会の講師等、現役で業務を行っています。こうした実務経験を活かして、実際のビジネスを取り巻く環境等を十分に理解できる鮮度ある講義になるよう努めます。						
その他 特記事項	一方的に教えるというのではなく、学生同士が共に影響し合いながら考える力を養成する参加型の授業を目指します。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
税務会計論		田中 里美	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	税務会計論では、まず課税の概念について学習し、次に企業の法人課税を中心に学習する。加えて消費税について課税の公平の観点から考える。 課税の概念は、憲法から課税の公平について学ぶ。公平の概念には複数あり、どのように課税の公平について考えるのかは重要な課題である。次に、法人課税の仕組みについて学ぶ。益金損金の仕組みや、企業会計とのつながりについて考える。最後に、日本の法人課税の実態を分析する。						
到達目標	1 課税の公平について学ぶ 2 企業課税の仕組みについて学ぶ。 3 現在の法人課税状況について学ぶ。						
回	学習内容						
1	ガイダンスー税務会計論で学ぶこと。						
2	課税の公平についてー応能負担原則						
3	課税の公平についてー所得税と消費税						
4	企業課税の仕組みー確定決算主義、租税法律主義						
5	企業課税の仕組みー法人課税の歴史						
6	企業課税の仕組みーシャープ勧告						
7	これまでの総括と中間レポート						
8	法人課税の実態ー実質法人税負担率の算定の仕組み						
9	法人課税の実態ー実質法人税負担率の分析結果と推移						
10	内部留保と法人課税						
11	減価償却制度と法人課税						
12	受取配当益金不算入について						
13	租税特別措置						
14	これまでの総括と期末レポート						
15	中間・期末レポートの解説と講評、学生からの意見の集約と講評						
予習内容 復習内容	予習：教科書に目を通しておく。 復習：ノートの整理と、教科書に目を通す。						
教科書	初回授業時に指定する。						
成績評価	中間レポート 50%、期末レポート 50% 合計 100%						
実務経験							
その他 特記事項	会計学を履修していることが望ましい。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
工業簿記および原価計算		藤田 美咲	講義	2		2	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	この地域を支える製造業における取引の記録システムである工業簿記と、製品原価の計算についてその基本を理解することを目的とします。						
到達目標	日本商工会議所簿記検定 2 級の工業簿記レベルの実力を修得する土台として、原価計算の基本である個別原価計算と総合原価計算の手法と、その帳簿記入を習得することができる。						
回	学習内容						
1	ガイダンス、原価とは						
2	工業簿記の基礎概念、勘定連絡						
3	材料費、労務費						
4	経費、予定消費単価、予定賃率						
5	個別原価計算						
6	製造間接費の予定配賦、差異分析						
7	部門別個別原価計算						
8	単純総合原価計算						
9	仕損品が存在する場合						
10	工程別総合原価計算						
11	組別総合原価計算、等級別原価計算						
12	財務諸表の表示、本社工場会計						
13	直接原価計算						
14	CVP 分析						
15	まとめ講義						
予習内容 復習内容	予習；前回内容を振り返り、今回内容の前提を確認しておいて下さい。 復習；授業中に扱った問題をもう一度解きなおして下さい。						
教科書	(テキスト) 「合格テキスト 日商簿記 2 級 工業簿記」 TAC 出版						
成績評価	出席は毎回とります。全授業回数の 3 分の 1 を超えて欠席すると、評価の対象外とします。 試験 80% に平常点 (出席状況、講義中の態度、問題に取り組む姿勢) 20% を加味して判定します。						
実務経験	公認会計士・税理士として監査法人及び税理士法人勤務による財務諸表監査、決算書作成、税務申告、経営指導などの実務経験を有する。当該実務経験をもとに実際の企業における会計実務や管理会計の状況、経営手法や現代企業における課題などについても織り交ぜます。						
その他 特記事項	講義には電卓をご用意ください。 本講義は簿記 3 級程度の基本的な簿記の知識があることを前提としております。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
上級簿記		森 宏之	講義	2		2	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	簿記は、経理実務や経営管理に役立つ知識として、多くの企業から求められる資格の一つです。本講義では、財務諸表から経営内容を把握できるなど、企業活動や会計実務を踏まえ、適切な処理や分析を行うために求められる知識を養うことを授業目標とします。具体的には、商業簿記を中心として、これまで学んだ簿記の初級の知識や技能を更に発展させ、日商、全経など各種簿記検定試験の上級に対応できるように講義と演習を繰り返し行います。また、企業活動の中で、どのように簿記の技術が用いられるのか解説することにより、具体的なイメージを膨らませて知識の定着を図ります。						
到達目標	日商簿記 2 級レベルの基本的なスキルを習得するだけでなく、実務でも応用できるようにその背景や関連知識の習得も目標とします。						
回	学習内容						
1	ガイダンス 商品売買業、サービス業の処理						
2	現金と預金						
3	手形と電子記録債権、債権譲渡						
4	有形固定資産①						
5	有形固定資産②						
6	リース会計、無形固定資産と研究開発費						
7	有価証券						
8	引当金						
9	外貨建取引、株式の発行						
10	剰余金の配当と処分、税金、税効果会計						
11	収益認識、決算手続き①						
12	決算手続き②、本支店会計						
13	連結会計①（連結財務諸表とは、支配獲得日の連結、支配獲得後の連結）						
14	連結会計②（内部取引高や債権債務の相殺消去、手形取引や貸倒引当金の修正、未実現利益の消去）						
15	総括（授業の総まとめ、簿記検定試験について等）						
予習内容 復習内容	予習：テキストの講義範囲を読む。 復習：テキストの講義範囲の問題を繰り返し解く。						
教科書	初回講義時に案内します。（日商簿記検定 2 級用の書籍を予定）						
成績評価	試験（60％）、平常点（40％）で成績評価を行います。 平常点は、出席と小テストの成績及び発言など積極的に取り組む姿勢を総合的に考慮します。 試験は、日商簿記 2 級程度のレベルの試験を実施します。						
実務経験	名古屋税理士会に所属する税理士です。現在、会計事務所やコンサルティング会社を経営しております。実務経験に基づいた具体例を多く取り上げます。簿記が実務でどのように活用されているのか解説し、実務との関連性の理解を深めたいと思います。						
その他 特記事項	受講者の理解度などによって、学習内容を変更することがあります。 12 桁の電卓を持参してください。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会福祉論		田中 武士	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	現代社会における生活問題は複雑化、多様化している。このような生活問題について、様々な文献や新聞記事、映像等から現代社会に生きる人々の姿を丁寧にとらえていく。生活上の様々な困難を強いられる人々への眼差しと想像力、共感の姿勢を重視する。憲法 25 条（生存権）にある「健康で文化的な生活」とは何かについて深く考える力と共に、それを論理的に自分の言葉で語ることのできる力の獲得を目的とする。						
到達目標	①現代における社会福祉をめぐる諸問題および社会的背景について関心がもてる。 ②社会保障、社会福祉の制度や政策を検討し、それらに対する自らの意見をもつことができる。 ③憲法 25 条の理念を元に人間らしい生活のあり方について、論理的に考えることができる。						
回	学習内容						
1	オリエンテーション（授業内容の予定と評価の方法）						
2	社会福祉とは何か						
3	現代社会における生活実態						
4	社会福祉と子どもの権利						
5	社会福祉と障害のある人の権利						
6	社会福祉と高齢者の権利						
7	社会福祉の歴史（社会科学の視点）						
8	社会福祉の歴史（社会福祉の原理）						
9	社会福祉の歴史（社会福祉の理念と思想）						
10	社会福祉の歴史（生存権保障－朝日訴訟から学ぶ）						
11	社会福祉の援助方法（ソーシャルワーカーの活動）						
12	社会福祉の援助方法（ソーシャルワークとは何か）						
13	社会福祉の援助方法（ソーシャルワークの理論と方法）						
14	社会福祉における倫理						
15	まとめ（これからの社会福祉を考える）						
予習内容 復習内容	予習：授業計画を参考に日頃から新聞記事や文献などに目を通し、分からない用語については事前に調べておくこと。 復習：授業で配布した資料等をよく見返し、自身の関心分野を深めるよう努めること。						
教科書	指定のテキストは使用せず、適宜レジュメや資料を配布する。参考文献等は授業内で紹介する。						
成績評価	・毎授業後の小レポート：50%、定期試験：50%で総合的に評価する。 ・授業回数の 3 分の 1 を超える欠席をした場合、成績評価を受ける資格を失う。						
実務経験	医療機関や在宅介護支援センターなどでのソーシャルワーカー（社会福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員）としての実務経験に基づき授業を行う。						
その他 特記事項	授業は受講者と意見交換をしながら進めるため、主体的な態度での参加を求める。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
社会思想史		伊藤 信也	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	この講義は、隔年で「西洋中心の社会思想史」と「日本中心の社会思想史」を交互に特集しています。今年は日本の社会思想の歴史に注目して学んでいきます。日本の社会思想の理解を通じて、世界と日本の現代社会のあり方を見直すことを目的としています。近代の歴史に対する理解を深め、誤解を改めるきっかけとなることでしょう。また、この講義では「貧困からの解放」というサブテーマを設定し、そのテーマに沿った社会思想も取り上げていきます。思想家の人間観や、そこから生まれた社会理解を通じて、私たち自身の現代社会に対する理解を再検討することが、社会と私たちとの関係の本質を理解することにつながります。						
到達目標	①日本の社会思想の起源とその誕生、展開から現代的様相までを理解すること。 ②日本の社会思想が、貧困問題や格差問題と関連していることを理解すること。 ③「印象」や「傾向」で社会を見るのではなく、「明確な展望をもって社会と向き合える能力」を養うこと。						
回	学習内容						
1	イントロダクション：社会思想史と日本						
2	18 世紀江戸の民衆思想：日本の「社会思想」以前の思想（新井白石、安藤昌益）						
3	幕末の社会思想：開国要求による幕末の始まり（高野長英、渡辺崋山）						
4	幕末の社会思想：社会運動の本質的問題（佐久間象山、吉田松陰）						
5	明治前期の社会思想：西洋文明との対峙（「明六社」の活動家たち）						
6	明治前期の社会思想：啓蒙の光と影（福沢諭吉）						
7	自由民権運動の思想：自由への探求（中江兆民、植木枝盛）						
8	自由民権運動の思想：女性解放思想の誕生（中島俊子、福田英子）						
9	近代日本キリスト者の思想：内村鑑三の思想と活動						
10	映像学習日：近代日本の貧民救済の歴史（予定）						
11	大正デモクラシーの思想：母性保護論争（平塚らいてう、与謝野晶子、山川菊栄）						
12	大正デモクラシーの思想：社会主義、無政府主義（幸徳秋水、大杉栄）						
13	「昭和」の社会思想：「戦前」思想の諸相（北一輝、戸坂潤、河上肇）						
14	「昭和」の社会思想：「日本」を総括する思想（丸山眞男、竹内好、加藤周一）						
15	全体総括：「令和」の社会思想を考える						
予習内容 復習内容	予習：事前に提示した資料や参考文献に目を通しておく。 復習：プリントの内容を復習する。						
教科書	なし（毎回プリントを配布します）。必要な資料等はプリントで配布します。その他、参考文献は講義中に提示します。						
成績評価	1. 講義中に実施する「ミニレポート」（意見提出。配点は 40%）、2. 講義の最終日に提出する「期末レポート」（配点は 40%）、3. 積極的な受講姿勢（配点は 20%）						
実務経験							
その他 特記事項	1. ドキュメンタリーの上映など、映像による資料を随時使用していきます。2. 授業で取り上げる思想家を変更することがありますが、その場合は随時告知します。3. 第 1 週に詳細な「授業計画」ならびに「成績評価方法」、講師への問合せ方法を告知します。履修予定者は第 1 週にできる限り出席しておいて下さい。4. 現代の社会問題に関心の高い受講生の履修を求めます。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
地域政策論 I		小野寺 一成	講義	2		1, 3	1, 2, 5
授業概要 授業目的	地域政策とは、地域問題を把握し、その解決を図る政策のことである。人口の減少・超高齢化、経済等の国際化、財政の困難等多くの課題に直面しながらも、その地域をより良くしていくよう、活性化の手法やあり方などを理解することが、本講義の目的となる。 本講義では、豊かな地域を実現するために必要な社会資本などの国土政策を中心として、県内市町村などの具体例をあげながら講義する。						
到達目標	我が国、特に地方都市において、地域の活性化を考えていく基礎知識を身につけられるようになる。						
回	学習内容						
1	ガイダンス：地域政策とは、国土のグランドデザイン						
2	社会資本の歴史とその役割						
3	社会資本を取り巻く社会の状況						
4	今後の社会資本のあり方 ー維持管理ー						
5	今後の社会資本のあり方 ー将来を見越した取り組みー						
6	社会資本に関する国土交通行政の方向						
7	観光立国と美しい国づくり						
8	講義前半のまとめと中間試験						
9	東日本大震災からの復興に向けた取り組み						
10	美しく良好な環境の保全と創造						
11	安全・安心社会						
12	競争力のある社会						
13	心地よい生活空間づくり						
14	地域活性化の推進						
15	全講義のまとめ						
予習内容 復習内容	予習：各講義のテーマに関連した文献や講義中に示した参考文献などに目を通しておくこと。 復習：毎回配布する資料を復習するとともに、講義の重要なキーワードを理解しておくこと。						
教科書	テキストは使用しない。基本的には、Power Point を使用した講義。ppt 資料などを配布。 テーマによっては、DVD 教材などの視聴覚教材の利用。参考文献などは講義中に提示。						
成績評価	中間試験(40%)、定期試験(50%)、講義後小レポート(10%)をあわせて評価。 1/3 を超えて欠席した場合は評価の対象外、遅刻 3 回で 1 回の欠席とみなす。						
実務経験	都市計画事務所に勤務し、市町村総合計画、都市計画マスタープラン、住環境整備計画、地区計画、公営住宅統廃合計画などを策定したほか、住環境整備事業や公営住宅建替事業等に参画。 授業では、これらの実務経験を活かした実践的な調査研究、計画・設計力の養成に努める。						
その他 特記事項	授業の最後に、当日行った講義の重要なキーワードの回答を求める簡単な講義後小レポート(A6 判)を予定。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
地域政策論Ⅱ		南 有哲	講義	2		1, 3	1, 2, 5
授業概要 授業目的	農業・林業・水産業といった第一次産業は人間社会の基盤であるとともに、地域経済の基軸でもあるのであって、特に、長大で複雑な海岸線と広大な山林を抱えている三重県のような地域にとっては、特にそのことが当てはまる。第一次産業は自然環境とのかかわりが深いだけに、その在り方によっては自然と人間社会の双方に深刻な問題を引き起こすのであって、その実情と背景について認識することが本講義の目的である。						
到達目標	「生物多様性」および「持続可能性」の観点から、日本の第一次産業の現状と問題点について理解を深めていくことを目標とする。						
回	学習内容						
1	はじめにー生物多様性とは何か						
2	生態系サービスとその重要性について						
3	獣害問題についてー現状の概観、特に三重県について						
4	獣害問題についてー背景と対策						
5	林業を考えるー日本林業の現状						
6	林業を考えるー生物多様性保全における林業の役割						
7	外来生物問題ー現状の概観						
8	外来生物問題についてー政府の政策と求められる対策						
9	土壌の問題について						
10	農業とは何かー農業の本質について						
11	農業の多面的機能と生物多様性						
12	日本の食料政策と食料自給率						
13	工業的農業＝資源・エネルギー多投型農業の光と影						
14	水産資源の乱獲問題についてー世界的動向の概観						
15	水産資源の乱獲問題についてー日本における現状と課題						
予習内容 復習内容	予習に関しては、あらかじめ配布した資料の次回該当部分の提示を受け、事前学習を行う。復習に関しては、毎回小レポートで当日の講義の振り返りを行い、疑問・質問について次回講義で回答を受ける。						
教科書	特に指定せず。独自に作成したレジュメや図表など資料を配布する。						
成績評価	毎回小レポート…50% 定期試験…50%						
実務経験							
その他 特記事項	毎回小レポートに内容の記載がない場合、その回のレポートについては「不可」扱いとする。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
環境政策論		南 有哲	講義	2		1	1, 2, 5
授業概要 授業目的	21 世紀の市民にとっては、環境問題について生活者の立場から発言し行動するだけでは不十分であり、政治に参加する権利を持つ者として環境政策に積極的にかかわっていくことが求められるものと考えられる。本講義の目標は、環境政策を考える上での基本的な概念となる「環境問題」「市場経済」「国家」について概観した後、現代における環境政策の核心ともいえる「気候政策」について説明し、あるべき環境政策のあり方について考察する予定である。						
到達目標	「環境政策」が必要とされる根本的な原理的・歴史的・社会的背景について理解を深める。特に、現代において最重要とされる「気候政策」については、報道される内容をよく理解し、自らの頭で生活者・主権者として思考し行動できるようになることを目標とする。						
回	学習内容						
1	はじめに―「人新世」としての現代						
2	自然と人間の関係について						
3	環境問題の一般的構図						
4	環境破壊の人類史―先史時代から中世まで						
5	工業化について						
6	市場経済と共同体						
7	市場経済の必然的所産としての環境問題						
8	市場経済と国家―環境政策の必然性						
9	南北問題の史的背景―新大陸征服・奴隷貿易・植民地支配						
10	南北問題の現状と環境破壊						
11	気候政策の国際的展開―気候変動枠組条約と京都議定書						
12	気候政策の国際的展開―パリ協定とそれ以降						
13	日本における気候政策の展開―旧自公政権期から民主党政権まで						
14	日本における気候政策の展開―新自公政権期以降						
15	講義のまとめ～「人新世」を乗り越えていくために						
予習内容 復習内容	予習に関しては、あらかじめ配布した資料の次回該当部分の提示を受け学習する。復習に関しては、毎回小レポートで当日の講義の振り返りを行い、疑問・質問について次回講義にて回答を受ける。						
教科書	特に指定せず。独自に作成したレジュメや図表など資料を配布する						
成績評価	毎回小レポート…50% 定期試験…50%						
実務経験							
その他 特記事項	毎回小レポートに内容の記載がない場合、その回のレポートについては「不可」扱いとする。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
情報技術論		笠 浩一郎	講義	2		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	情報科学から生み出された技術により、人間の生活は大きく変化している。特に、コンピュータの出現は、人間の暮らしを劇変させた。コンピュータの歴史や仕組みを学び、日常的に利用している情報サービスの仕組みを理解することで、情報技術を高度かつ的確に利用できるようになることを目的とする。講義は、情報技術の基本となる内容が中心ではあるが、専門的な知識も多く紹介する。また、IT パスポート試験、及び、基本情報技術者試験の対策にもなる授業内容である。						
到達目標	コンピュータの歴史や仕組みを学び、日常的に利用している情報サービスの仕組みを理解することで、情報技術を高度かつ的確に利用できるようになることを本講義の到達目標とする。						
回	学習内容						
1	コンピュータの歴史、コンピュータの構成						
2	情報の表現 1 （2 進数）						
3	情報の表現 2 （1 6 進数、文字コード）						
4	論理演算と論理式						
5	論理回路						
6	ネットワーク 1 （LAN と WAN、無線 LAN）						
7	ネットワーク 2（ネットワーク機器、TCP/IP）						
8	ネットワーク 3（WWW、電子メール）						
9	データベース 1 （関係データベース、正規化）						
10	データベース 2 （SQL、排他制御、障害管理）						
11	アルゴリズムとデータ構造 1 （構造化プログラミング）						
12	アルゴリズムとデータ構造 2 （データ構造、ソート）						
13	情報理論 1 （情報量、符号化）						
14	情報理論 2 （オートマトン、形式言語）						
15	機械学習（ニューラルネットワーク、強化学習）						
予習内容 復習内容	授業の最後に次回の講義の内容の一部を紹介するので、予習してくること。 ほぼ毎回、前回の復習の小テストを実施するので、復習しておくように。						
教科書	資料を毎回配布する。参考文献は講義内で紹介する。						
成績評価	毎回の小テスト（50%）、期末試験（50%）						
実務経験							
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
演習		鎌塚 有貴	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的		「憲法Ⅰ・Ⅱ」の講義中では詳細に扱うことのできなかった事柄について、より詳細に検討することに加えて、憲法学が直面している時事問題についても理解を深めることを目標とする。 各回担当者による報告形式とする。					
到達目標		一つのテーマに沿って、自分の意見を発表できるようになること。 時事問題を含む実際の社会問題と憲法を関連付けて考えられるようになること。					
回	学習内容		回	学習内容			
1	ガイダンス：ゼミの進め方、研究倫理		16	選挙権			
2	人権総論		17	選挙制度			
3	幸福追求権		18	統治総論			
4	法の下での平等		19	国会の仕組み			
5	思想・良心の自由		20	委員会制度			
6	信教の自由		21	国政調査権			
7	表現の自由		22	議院内閣制			
8	身体の自由		23	外交			
9	経済的自由権		24	裁判所の組織			
10	生存権		25	司法権の独立			
11	教育を受ける権利		26	違憲審査制			
12	学問の自由		27	地方自治			
13	大学の自治		28	財政			
14	婚姻の自由		29	平和主義			
15	国籍		30	天皇制			
予習内容 復習内容		新聞記事やニュース等に目を通しておくこと。					
教科書		加藤一彦・柏崎敏義編『新 憲法判例特選〔第3版〕』（敬文堂、2021年）、その他授業中に指示するもの。					
成績評価		報告 50%、授業への参加態度 50%。					
実務経験							
その他 特記事項		授業計画は適宜変更の可能性はある。					

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
演習		川上 哲	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的		この演習では、政治学や行政学の立場から現代日本の政治・行政の諸問題を扱っていく。前半は自らの問題関心を深めてもらうため、日本の政治や行政に関わる文献輪読を通じた討論を行う。後期はより掘り下げた論点に関する討論を行い、卒業研究を仕上げることを目的とする。適切な質問や議論は、自らの問題意識を深める格好の機会であることを学んで欲しい。					
到達目標		①日本の政治や行政への問題関心を深める。 ②自らの見解を分かりやすく伝えることができる。 ③卒論作成を通じ、科学的な態度を身に付ける。					
回	学習内容		回	学習内容			
1	ゼミ概要と評価方法並びに研究倫理に関する講義		16	『職業としての官僚』を読む① 日本の官僚の実像			
2	『自民党－「一強」の実像』を読む① 派閥		17	『職業としての官僚』を読む② 平成期公務員制度改革			
3	『自民党－「一強」の実像』を読む② 総裁選挙とポスト配分		18	『職業としての官僚』を読む③ 英米独仏 4 か国からの示唆			
4	『自民党－「一強」の実像』を読む③ 政策決定プロセス		19	『職業としての官僚』を読む④ 官僚論から現代への示唆			
5	『自民党－「一強」の実像』を読む④ 国政選挙		20	『職業としての官僚』を読む⑤ 結び			
6	『自民党－「一強」の実像』を読む⑤ 友好団体		21	『職業としての官僚』全体の議論とまとめ			
7	『自民党－「一強」の実像』を読む⑥ 地方組織と後援会		22	卒業研究の内容についての個別報告			
8	『自民党－「一強」の実像』全体の議論とまとめ		23	文献の収集状況についての個別報告			
9	『戦後日本政治史』を読む① 敗戦～保守合同		24	資料の収集状況についての個別報告			
10	『戦後日本政治史』を読む② 保守合同～60 年代		25	卒業研究の構成についての個別報告			
11	『戦後日本政治史』を読む③ 70 年代～政治改革		26	卒業研究についての個別指導			
12	『戦後日本政治史』を読む④ 90 年代～小泉政権		27	卒業研究についての個別相談			
13	『戦後日本政治史』を読む⑤ 第 2 次安倍政権まで		28	卒業研究―研究内容の個別報告			
14	『戦後日本政治史』を読む全体の議論とまとめ		29	卒業研究―質問と討議			
15	前期のまとめ		30	後期のまとめ			
予習内容 復習内容	毎回の授業で扱う文献の指定箇所を事前に読み、疑問点を整理しておくこと。 授業後に議論の内容を整理し、疑問点を解消しておくこと。						
教科書	○中北浩爾『自民党－「一強」の実像』（中公新書、2017 年） ○石川真澄・山口二郎『戦後政治史（第四版）』（岩波新書、2021 年） ○嶋田博子『職業としての官僚』（岩波新書、2022 年）						
成績評価	評価は出席時の発言内容（50％）と報告内容（50％）で評価する。						
実務経験							
その他 特記事項	本科目は演習科目であるので、毎回の出席は当然のこととして参加すること（無断欠席は大きく評価を下げる）。また受講生には議論への積極的な参加＝発言を求める。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
演習		楠本 孝	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的		犯罪と刑罰をめぐる諸問題からゼミ生が自ら選んだテーマについて調査・研究・報告を行う。前期は、ゼミ生各自が選択したテーマについて、代表的な先行研究を教員が指定し、それを各ゼミ員がレジュメにまとめ報告する。一人2回ないし3回程度の報告をする。後期は、各ゼミ員が、自分の選択したテーマについて、自ら関連論文を選択して、その内容について報告する。一人2回ないし3回程度の報告をする。以下は、学生が、仮に、死刑、少年法、責任能力論、性犯罪、安楽死をテーマとして選んだ場合を想定した授業計画である。					
到達目標		最終的には、各自ゼミ論文を作成し、論文集にまとめる。					
回	学習内容			回	学習内容		
1	研究倫理教育/ 死刑存置論の基本文献を読む			16	所一彦の死刑存置論を検討する		
2	少年法の概要に関する基本文献を読む			17	刑事処分相当性の内容を検討する		
3	責任能力に関する基本文献を読む			18	前田雅英の責任能力論を検討する		
4	性犯罪に関する基本文献を読む			19	性犯罪の保護法益について検討する		
5	安楽死に関する基本文献を読む			20	ドイツにおける自殺幇助論を検討する		
6	死刑廃止論の基本文献を読む			21	菊田幸一の死刑廃止論を検討する		
7	少年法の理念に関する基本文献を読む			22	佐伯仁志の少年法の理念論を検討する		
8	責任能力に関する基本判例を読む			23	松原芳博の責任能力論を検討する		
9	性犯罪に関する刑法改正の基本文献を読む			24	性犯罪における暴行・脅迫要件を検討する		
10	安楽死に関する基本判例を読む			25	オランダの安楽死法制を検討する		
11	死刑に関する基本判例を読む			26	死刑事件のスーパーデュープロセスについて考える		
12	非行少年の処遇に関する基本文献を読む			27	廣瀬健二の少年責任論を検討する		
13	医療観察法に関する基本文献を読む			28	裁判員制度の下での責任能力論について考える		
14	性犯罪に関する近時の判例を読む			29	性犯罪に関する新たな刑法改正論議について考える		
15	諸外国の安楽死制度に関する基本文献を読む			30	スイスにおける安楽死法制について考える		
予習内容 復習内容		先行研究を予習し、復習としてゼミ論文にまとめる					
教科書		各ゼミ生の研究テーマに即した文献を案内する					
成績評価		ゼミ論文の内容とゼミへの貢献度を総合的に評価する					
実務経験							
その他 特記事項		コロナウイルス感染症の拡大が収束していれば、夏休みにゼミ合宿（施設見学）を行う予定である					

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
演習		照井 遥瑛	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	本演習では、著名な判例、著名な学者の論文等から、受講生が興味のある民法に関わるテーマを選択し、報告をしてもらう形式を採る予定です。民法の学習において基礎的知識の修得は勿論大事ですが、特に重要なことは、「ある問題に対する考え方は一つではなく、さらには時代や人が変われば結論も変わる可能性がある」という目線を持つことです。調査・報告・議論を繰り返し、研究成果を卒業論文として残すことは、そのような目線を持つことができるようになるだけでなく、論理的思考力や報告能力の向上にも繋がりますし、どのような進路に進むにしても必要な修練です。						
到達目標	①文献調査・報告等を通じて、法的な問題を発見する力、簡潔に報告する力を身に付けること。 ②卒業論文の執筆を通じて、論理的な文章を書く力を身に付けること。						
回	学習内容		回	学習内容			
1	前期ガイダンス（演習の進め方、成績評価方法の説明など）		16	後期ガイダンス（卒論の執筆についてなど）			
2	研究倫理について学ぶ		17	夏休み中の研究成果を報告			
3	判例検索の仕方を再確認		18	卒論の目次を作成してみる			
4	論文検索の仕方を再確認		19	売買後に規制された物質による土壌汚染の判例について検討			
5	各受講生から関心のあるテーマについて報告		20	未成年者の不法行為と監督義務者の責任の学説について検討			
6	執筆計画を立ててみる		21	内縁・事実婚をめぐる法的問題について検討			
7	報告資料をレジュメで作成してみる		22	子の引渡請求をめぐる法的問題について検討			
8	報告資料をパワーポイントで作成してみる		23	無権代理と相続をめぐる法的問題について検討			
9	卒論進捗報告		24	卒論の序論に焦点を当てた報告			
10	各受講生の卒論テーマを決定する		25	卒論で扱う判例に焦点を当てた報告			
11	民法 94 条 2 項の類推適用の判例について検討		26	卒論で扱う学説に焦点を当てた報告			
12	民法 177 条と第三者の学説について検討		27	卒論の結論に焦点を当てた報告			
13	卒論中間報告		28	最終報告用の資料を作成してみる			
14	夏休み中の執筆計画を各自報告		29	卒論最終報告			
15	前期まとめ		30	後期まとめ			
予習内容 復習内容	予習：事前に配布する資料や報告者が報告するテーマに関する判決や文献に目を通すこと。 復習：演習で扱ったテーマや専門用語を、書籍、レジュメ、ノート等で確認すること。						
教科書	特に指定はしませんが、最新年度版の小型六法を必ず持参してきてください。また、報告テーマを決める上で有意義な書籍については開講時に紹介します。						
成績評価	報告・発言（50%）と報告レジュメや卒業論文等の成果物（50%）を総合して成績評価を行います。						
実務経験							
その他 特記事項	一緒に相談しながらより良い演習にしていきたいと思っています。演習の主役は学生ですから、積極的に参加しようとする意欲をもって毎回出席してください。教員として、そのためのサポートを惜しみません。 民法Ⅰ、民法Ⅱ、民法Ⅲ、家族法を履修していることが望ましいです。なお、演習内で挑戦してみたいことがありましたら、遠慮なく申し出てください。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
演習		西川 昇吾	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	本演習では、労働法学に関する争点・課題について、教員からの情報提供や発問等のもと、学生が一同となって研究・討議し、それらを成果として最終的に文章化する。具体的には、毎回、原則として学生1名が、自ら決定した主題に関する判例や法律文献等について報告し、それを受けて、教員と学生が、それぞれの立場から評価や疑問、意見を述べ、さらに他者が発言を積み重ねていく。 それにより、労働法学に関する諸問題について調査・考察しうる力を養うとともに、自説の打ち立てられた卒業論文を作成することが、本演習の目的である。						
到達目標	① 自己や他者の主題に対して、直観的立場や分析視角をもつことができる。 ② 自ら決定した主題についての結論を得るために、資料を検索する技術等を身につける。 ③ 自己の主題に対する自説を構想し、それを文章で表現・説明しうる力を獲得する。						
回	学習内容		回	学習内容			
1	研究倫理の確認／男女差別に関する判例の研究		16	転籍に関する判例の研究			
2	労働関係における人格権に関する判例の研究		17	男女雇用機会均等法に関する判例の研究			
3	休職に関する判例の研究		18	雇用平等法制の意義と射程に関する判例の研究			
4	過労自殺に関する判例の研究		19	解雇に関する法律文献の研究			
5	労働時間の意義に関する判例の研究		20	過労自殺に関する法律文献の研究			
6	内部告発に関する判例の研究		21	労働時間に関する法律文献の研究			
7	出向に関する判例の研究		22	内部告発に関する法律文献の研究			
8	障害者雇用に関する判例の研究		23	出向に関する法律文献の研究			
9	男女賃金差別と差額請求権に関する判例の研究		24	卒業論文の執筆方法			
10	労働者のプライバシーに関する判例の研究		25	男女差別に関する法律文献の研究			
11	解雇の合理的理由に関する判例の研究		26	労働関係における人格権に関する法律文献の研究			
12	過労死に関する判例の研究		27	解雇・過労自殺に関する卒業論文の報告			
13	労働時間の算定に関する判例の研究		28	労働時間・内部告発に関する卒業論文の報告			
14	公益通報者保護に関する判例の研究		29	出向・男女差別に関する卒業論文の報告			
15	法律文献の研究方法		30	労働関係における人格権に関する卒業論文の報告			
予習内容 復習内容	ゼミ生みずからが、教科書の該当頁を事前に一読すること等により予習し、自己の報告・発言でよかった点と足りなかった点を自己評価すること等により復習する。						
教科書	ジュリスト増刊『新・法律学の争点シリーズ7 労働法の争点』（有斐閣、2014年）、および『六法』が必要である。						
成績評価	平常点（演習に臨む意欲・態度、議論への参加度）50%、卒業論文（調査結果の整理、論点の解明、自説の展開等の可否）50%により、成績評価を行う。						
実務経験							
その他 特記事項	本演習では、学生の積極的な発言が期待されており、それゆえ、各ゼミ生は、自己の主題だけでなく、他者の主題に関する基本的な知識についても、事前に理解したうえで、演習に臨んでほしい。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
演習		古畑 淳	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的		共通テーマとして、社会福祉行政を舞台として行政法の論点について学習します。また、ゼミ生各自が関心を寄せる行政分野の裁判例について議論、検討します。以上の学びを通じて、行政法の基礎知識を確かなものとするとともに、各行政分野の特性を知り、憲法が定める理念の実現のための行政及び行政の法のあり方について学習します。					
到達目標		文献の購読、裁判例の検討、ゼミでの報告を通じて、行政法の論点を自身の言葉で説明できるようになること。また、多様な考え方を理解した上で、自身の見解を文章で表現できるようになること。その総まとめとして、自身が関心を寄せる行政分野について、裁判例を素材として卒業研究をまとめること。					
回	学習内容		回	学習内容			
1	前期ガイダンス（自己紹介、授業概要・演習の進め方・評価方法等についての説明）		16	後期ガイダンス（演習の進め方と卒業論文の執筆について）			
2	行政法とはどのような学問か（再び）		17	ゼミ生の報告：卒業研究のテーマと構想（章立て）についての報告			
3	裁判例の調べ方の再確認		18	ゼミ生の報告：卒業研究のテーマと構想（章立て）についての報告			
4	文献の調べ方の再確認		19	共通テーマ：児童虐待をめぐる行政法の論点①（虐待を受けた児童の安全確認と行政調査）			
5	ゼミ生の報告：関心を寄せる行政分野についての報告		20	共通テーマ：児童虐待をめぐる行政法の論点②（児童の保護をめぐる司法関与と行政争訟）			
6	ゼミ生の報告：関心のある行政法のテーマについての報告		21	ゼミ生の報告：裁判の争点に対する学説の検討報告			
7	共通テーマ：保育行政をめぐる行政法の論点①（保育所の廃止・民営化と行政事件訴訟）		22	ゼミ生の報告：裁判の争点に対する学説の検討報告			
8	共通テーマ：保育行政をめぐる行政法の論点②（保育所の利用と行政手続）		23	共通テーマ：生活保護をめぐる行政法の論点①（生活保護の受給・廃止の行政手続）			
9	共通テーマ：保育行政をめぐる行政法の論点③（保育所の利用をめぐる行政争訟）		24	共通テーマ：生活保護をめぐる行政法の論点②（生活保護の拒否・廃止に対する行政争訟）			
10	ゼミ生の活動：関心のある行政分野の裁判例を探す		25	ゼミ生の報告：裁判の争点に対する考察部分の報告			
11	ゼミ生の報告：裁判例の検討報告		26	ゼミ生の報告：裁判の争点に対する考察部分の報告			
12	ゼミ生の報告：裁判例の検討報告		27	共通テーマ：福祉施設の利用をめぐる行政法の論点（事故等に対する国家賠償、危険防止責任）			
13	ゼミ生の報告：裁判例の検討報告		28	ゼミ生の活動：卒業論文の報告資料の作成			
14	卒業論文の書き方と研究倫理		29	卒業論文の報告			
15	前期まとめ		30	後期まとめ			
予習内容 復習内容	報告レジュメを作成する。共通テーマで扱う裁判例、参考文献を読む。 報告と討論で得た学びを整理し、卒業論文の執筆を進める。共通テーマでの学びを整理する。						
教科書	教科書、参考文献等は初回講義時に提示します。 『ポケット六法』等の六法（最新年度版のもの）を持参して授業に臨んでください。						
成績評価	ゼミでの自身の報告（準備したレジュメの内容や報告での工夫等）とゼミへの参加状況（報告者に対する発言やゼミ運営への協力の姿勢等）を評価します（60％）。また、卒業論文等の成果物を評価します（40％）。						
実務経験							
その他 特記事項	行政法と地方自治法の授業を受講していることが望ましい。 学生の関心やゼミの進行状況により、各回の学習内容が変更となる場合があります。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
演習		浅野 和也	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	本演習では経営学の基礎理論をふまえて、主に経営者と労働者双方の視点から企業経営と社会・生活の関係について考察しグループディスカッション（GD）を通じて理解を深めていきます。同時に、自分の関心のあるテーマで卒業論文の完成をめざします。						
到達目標	経営者と労働者の視点双方から企業経営・労働に関する制度や政策の分析に取り組み、自分の考えをまとめることができるようになること。また、企業の施策が社会に何をもたらすのか、課題を抽出し自分の考えを卒業論文にまとめること。						
回	学習内容			回	学習内容		
1	ガイダンス：演習の進め方、研究倫理			16	卒業論文の進捗状況報告		
2	テーマの選定			17	文献通読：能力開発		
3	問題意識の確認			18	報告：能力開発		
4	論文執筆の意義			19	GD：能力開発		
5	論文の起承転結			20	文献通読：ワーク・ライフ・バランス		
6	文献通読：雇用			21	報告：ワーク・ライフ・バランス		
7	報告：雇用			22	GD：ワーク・ライフ・バランス		
8	GD：雇用			23	文献通読：労使関係		
9	文献通読：賃金			24	報告：労使関係		
10	報告：賃金			25	GD：労使関係		
11	GD：賃金			26	文献通読：ブラック企業		
12	文献通読：労働時間			27	報告：ブラック企業		
13	報告：労働時間			28	GD：ブラック企業		
14	GD：労働時間			29	卒業論文の最終確認		
15	卒業論文の進捗状況報告			30	総括：卒業論文の発表		
予習内容 復習内容	予習：資料・GDのテーマについて自分の考えをまとめておく。 復習：ゼミ内で議論したことをふまえて卒業論文のブラッシュアップを進める。						
教科書	未定、卒業論文のテーマ等に合わせて紹介・決定します。						
成績評価	毎回の出席は必須。通読のレジメや報告：30%、卒業論文：70%						
実務経験							
その他 特記事項	やむを得ず遅刻・欠席する場合は必ず連絡してください。 演習の主役は学生です。皆さんの積極的な発言を期待します。 経営学・人的資源管理論・労働法・ジェンダー論などを受講・受講予定であることが望ましい。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
演習		石原 洋介	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	・経済及び金融の基本的理解を得られるようにする。特に日本銀行の役割と金融政策の現状をテーマの柱の一つとして学習する。 ・日本経済・金融システムが抱える諸課題に対して、学生がテキストに基づいて報告し、討論を通じて理解を深めていく。 ・金融に関するテーマで卒業論文を執筆し、論理的に自分の考えを展開できるよう指導する。						
到達目標	・日本銀行が日本経済の中でどのような社会的機能を果たし、どのような金融政策を実施しているのかを理解し、討論の中で自分の考えを述べることができる。 ・現代の金融に関する課題に対して論理的に考察し、卒業論文の中で自説を展開することができる。						
回	学習内容			回	学習内容		
1	ガイダンス、研究倫理			16	夏季研修の振り返り		
2	金融とは何か・日本銀行は「銀行の銀行」			17	大学祭の企画立案		
3	避難訓練（予定）			18	人間性を育む－自画像の歴史		
4	日本銀行は「政府の銀行」・「発券銀行」			19	人間性を育む－計算高さから大まかさへ		
5	紙幣の発行について・日本銀行の設立			20	システムに精通する－遺産の克服		
6	金融政策の仕組み・日銀の政策委員会			21	システムに精通する－バブルと好景気と不景気		
7	ゼロ金利政策・「異次元」緩和政策			22	分配を設計する－経済のジェットコースター		
8	景気の動向を監視・アメリカの中央銀行 F R B			23	分配を設計する－お金を生み出すのは誰か？		
9	テキストまとめ			24	環境再生を創造する－上がったものは下がる		
10	経済学者になりたいのは誰か？			25	環境再生を創造する－惜しみなく与える都市誕生		
11	目標を変える－経済学はなぜ目標を見失ったのか			26	成長にこだわらない－危険すぎて描けない図		
12	目標を変える－二十一世紀のコンパス			27	成長にこだわらない－到着はまだか		
13	全体を見る－舞台を用意する			28	今や誰もが経済学者・付録		
14	全体を見る－社会 土台である			29	卒業論文指導		
15	卒業論文課題設定			30	卒業論文指導予備日		
予習内容 復習内容	予習：テキストの輪読箇所を読み込み、疑問点をもってゼミに臨むこと。 復習：学んだ内容が現実の社会でどのように現象しているのか、新聞やニュースで確認すること。						
教科書	・池上彰『改訂新版日銀を知れば経済が分かる』平凡社新書、2017 年。 ・ケイト・ラワース『ドーナツ経済』河出文庫、2021 年。						
成績評価	ゼミでの報告及び討論への参加（50％）、卒業論文（50％）						
実務経験							
その他 特記事項	・コロナ禍が収束すれば夏季に日本銀行・貨幣博物館・東京証券取引所の見学に行く予定。 ・出版状況や学生の興味関心に応じてテキストは変更する可能性がある。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
演習		大畑 智史	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	地方創生は、現在の日本における重要な論点の一つです。本演習では、その論点に関する議論などの取組みを通じ、履修生が、日本の地方が抱える問題の解決策を専門的に考えられるようになることを目標とします。						
到達目標	①地方創生の基礎的概念を理解できる。 ②地方創生の取組みなどの現状を理解できる。 ③地方創生策について専門的に考察することができる。						
回	学習内容		回	学習内容			
1	オリエンテーション：地方創生概観、研究倫理		16	文献講読、卒論経過報告、地方分権			
2	文献講読、卒論テーマ、国家財政		17	文献講読、卒論経過報告、公民連携			
3	文献講読、卒論テーマ、地方財政		18	文献講読、卒論経過報告、公共財			
4	文献講読、卒論経過報告、人口減少		19	文献講読、卒論経過報告、予算			
5	文献講読、卒論経過報告、少子高齢化		20	文献講読、卒論経過報告、社会保障			
6	文献講読、卒論経過報告、人口移動		21	文献講読、卒論経過報告、ふるさと納税			
7	文献講読、卒論経過報告、移民		22	文献講読、卒論経過報告、租税原則			
8	文献講読、卒論経過報告、ICT 活用		23	文献講読、卒論経過報告、国税			
9	文献講読、卒論経過報告、産業集積		24	文献講読、卒論経過報告、地方税			
10	文献講読、卒論経過報告、まちづくり		25	文献講読、卒論経過報告、国債			
11	文献講読、卒論経過報告、地域資源		26	文献講読、卒論経過報告、地方債			
12	文献講読、卒論経過報告、観光		27	文献講読、卒論経過報告、特定補助金			
13	文献講読、卒論経過報告、農業		28	文献講読、卒論経過報告、一般補助金			
14	文献講読、卒論経過報告、六次産業化		29	文献講読、卒論経過報告、財政健全化			
15	卒論経過報告会：地方創生策は何か		30	卒論最終報告会：地方創生策の効果			
予習内容 復習内容	予習：次回報告者の報告テーマについて調べる。 復習：今回の議論の内容と自分の卒業論文の内容との関連性について考え、これを整理する。						
教科書	教科書は特に指定しません。本演習関連の文献については、適宜紹介します。						
成績評価	出席（演習時の発言）：20% 卒業論文関係：80%						
実務経験							
その他 特記事項	・できるだけ、財政学関連の講義を受講して下さい。 ・学外学習を実施する予定です。 2022 年度訪問先：津市美杉町奥津、熊野市 2021 年度訪問先：名張市、多気町「VISION」						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
演習		田添 篤史	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	現代の社会には様々な課題がある。それらを考えるために、現代社会について様々な面から取り扱った経済学系のテキストを輪読し、自分の担当回の発表およびゼミ全体でのディスカッションを行う。そのうえでゼミ生が自ら卒業論文のテーマを決定し、それに関する調査および報告を行い、卒業論文を完成させることを目的とする。						
到達目標	① 現代の経済に関して重要と考える研究テーマを自ら設定し、テーマ設定の理由について説明することができるようになる。 ② 自分で設定したテーマに関して、卒業論文を完成させる。						
回	学習内容		回	学習内容			
1	演習の目標、評価方法の説明、研究倫理		16	卒業論文のテーマ発表			
2	経済の仕組みと経済政策		17	テーマを決定した理由についての発表			
3	日本の経済政策の歴史		18	テーマ選択の妥当性についての検討			
4	国土開発政策		19	先行研究の調査			
5	中小企業政策		20	先行研究についてのまとめ			
6	農業・食糧政策		21	先行研究に対する批判的検討			
7	労働政策		22	卒業論文の全体構成についての発表			
8	医療政策		23	卒業論文の構成についての検討			
9	住宅政策		24	主張の展開とその根拠づけについて			
10	コミュニティ政策		25	根拠づけの妥当性に関する検討			
11	財政政策		26	結論部分の発表			
12	金融政策		27	結論の妥当性についての検討			
13	科学技術政策		28	今後の課題について			
14	通商政策		29	卒業論文の発表			
15	開発援助政策		30	卒業論文に関するディスカッション			
予習内容 復習内容	予習：指定された文献について読んでおくこと。 復習：演習で行ったディスカッションをまとめておくこと。						
教科書	受講者と相談のうえで決定する。						
成績評価	ゼミでの発表およびディスカッションへの参加:60% 卒業論文:40%						
実務経験							
その他 特記事項							

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
演習		田中 里美	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的	大学で研究することの応用を学ぶ。社会科学をテーマとした自己の研究テーマを決定し、そのテーマについての資料収集を行う。そして、卒業論文を作成するために授業で報告し、教員やゼミ生からのアドバイスを基にして2年間の大学生活の集大成となる卒業論文を完成させることを目標にする。						
到達目標	1 卒業論文の報告 2 卒業論文のディスカッション 3 卒業論文の提出						
回	学習内容		回	学習内容			
1	ガイダンスー会計学分野での卒業論文の作成、研究倫理		16	経営分析的視点とディスカッション			
2	資料やデータ収集の仕方		17	内部留保分析視点とディスカッション			
3	教科書の報告 貸借対照表		18	粉飾決算分析的視点とディスカッション			
4	教科書の報告 損益計算書		19	卒業論文を作成するにあたって			
5	教科書の報告 キャッシュフロー計算書		20	卒業論文の執筆の注意事項（引用の仕方）			
6	教科書の報告 株主資本等変動計算書		21	卒業論文の執筆の注意事項（注の付け方）			
7	教科書の報告 その他付属明細書		22	卒業論文の報告 固定比率			
8	会計学的視点の総括とディスカッション		23	卒業論文の報告 回転率			
9	税務会計論的視点の総括とディスカッション		24	卒業論文の報告 売上高利益率			
10	卒業研究テーマの設定とディスカッション		25	卒業論文の報告 有価証券報告書の解説			
11	研究テーマの報告 ROA		26	卒業論文の報告 有価証券報告書の分析			
12	研究テーマの報告 ROE		27	各人の卒業論文の総括 業界分析			
13	研究テーマの報告 資本利益率の総括		28	各人の卒業論文の総括 業種分析			
14	研究テーマの報告 流動比率		29	各人の卒業論文の総括とディスカッション			
15	研究テーマの報告 当座比率		30	卒業論文の提出と全体総括			
予習内容 復習内容	予習：教科書に目を通す。 復習：卒業論文にまとめる。						
教科書	初回の授業で指定する。						
成績評価	卒業論文の提出 80%、演習での積極的な参加や発言 20%、合計 100%						
実務経験							
その他 特記事項	ゼミ生同士の親睦も深めたいので、積極的な参加を期待する。 ゼミ生の人数により、スケジュールが変わることがある。 正規時間外に学習を行うことがある。						

科目名		担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP
演習		鷲尾 和紀	演習	4		1, 4	1, 2, 3, 5
授業概要 授業目的		本演習は、主としてサービス業を中心としたマーケティング戦略を学修します。今日サービス業が多数ある中、マーケティングにおいて「サービスとは何か」を考える必要があります。そのためには生活者の価値観の多様化に対応した市場細分化によるターゲット分析とマーケティング・ミックスの実践をより深く理解することが求められます。これら内容の発表や討論を繰り返すことでコミュニケーション能力を鍛えます。					
到達目標		今までの知識と経験を合わせてアウトプットできるように創造性・思考力・判断力・表現力を育みます。学生生活を通じて自己分析を行い、将来に向けて成長できることを目的とします。また実社会で活躍できるようにゼミ内で組織力を高めることを目標とします。最終的にはマーケティング戦略のテーマに沿って論文の作成を目標とします。					
回	学習内容			回	学習内容		
1	マーケティングの基礎概念・研究倫理			16	目標管理シートの作成		
2	マーケティング戦略の意義			17	課外活動 FW(一身田商店街)		
3	サービスの4つの特性			18	課外活動 FW(発表・討論) 商店街の事例研究		
4	サービス特性(発表・討論)			19	地域サービス業の企業研究		
5	サービス業の企業研究			20	課外活動 企業訪問		
6	サービス業の企業研究 (討論)			21	動物CM起用・ヤギの放牧ビジネス事例 (討論)		
7	ペットボトルの価格設定戦略			22	論文の書き方・論文テーマの設定		
8	ペットボトルの価格設定 (発表・討論)			23	論文の参考資料の集め方		
9	ペットボトルの価格設定 (発表・討論)			24	レジ袋有料化に伴う、プロモーション戦略の影響		
10	ポジショニング・差別化戦略			25	論文テーマ報告		
11	ポジショニング・差別化戦略 (討論)			26	論文テーマ報告・討論		
12	環境マーケティングの事例研究			27	論文 論文作業の取組		
13	シェアリングエコノミー			28	論文テーマ報告		
14	環境マーケティングの事例研究 (発表)			29	論文テーマ報告・討論		
15	シェアリングエコノミー(発表)			30	論文報告会		
予習内容 復習内容		予習：テキストを通読 復習：テキストの内容、個々の発表の内容を確認する。					
教科書		鷲尾和紀(2016)『パーソナルファイナンシャル・サービス・マーケティング』発行：創成社 参考図書は必要に応じて講義中に紹介します。					
成績評価		出席・レポート・積極的な授業態度等発言50%。論文作成50% 無断欠席は厳禁。					
実務経験							
その他 特記事項		マーケティング論Ⅰ・経商基礎演習を受講していることが望ましい。					